ヲ造リ角々鐵箍ヲ以テ締ムベシ

日本ノ商人ハ古來內國ノ商業ヲノミ從事シ遠ク荷物ヲ運搬スルニ慣レザレハ動モスレハ荷造ヲ粗末ニスル風アリテ荷造ニ金錢ヲ投ズルハ無益ノ事ナリト思惟スルモノ多ケレヒ海外ノ貿易ハ數千里波濤ヲ超ヘ且ツ濕船濕車ノ積ミ卸シ荷物ヲ粗末ニ取扱フコトナレハ一層注意ヲナスコト緊要ナルベシ而シテ雜貨品ノ如キ一組或ハ一對ヲ以テ賣買スルモノハ一個ノ破損ニテモ全躰ノ瑕物ニ同シケレハ不量ノ損失ヲ來スコトアリ荷物ノ容積ノ大小ニ由リ稅金ノ多寡ニ關スルコトアリ加拿陀稅則ニハ一呎立方ニ付稅金何程ト計算スルモノアリ又重量何斤ニ付稅金何程ト定ムルモノアリ若クハ何個何本ヲ以テ課稅スルモノアリ故ニ荷造ヲ爲スニハ稅金賦課ノ計算ニ都合宜シク又精々稅金ノ輕クナル樣ニ注意スベシ例ヘハ酸類酒類ノ如キハ精分ノ强弱

ニ由リ一ガロンニ付何程又從價稅何程ヲ徵收スルモノナレハ其强度ヲ試驗シ一ガロン或ハ二ガロン入ノ樽詰或ハ壜詰ト爲シ置ク時ハ稅金支拂ニ甚タ便利ヲ感スルモノナリ傘或ハシヤツ、ハンケチノ如キハ一打ニ付稅金何程トノ計算ナレハ日本流ニ十本或ハ十枚ツヽ一包或ハ箱詰ニスルハ計算ニ煩ハシキノミナラス商業上ニ影響ヲ及ボスモノナリ玉突臺或ハ木材ノ如キ長サ及幅ニ付稅金ヲ課スルモノハ其定メタル寸法ヨリ少シニテモ長キ時ハ二倍ノ稅金ヲ課セラルヽアリ蜜柑百合根等ハ無稅ナレヒ箱稅ト稱シテ一尺立方ニ付何程ト科稅スルモノナレハ一尺以上ハ一寸ニテモ二尺ノ稅金ヲ課ス總テ右ノ次第ナレハ荷造ト稅則ノ關係大ナリト知ルベシ

第二　發送ノ事　總テ荷物ノ發送ハ會社ニ托スレハ安全ニシテ且ツ迅速ナリ、凡ソ荷物ノ送達ニ就テ誤失ノ生シ易キハ不注意ニアリ、例ヘ

ハ荷受人ノ住所姓名ヲ誤書シ若クハ其不明瞭ナルトキハ、其屆先ノ判然明瞭スル迄ハ何々月ト雖ヒ税關ノ倉庫ニ入レ置キ倉敷料ヲ課セラルヽナリ、又荷物ト同時ニ荷送狀及荷揚狀ヲ郵送セサルモノアリ、或ハ之ヲ郵送スルモ荷送狀ノ金額ヲ大ニ減シテ税關ノ目ヲ掠メントスルモノアリ又荷送狀ヲ日本文ニ書シタルモノアリ、是レ曾不慣ヨリ起レルモノニシテ該地税關ニテ往々見ル所ナリ、サレハ荷送狀及荷揚狀ハ必ス荷物ト同時ニ發送シ、日本ノ原價ヲ記シ決シテ金額ヲ詐ルヘカラス、該地ノ税關吏ハ皆日本商品ノ價格ヲ熟知セルナリ、又荷送狀ハ英文ニ書スベク適當ナル英語ナキモノハ羅馬字ニテ書シ註釋ヲ加フヘシ、荷物ニシテ急速ニ到着ヲ要シ容易ニ税關ヲ通過セシメント欲セハ、在日本英國領事ノ奥印ヲ得テ送ルベシ、僅少ノ手數料ヲ拂ヘハ故障ナク税關ヲ通過ス若夫レ多年貿易ニ從事シテ經驗アルモノ税關吏ニ面識アルモノハ右ノ手續ヲナスヲ要セザルナリ

第三　運賃ノ事　運賃ハ總テ前拂ニシテ別ニ海上保險料ヲ拂ハサルヘカラス、運賃ハ定額アレヒ其實ハ有リテ無キモノヽ如ク會社ト談判シテ割引スルコト屢アルナリ、殊ニ荷物ノ寡少ナルトキノ如キハ(假荷)ノ代リニ非常ニ廉ナル賃金ニテ許諾スルコトアリ故ニ商人ハ能ク注意スベシ、通常ノ定價ハ横濱晩香波間一噸ニ付物品ニヨリ八弗ヨリ十五弗迄トス、中ニハ一噸三十弗乃至三十五弗ノモノアレトモ實ニ僅々ノミ先ツ平均十弗トナセハ大差ナカルベシ、容積ノ一噸ハ四十立方呎ニシテ重量ノ一噸ハ二千英斤トス、又噸數ヲ以テ計算セサルモノアリ例ヘハ家畜ハ一頭ヲ何弗トシ水銀ハ一噸ニ付七十五仙ノ如キ是レナリ、其他死屍ハ一人五十弗トス彼國ヨリ輸出スル小麥粉及ヒ木材等ハ非常ノ割引ヲ爲スナリ又家畜ノ運送ニハ監護人トシテ一人無

賃ニテ付添ヲ許ス、其詳細ハ運賃表ニ就テ之ヲ見ルヘシ

第四　稅則ノ事　加拿陀政廳ハ製造及農業ヲ保護センガ爲メ輸入品ニ重稅ヲ課シ、以テ自國ノ產ト競爭スル能ハサラシム、サレトモ其國ニ產セサルモノ又製造シ能ハサルモノハ無稅ニテ輸入スルコトヲ得セシムル故ニ新ニ彼ノ國ニ輸出ヲ企テント欲スルモノハ宜シク稅則ニ照シテ稅ノ有無高低ヲ檢案スヘキナリ勿論稅金ハ總テ發送者ノ負擔スヘキモノニアラサレトモ、其如何ハ大ニ商品ノ賣捌方ニ影響スルヲ以テ敏捷ナル商人ハ常ニ國會ニテ議決スル次年ニ於ケル稅率ノ廢置高下ニ注目スルナリ、加拿陀並ニ合衆國ノ國會ニテハ主トシテ海關稅則ニ吻々シ、本邦ノ如ク唯豫算案ニ喋々スルノ比ニアラス、故ニ此等ノ國ニ於ケル貿易ハ稅率ノ如何ニヨリテ其盛衰ヲトスヘキナリ、其他注意スヘキハ輸入禁制品ニシテ若シ禁制品ノ密輸入ヲ覺知セラルヽ

トキハ其物品ヲ沒收シタル上ニ重キ罰金ヲ課セラレ剩ヘ己ノ信用ヲ墜スノミナラス他ノ正直ナル商人ニ迄モ害ヲ被ラシム其所以ハ稅關吏ヲシテ以後一層綿密ノ調査ヲ爲サシメ容易ニ荷物ヲ通過セシメズ爲メニ商機ヲ失シ大損ヲ招クニ至レハナリ、サレハ一人ノ過失ハ以テ不幸ヲ幾多ノ商人ニ及ホスモノナレハ深ク愼マサルベカラス、從來本邦商人ノ信用ヲ外國ニ失シタルハ重ニ其所爲ノ不正ニ起因ス、今ニシテ德義ヲ養ヒ信用ヲ復スルニアラサレハ我商品ノ販路愈ヨ杜絕スルニ至ラン尙ホ注意スベキハ合衆國ニ輸送スル貨物ニシテ加拿陀ヲ通過スルノミニ止マレハ二度ノ關稅ヲ課セラルコトナシト雖モ一タヒ加拿陀ニ荷卸シタル後更ニ之ヲ各衆國ニ輸出スレハ二重ノ稅ヲ拂ハザルヲ得ス尙稅關稅則ニ關シテノ詳細ハ其章ニ附テ見ルヘシ

第五　汽船ノ發着及荷物ノ取扱　商賣ハ時期ニ後レサルヲ以テ要

譯トス加拿陀ノ如ク數千里ヲ隔リタル地ニ輸送スルニハ殊ニ時期ヲ失セザルヤウ注意シテ積荷スヘシ例ヘハ十二月二十五日ハ耶蘇祭日ニシテ本邦ノ元旦ノ如ク年中唯此一日ヲ以テ商賣ノ吉凶ヲトスル位ナレハ其日限ニ後レテ着スル荷物ハ時期ヲ失スルノミナラス祭日用ノ商品ノ如キハ殆ント平常ニ用ナキモノ多キカ爲メニ損失ヲ受クルコト少シトセス又早キヲ要スルトテ二三ヶ月前ニ送ルアレハ或ハ破損ヲ生シ或ハ汚穢ヲ來シ或ハ腐敗ヲ釀スコトモアレハ、常ニ汽船ノ發着ニ注意シテ早キニ失セス又後レザルコトヲ肝要トスベシ横濱晩香波間汽船ノ發着ハ載セテ渡行手引ノ中ニアリ就テ見ルベシ、又荷物ノ取扱ニ關シテハ會社ト協議シ約束ノ條件ヲ定ムヘシ、例ヘハ荷物ノ種類ニ由リテ蒸汽鑵ノ傍又ハ船底ニ積マサルコトヲ約シ、又乾燥ヲ要スルモノハ甲板上ニ配置シ空氣日光ニ曝ラサシムルヲ約スルカ如シ、此等ノ注意ハ、特ニ周到ナラザルヘカラス

第六　晩香波港貨物陸揚手續　貨物ヲ加拿陀ニ輸送試賣セントシ又ハ商店ヲ彼ノ土ニ開設セントスル商人ニシテ晩香波港貨物陸揚手續ヲ知ラサルガ爲メ遂ニ其志ヲ遂ケ得ザルモノナシトセズ斯ノ如キハ遺憾ノ至リニ堪ヘサルナリ固ヲ左ニ其手續ノ一斑ヲ示サン

仕入書ニ因テ陸揚願書ヲ作リ船積證書ト共ニ稅關受付ニ差出シ其指揮ヲ俟ツベシ受付ハ能ク其書類ヲ調査シ仕入書及願書ニ疑點或ハ誤件ナキモノハ稅官吏ノ前ニ於テ荷受人ヲシテ其旨ヲ誓ハシメ(誓トハ聖書ヲ頂キ接吻セシム)速時納稅セシム若又仕入書ニ疑點アレハ之ヲ却下シ願書ニ誤件アレハ幾度ニテモ其式ニ適合スル迄訂正セシムルナリ陸揚願書ハ用紙ニ認メ稅關規則ニ符合セザルベカラズ用紙ハ印刷ニ付シ通常書肆ニ於テ販賣スレハ之ヲ購求シ稅關規則ト參照シテ

記載スベシ但不案内ノ人々ハ税關周旋人(Custom Broker)ニ依頼スルヲ可トス其手數料ハ仕入書ノ長短ニ因リ二弗五十仙乃至五弗トス左ニ簡單ナル仕入書(輸出入手續ノ部ニ記載シタル仕入書ニ就テ陸揚願書ヲ記シ以テ讀者ノ參考ニ供セン

税金ヲ納ムレハ納税濟證書ヲ税關ヨリ附與スルヲ以テ他ノ書類ト共ニ携帶シ埠頭ニ往キ加拿陀大平洋濵船會社出張所ニ至リ之ヲ差出スヘシ然ルトキハ在日本汽船會社ヨリ廻來リタル書類ト對照シテ確實ナル者ト認タル上ハ制規ノ運賃若若先拂ナレハ倉敷及陸揚料ヲ計算シテ之ヲ荷受人ニ渡ス荷受人ハ諸拂ヲ了シ領收書ヲ領收シテ税關檢査課ニ持行キ領收書ヲ示シ荷物受取方ヲ請求セハ官吏ハ貨物ヲ檢査シタル上誤リナクンハ直ニ貨物引取差支ナキ證書ヲ渡ス荷受人ハ荷車ヲ雇ヒ其書付ヲ以テ上屋掛ニ示セハ上屋掛ノ指揮ニ由リ貨物引取

FOR DUTY.

Report No. .....

PORT OF VANCOUVER, B. C. June, 10th, 1891.

Entry No. .....

Imported by K. Yamashita & Co. per Empress of Japan John William Master, from Yokohama to Vancouver.

MARKS AND NUMBERS.	No. OF PACKAGES.	DESCRIPTION OF GOODS.	AMOUNT IN CURRENCY OF INVOICE.	VALUE FOR DUTY IN DOLLARS.	QUANTITY.	RATE OF DUTY.	DUTY.
			Yen.				
A Vancouver.	1	Goods Purchased in Bishu tea Set	75	60	50 Sets	30%	18 00
$ 1	1	Ladies Embd. Silk hankfs.	60	48	20 Doz	,,	14 00
$ 2	1	Kishu Lacd troys	25	20	100 Pis	35%	7 00
,,	1	Bamboo Canes	10	8	100 Pis	25%	2 00
$ 3	1	Matting	15	12	3 Rolls	,,	3 00
$ 4							44 00

ヲナス順序ナリ(陸揚手續ノ書式爰ニ記ス)

檢査課ニ於テ信用アル商人或ハ無稅品ハ其ノ手續容易ク且ツ直ニ引取ヲ許可スヘシト雖トモ不信用ノ商人(通常日本人及支那人ニ多シ)ハ時トシテ一二箱或ハ各箱トモ檢査ヲナスカ爲ニ數日ヲ要スルコト少ナカラスシテ至急ヲ要スル荷物ノ如キハ往々販路ヲ失スルニ至ルナリ故ニ今後日本人ノ信用ヲ一層厚カラシメンニハ仕入書ヲ英文ニテ書シ正當ニ且ツ精密ニ記載スルヲ要ス貨物ノ記號番號個數幷ニ箱ノ番號等現物ニ照シテ毫モ誤リナク又貨物ノ價格ハ眞實仕入格價ヲ記スル樣ニ注意スレハ將來日加兩國間ノ貿易ニ莫大ノ補益アルヤ必セリ

第七　米國桑港輸入貨物陸揚手續　桑港領事ノ報告ニ由リ左ニ該地貨物陸揚手續ノ概畧ヲ記セン　桑港ニ於ケル輸入荷物陸揚ノ手續ハ他ノ米國諸港ト異ルコトナク總テ大藏省ニテ制定シタル稅關規則ニ從ヒナスモノニシテ船舶ノ着港スルヤ直ニ陸揚ヲナシ稅關官吏ハ各種ノ物品ニ就キ一割ヲ見本トシテ預リ、稅額ヲ定ムル爲メ之ヲ評價人ニ送リ殘商品ハ輸入者ヨリ見本品ト相違ナキ旨ヲ保證シタル證書ヲ差入レ引取ルコトヲ得セシム(此保證書ニハ二名以上ノ保證人ヲ要シ手數料トシテ一事件ニ付六十仙ノ納入ヲ要ス)然レトモ物品ニヨリ(例ヘハ絹布、陶磁器雜貨ノ類)荷物全躰ヲ檢査スルヲ通例トス偖稅額定マリタル後ハ荷主ノ望ニヨリ稅金ヲ皆納シ荷物ヲ引取ルカ又ハ稅關倉庫ニ預ケ入レ稅納入ノ延期ヲナスコトヲ得但見本品ヲ殘シ商品ヲ引取リシ場合ニハ稅額決定ノトキ即時納金ヲナシ見本品ノ下附ヲ受ク(第二號第三號ノ米國輸出入者ヘ注意セシ項ナ參照スヘシ)

桑港ニ於テハ各船舶一般棧橋ニ繫泊シ甲板上ヨリ直ニ荷物ヲ陸揚ス

ルヲ以テ艀船ヲ要セス然レトモ石炭硫黄ノ如キモノハ往々荷主船主間ノ都合ニ依リ海上ニ於テ艀船ニ積取リ他ノ諸港ニ輸送スルコトアリ偖荷物陸揚ニ關スル諸費ハ船主ニ於テ負擔スルノ慣習ナレハ荷主ニ於テ仕拂ノ要ナシ若シ特別ノ契約ニヨリ荷主自ラ其入費ヲ負擔スルノ場合ニハ一日ノ賃金二弗ヨリ四弗ヲ以テ人足ヲ雇使スル「通常ナリ」

荷物引取ニ關スル願書其他ノ手續繁雜ナルヲ以テ不斷輸入商品ヲ取扱フモノヽ外ハ通常「カストムハウス、ブローカー」即チ税關扱人ニ委頼シ荷物ノ引取ヲ了セシム

此扱人ノ手數料ハ一定ナルモノニ非スシテ手數ノ難易ニヨリ定ムルモノナレハ豫メ一事件若干ト示シガタシ然レドモ大畧送狀一通ニ付二弗半ヨリ廿五弗迄ノ間ニシテ本邦ヨリ來ル茶、生絲、食料品等ノ類ニ對スル手數料ハ通常三弗ヨリ五弗ノ間トス若シ送狀中種々ノ物件ヲ混記各々別段ノ評價ヲ要スル等ノ場合ニハ其物品價額ノ多少ニ拘ハラズ手數料自ラ上リ之ニ反シテ送狀中ニ多量ノ物品ヲ記載スルモ單一ノ評價ヲ要スルモノ[illegible]ハ手數料廉ナリ[illegible]

桑港ニテハ貨物運搬上ニ付船渠内鐵道ノ便ニヨルコト能ハザレハ(但シ紐育、シカゴ其他東方諸市發送ノ貨物ハ直ニ汽車ニ積入無檢査ノ儘之ヲ輸送ス)而シテ此雇賃一英里内一噸ニ付凡七十五仙トス又日數ニ依テ賃銀ヲ定ムルトキハ四頭曳一日凡ソ十三弗、二頭曳凡八弗、一頭曳凡ソ五弗トス輸入商店ハ輸入及諸掛費用ノ外ステート、トールト稱シ通常商品一噸ニ付五仙ヲ課税ス

第四項　加拿陀ニ於ケル外國貿易

茲ニ千八百九十年ノ加拿陀稅關年報ニ據リ輸出入並ニ各國貿易ノ消長及出入船舶ノ景況ヲ譯載シ讀者ヲシテ外國貿易ノ一斑ヲ知ラシメントス

輸出入

千八百八十九年七月ヨリ仝九十年六月ニ終ル一年間ノ輸入總額ハ一億二千百八十五萬八千二百四十一弗輸出總額九千六百七十四萬九千百四十九弗、合計二億千八百六十萬七千三百九十弗ニシテ之ヲ前年度ニ比スレハ輸入ニ於テ六百六十三萬三千三百十弗、輸出ニ於テ七百五十五萬九千九百八十二弗ヲ增セリ、而シテ加拿陀各州聯合以來二十三ケ年間ノ貿易高ヲ通觀スルニ千八百八十二、八十三ノ兩年度ヲ除キテハ千八百九十年度ヲ以テ最高額ヲ占メタリトス、左ニ最近三ケ年ノ輸出入總高ヲ對比スレハ

年度	輸入	輸出	合計
千八百八十八年	一一〇、八九四、三〇〇弗	八九、〇二〇、三〇〇弗	二〇、一〇九、六三〇
千八百八十九年	一一五、三二四、三一一	八九、一八九、一六七	二〇四、四一四、九八
千八百九十年	一二、八五八、三四二	九六、七四九、一四九	二一八、六〇七、三九〇

輸入重要品並輸出品種別

輸入ノ當國ニ於ケル輸入(國內消費)品ノ內其金高百萬弗以上ニ昇リシモノヲ前年度ニ對比スレハ

品目	千八百九十年	千八百八十九年
有稅品總高	七七、一〇六、二八六弗	七四、四七五、一三九弗
毛及毛織製品	一一、〇一七、二六一	一〇、四一四、九六三
鐵及鋼ノ製品	一〇、五七二、三六八	九、六八〇、九六七
各種砂糖	五、一八六、一五八	五、八三七、八九五

鹽業出張所	一
鹽業倉庫	二
鹽業試驗所	三
鹽業學校	四
鹽業團體	五
鹽業會議	六
鹽業調查	七
鹽業獎勵	八
鹽業其他	九
鹽業總計	一〇

鹽專賣	一
鹽專賣收入	二
鹽專賣支出	三
鹽專賣其他	四
鹽專賣總計	五
酒專賣	六
酒專賣收入	七
酒專賣支出	八
酒專賣其他	九
酒專賣總計	一〇
煙專賣	一一
煙專賣收入	一二
煙專賣支出	一三
煙專賣其他	一四
煙專賣總計	一五
樟腦專賣	一六
樟腦專賣收入	一七
樟腦專賣支出	一八
樟腦專賣其他	一九
樟腦專賣總計	二〇
其他專賣	二一
其他專賣收入	二二
其他專賣支出	二三
其他專賣其他	二四
其他專賣總計	二五

關稅	一
關稅收入	二
關稅支出	三
關稅其他	四
關稅總計	五
出口稅	六
出口稅收入	七
出口稅支出	八
出口稅其他	九
出口稅總計	一〇
進口稅	一一
進口稅收入	一二
進口稅支出	一三
進口稅其他	一四
進口稅總計	一五
轉口稅	一六
轉口稅收入	一七
轉口稅支出	一八
轉口稅其他	一九
轉口稅總計	二〇
關稅收入總計	二一
關稅支出總計	二二
關稅其他總計	二三
關稅總計	二四

雜稅	一
雜稅收入	二
雜稅支出	三
雜稅其他	四
雜稅總計	五
屠宰稅	六
屠宰稅收入	七
屠宰稅支出	八
屠宰稅其他	九
屠宰稅總計	一〇
娼妓稅	一一
娼妓稅收入	一二
娼妓稅支出	一三
娼妓稅其他	一四
娼妓稅總計	一五
鴉片稅	一六
鴉片稅收入	一七
鴉片稅支出	一八
鴉片稅其他	一九
鴉片稅總計	二〇
牙稅	二一
牙稅收入	二二
牙稅支出	二三
牙稅其他	二四
牙稅總計	二五
當稅	二六
當稅收入	二七
當稅支出	二八
當稅其他	二九
當稅總計	三〇
屋稅	三一
屋稅收入	三二
屋稅支出	三三
屋稅其他	三四
屋稅總計	三五
地稅	三六
地稅收入	三七
地稅支出	三八
地稅其他	三九
地稅總計	四〇
其他雜稅	四一
其他雜稅收入	四二
其他雜稅支出	四三
其他雜稅其他	四四
其他雜稅總計	四五

男女帽子類	一
織造同製品	二
皮革同製品	三
雜木	四
乾菓並硬果	五
穀物粉類	六
漁產品鹽產品	七
鹽產	八
漁產十八種中各種產額	九
鹽業產業產物	一〇
鹽業產業產物之種類	一一
鹽業出張所	一二
鹽業倉庫	一三
鹽業試驗所	一四
鹽業學校	一五
鹽業團體	一六
鹽業會議	一七
鹽業調查	一八
鹽業獎勵	一九
鹽業其他	二〇
鹽業總計	二一

木綿織製品	一
石炭及「コークス」	二
絹織製品	三
乾酪乾酪「ケーゼ」及肉類	四
玩物各種	五
酒類	六
木及同製品	七
竹藤及其他製品	八
各種金屬製品	九
各種機械器具	一〇
各種化學品	一一
各種材料及製藥	一二
書籍並定期出版物	一三
其他專賣	一四
其他專賣收入	一五
其他專賣支出	一六
其他專賣其他	一七
其他專賣總計	一八

製造並半製造品	一二、五〇六、八九七	一二、二三四、九六四

但シ前記ノ輸入高ハ國內消費ニ屬スル分ノミヲ掲ゲタレハ總輸入高ト符合セズ

輸出

品目	千八百九十年	千八百八十九年
內國產輸出總高	二、八五、二五七、五八六弗	七七、二〇一、八〇四弗
鑛產	四、八五五、七五七	四、四一九、一七〇
漁產	八、四六一、九〇六	七、二一二、二〇八
森林產	二六、一七九、一三六	二三、〇四三、〇〇七
獸畜並其所產	二五、一〇六、九九五	二三、八九四、七〇七
農產	一二、九〇八、〇三〇	一三、四一四、一一一
製造品半製	五、七四一、一八四	四、四三四、九四九

以上ノ兩表ニ據レハ輸入品ノ中千八百九十年度ニ於テ前年度ヨリ減少シタルモノハ各種砂糖、木綿織製品、絹織製品、乳酪、乾酪、ラード及肉類、玩物各種、木及同製品、苧麻及黃麻製品、男女帽子類、皮及同製品、鑛產物、農產物等ニシテ其增加シタルモノハ毛及毛織製品、鐵及銅ノ製品、石炭及「コトン」、酒類、各種穀物、藥材及製藥、書籍並定時其他出版物、玻璃及同製品、紙並同製品、糖、水、乾菓及硬果、漁產、森林產、獸畜及其所產物、製造並半製造品等ナリ、右減少品ハ未製品及食物ニ少ナクシテ製造品ニ多シ、增加品ハ未製品及食物ニ多クシテ製造品ニ少キハ蓋シ當國人口ノ增加ト工業ノ發達トニ因ルナラン

各國貿易高ノ消長

加拿陀ニ對スル各國貿易高ノ消長ヲ示スハ有益ノ事ト信スルヲ以テ左ニ最近三箇年間ノ輸出入高國別表ヲ掲ク

國名	千八百九十年	千八百八十九年	千八百八十八年
北米合衆國	九三、八一四、〇〇〇、〇〇〇	九四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	九一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
英吉利	九七、七四三、〇〇〇	八〇、〇〇〇、〇〇〇	七九、〇〇〇、〇〇〇
西ノ印度	五、八〇八、〇〇〇	六、一〇〇、〇〇〇	五、八〇〇、〇〇〇
獨逸	四、八二六、〇〇〇	五、八〇〇、〇〇〇	八、五〇〇、〇〇〇
佛蘭西	二、八九四、〇〇〇	五、五〇〇、〇〇〇	二、六〇〇、〇〇〇
南亞米利加	三、五五五、〇〇〇	三、八〇〇、〇〇〇	三、九〇〇、〇〇〇
新アンドレアス	六、五五、〇〇〇	六、七〇〇、〇〇〇	三、五〇〇、〇〇〇
日本	一、二八五、〇〇〇	一、三〇五、〇〇〇	一、二七二、〇〇〇
葡萄牙	八七六、〇〇〇	八四〇、〇〇〇	九二〇、〇〇〇
白耳義	七六三、〇〇〇	五九〇、〇〇〇	四二〇、〇〇〇
和蘭	四、三二〇、〇〇〇	四、三二〇、〇〇〇	三、三〇〇、〇〇〇
西班牙	三九二、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	三、六四二、〇〇〇
瑞西	三一六、〇〇〇	六九〇、〇〇〇	三、二六〇、〇〇〇
葡萄牙	二九一、〇〇〇	二三〇、〇〇〇	二、三三〇、〇〇〇
伊太利	二四四、〇〇〇	二三〇、〇〇〇	二、八〇〇、〇〇〇

前表ニ據レハ米英二國ハ當國貿易全額ノ凡ソ九分ヲ占メタリ、又千八百九十年度ニ於テ前年度ヨリ減少ヲ來タル國ハ米、西印度、南亞米利加、新アンドレアス、西班牙ノ五國ニシテ其他ノ十國ハ總テ增加セリ、殊ニ英國、獨國、白耳義及瑞西ハ割合ニ多ク增加シ日本ノ貿易高モ前年度ニ比スレハ凡ソ八萬弗、前々年度ニ比スレハ凡ソ一萬二千弗餘ヲ增セリ、又左ニ千八百九十年度ニ於ケル各國ノ輸出入高ヲ區別スレハ[illegible]

國名	(加拿陀ヨリ輸入)	(加拿陀ヨリ輸出)
北米合衆國	五三、三九〇、〇〇〇弗	四〇、五三二、〇〇〇弗

英吉利	四三、三九〇、〇〇〇	四八、三五三、〇〇〇
西印度	三、〇八九、〇〇〇	二、七一九、〇〇〇
獨逸	三、七七八、〇〇〇	五、〇七〇、〇〇〇
佛蘭西	三、六一五、〇〇〇	二、七八〇、〇〇〇
墨西哥	一、〇〇三、〇〇〇	一、五五一、〇〇〇
新フランドル	四、六九〇、〇〇〇	一、一八五、〇〇〇
伯剌西爾	一、三五八、〇〇〇	二、六〇〇、〇〇〇
支那	八、四一〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇
白耳義	七、二一一、〇〇〇	四、一〇〇、〇〇〇
和蘭	四、二一一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
西班牙	三、二一一、〇〇〇	六、九〇〇、〇〇〇
瑞西	三、一六〇、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇

葡萄牙	八、四〇〇、〇〇〇	二、〇七〇、〇〇〇
伊太利	一、六五〇、〇〇〇	八、一〇〇、〇〇〇

右ノ表ニ載スル貿易高ニ對シ其輸入ハ加州ノ入港シタル多キ國ヲ擧ケ以テ獨逸、佛蘭西、日本、支那、白耳義、和蘭、西班牙、瑞西及伯剌西爾ニシテ其輸出ハ多キ國ハ新フランドル及葡萄牙等ナリ、又最近三箇年間日本加拿陀間輸出入高ニ對シ其輸入高ニ對シ其輸出入高ハ次ノ如シ

年度		輸出	輸入
日本	千八百八十八年	一、二一二、〇〇〇	一、三五八、〇〇〇
	〃 千八百八十九年	一、一二〇、〇〇〇	一、一一一、〇〇〇
	〃 千八百九十年	一、二八二、〇〇〇	一、二六二、〇〇〇
合計		一、三七一、〇〇〇	一、三九一、〇〇〇
支那	〃 千八百八十八年	一、〇一二、〇〇〇	九、八八〇、〇〇〇
	〃 千八百八十九年	一、二二三、〇〇〇	八、一二〇、〇〇〇
	〃 千八百九十年	一、二四二、〇〇〇	八、三四〇、〇〇〇
合計		一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

前表ニ載セル日本、加拿陀間ノ貿易高ヲ支那、加拿陀間ノ貿易高ニ比シ殊ニ支那、加拿陀間ノ貿易ハ日本、加拿陀間ノ貿易ニ比シ

甚タ面白カラサル現象アリ、即チ千八百八十九年度ノ貿易ハ日、支兩國トモ前年度ヨリ減少タルト雖モ就中支那ノ減少ハ割合ニ多ク而シテ千八百九十年度ノ貿易ハ日、支兩國トモ前年度ヨリ增シ日本ノ貿易高ハ前年ノ減少ヲ恢復シテ前々年度ヨリ一萬二千弗餘ヲ超過シタルモ、支那ノ貿易高ハ尙ホ前々年度ニ及ハサルコト十一萬弗餘ナリ、又茲ニ千八百九十年度ニ於ケル日本、支那及加拿陀間ノ輸出入重要品ヲ擧クレハ(但茲ニ輸出ト稱スルハ加拿陀ヘノ意ナリ)

種別	輸出本(內國產)[illegible]	輸出本(外國產)[illegible]	輸出合計
蔬菜類	八〇〇〇	二〇三〇〇〇	二〇三〇〇〇
鑛產	七三〇〇	一〇	七三〇〇
海產	一四八〇	三〇二四	三〇二四
森林產	七三八〇	二六三九九	二六三九九
獸畜及其所產	二三四四	(內)[illegible] (外)[illegible]	(內)[illegible] (外)[illegible]
農產	四三五二	(內)[illegible] (外)[illegible]	(內)[illegible] (外)[illegible]
製造品	(內)九二七五 (外)[illegible]	(內)[illegible] (外)[illegible]	(內)[illegible] (外)[illegible]
雜品	(外)一二	(內)[illegible]	(內)[illegible]
輸入稅有稅品	六九二八五	四一六二三九	[illegible]
同無稅品	一二八九二五六	四二五三八五	[illegible]
輸入合計	一二五八四四七	八四二六三四	[illegible]
輸內國	[illegible]	[illegible]	[illegible]
紅茶	三〇三六一	三三七〇六九	[illegible]

綠茶及日本茶	一、〇九七、〇五五弗	九、三五、三五八弗
絹製品	二一、二六三	九、三六三
米	七、八七九	六二、七四九
同粉類	一一、二三六	一一、〇五一
陶磁器		二七八、四七六
阿片		
玩物各種	五、七六八	八一七
紙及其製品	四、三五三	二、一一六
次器		三、三八七
木製品	四、七五六	六、四五二
柳條製品	一、四九八	一、一〇
臺帽並「レ・モン」	二、三四二	一七〇
鷄卵	三九	一、四〇一
蝙蝠傘	五一六	八
各種帽及緞通	二、一五五	二、〇七〇
靴、長靴及皮製品	一六二	六、七八二
青銅製像	九九七	三
食品		二、一四九

日本ヘノ重ナル輸出品ハ製造品、森林産物及鑛産物ニシテ其輸出額ヲ前年度ニ比スレハ製造品ニ六千弗餘、森林産ニ三千弗餘、鑛産ニ三千弗餘ヲ增セリ支那ヘノ重ナル輸出品ハ森林産物、漁業物及製造品ニシテ其輸出額ヲ前年度ニ比スレハ森林産ハ二萬七千弗餘製造品ニ三千弗餘ヲ減シ漁産ニ三千弗餘ヲ增セリ

日本ヨリ輸入セシ物品中第一位ニ居ルモノハ茶ニシテ輸入全額ノ九

分弱ヲ占メ、次ハ絹製品ニシテ前年度ヨリ増スコト七千弗餘、其他陶磁器、玩物及木製品ハ前年度ト大差ナシ、米ハ前年度ヨリ凡ソ三萬弗ヲ減シ紙製品及蓆敷物類ハ増加セリ、又支那ノ輸入品中著シク増加シタルモノハ阿片ニシテ殆ント十萬餘弗ニ達セリ其他米、絲茶及日本茶、絹製品等モ多少増加セリ

加拿陀各州ノ輸出入總高並ニ各州ト日本間ノ輸出入高ヲ擧クレハ

地名		加拿陀各州輸出入高	合計	同各州日本間輸出入高	合計
ヲンタリオ	輸出	二五、七三六、六一七弗	六九、四二一、三〇四弗	輸出 七、八〇三弗	四一〇、一〇七
	輸入	四三、六八四、六八七		輸入 四〇二、二一四	
クエベック	〃	四一、七一九、三二〇	八七、二〇四、三四六	〃	七六四、二八四
ノバスコジヤ	〃	四五、四八五、〇〇二六		〃	
	〃	九、四四〇、六三九	一八、七四四、七八七	〃	四、三八九
ニユウブランスウイク	〃	九、三〇四、一四八		〃	
	〃	九、九七七、八五五	一三、五九八、二四九	〃	三一九
	〃	六、六二〇、三九四		〃	
マニトバ	〃	九八八、三八四	三、五四三、六六九	〃	九八三
	〃	二、五五五、二八五		〃	一六、五二一
英領哥倫比亞	〃	五、六三六、七二五	一〇、〇二四、二一一	〃	一八、〇三九
	〃	四、三八七、四八六		〃	七一、六九七
プリンスエドワード島	〃	八八七、七五五	一、四七三、六一四	〃	
	〃	五八五、八五九		〃	
北西各テリトリー	〃	—	一四二、六九九	〃	—
	〃			〃	—
合計		二〇四、一五二、八七九			八九七、三六

但此外ニ各州ヨリ北米合衆國ヘ輸出セシ貨幣並ニ地金及内地税關ノ輸出追報合計五百三十六萬千八百五十四弗ヲ合算シテ金額二億九百五十一萬四千七百三十三弗ト爲リ即チ輸入(國内消費高)及輸出ノ金額ニ符合セリ

ヲンタリオ及クエベックノ二州ハ舊キ殖民地ニシテ人口多ケレハ貿易高モ之ニ準シテ多ク隨テ日本ヨリノ輸入高モ大多數ヲ占メノバスコジヤ及ニユウブランスウイクノ二州ハ前二州ニ次テ多額ニ達セリト雖モ日本品ノ需要少キハ其地遠遠ニシテ直接貿易未開ナサ

ルニ原因スルナラン、之ニ反シテ日本貿易ノ英領哥倫比亞州ニ多キハ全ク同州ハ太平洋ニ面シ直接交通ノ繁キガタメナリ

出入船舶

出入船舶ノ景況ヲ記スルニ先タチ加拿陀ノ船舶如何ニ就キ一言スルハ必スシモ無益ノコトニアラサルヘシ抑加拿陀ハ大陸ノ地ナレトモ東西兩太洋ニ狹マレ國中ノ南北亦湖水ノ洋々タルモノ相連リテ船舶ノ必要ヲ感スルコト島國ニ讓ラスサレハ政廳ハ銳意シテ造船業及航海業ノ擴張ヲ計シリ、乃チ主府ニハ水務省ノ設ケアリテ我水産局ト監船局トヲ合シタルカ如キ事務ヲ管掌セリ、各港灣ニハ一千三百有餘ノ燈臺ヲ築キ、又深霧ノ時ニ要スル號笛所ハ五十餘ノ設ケアリ海員ノ爲メニハ特ニ病院ノ備ヘアリテ其疾病災害ニ罹レルモノハ悉ク無料ニテ施療ス、而シテ此費用ヲ供スルニハ國内百噸以上ノ船舶ニ對シ、一噸ニ付二仙ツヽ年内三期納ニテ徵集スルナリ保護亦至レリト謂フヘシ

此設ケタルヤ最モ海員ヲ奬勵スルニ足ルヲ以テ我邦ノ如キ島國ニハ欠ヲヘカラサルモノトスル

斯ク保護奬勵ノ厚キヲ以テ船舶ノ數ハ大ニ增加シ新開國ト雖モ歐洲大陸ノ古國ヲ陵駕スルニ至レリ最近ノ調査ニ據レハ加拿陀船舶ノ噸數ハ英國ニ及ハサルコト遠シト雖モ獨逸ト肩ヲ比シ合衆國ヨリモ勝ルヲ、茲ニ千八百八十九年末ニ於ケル各州ノ船舶統計ヲ上クレハ左ノ如シ

	船數	噸數
[illegible]	一、〇一三	二一八、八七三
[illegible]	二、八五五	四六四、四三一
[illegible]	一、四五五	一六八、五〇〇

	ホンタリオ	一、三五、三	一四一、八三九		
	プリンス、エドワード島	二、二四	二五、五〇六		
	英領哥倫比亞	一七六	一五、二四一		
	マニトバ	七七	六、九〇一		
	總計	七、一五三	一、〇四〇、四八一		
英	艘數	一、〇六五	一、四九七、六五八	噸數 積量	五、九二、一三九、一三三、二三一

右ノ内蒸汽船ハ千八百四十八隻、其噸數二十萬五千六百三十二噸ナリ、汽船ノ數割合ニ少クシテ遠洋航海未盛ナラズト雖モ其堅牢ナルモノ決シテナシトセス、殊ニ後來ノ發達ニ至リテハ甚タ恐ルベキモノアルナリ、次ニ千八百九十年度ニ於ケル各港入着船舶噸數及積荷噸數高ヲ擧ケ、各國船舶ノ有スル勢力ヲ示スヘシ

積荷	加拿陀船	三、三七〇	三七五、二一三	三一五、四五五	〃
	外國船	二、二四三	一、三〇〇、三八三	二〇、七八四	〃
	計	六、六七八	三、一七三、二四四	一六七、七八三	〃
積荷ナシ「バラスト」	英船	八一〇	三六六、九六五	一〇七五、三七七	〃
	加拿陀船	三、三四七	四五六、一七五	二三二、四六七	〃
	外國船	四、八八七	一、二一九、〇八二		〃
	計	九、〇四四	二、〇四二、二二二		〃
總計		一五、七二二	五、二一五、四七六	一、〇七五、三七七	〃
前年度總計		一四、一五五	四、六一一、三九二	一、〇二六、六七二	〃

右表ニ據レハ千八百九十年度入港ノ艘數、噸數及積荷噸數トモ前年度ヨリ增加セリ又右外國船ヲ區別スルトキハ第一北米合衆國第二瑞典及諾威第三獨逸第四佛蘭西等ニシテ其艘數及噸數ヲ擧クレハ

國名	船數	噸數	國名	船數	噸數
北米合衆國	六〇五	一、七七七、五〇九	秘魯	二	一〇、七〇五
瑞典及諾威	七三五	四七七、〇三六	露西亞	一五	九、一五〇
獨逸	七五	八〇、二七五	ポリヴィア	八	七、〇八〇
佛蘭西	九二	三九、〇四二	澳地利	七	四、一七六
布	一七	三二、八五六	白耳義	二	二、九二六
西班牙	二〇	二九、六四六	丁抹	四	二、六九二
伊太利	二九	一六、七七七	和蘭	二	二、〇〇八
尼加拉瓦	一四	一四、六五二	亞爾然丁共和國	一	六六六
智利	二八	一二、九四五	葡萄牙	三	四二四

右ニ據レハ最多數ヲ占ムルモノハ合衆國ニシテ之ニ次クルハ英國ナリ、以テ英米兩國カ加拿陀貿易ニ勢力アルヲ知ルヘシ

同年度ニ於ケル出港船舶ハ總計一萬五千四百二隻、五百十一萬二千八百九噸ニシテ此積荷噸數二百十二萬五百七十他ニ容積噸數三百四十六萬三千四百十二、合セテ四百五十八萬三千九百八十二噸ナリ、入港船舶ニ、對シ船舶噸數十萬噸餘ヲ減ズト雖モ積荷噸數ハ三百三十九萬噸餘ヲ增セリ、是レ加拿陀ノ輸出品タルヤ農產、家畜、林產、水產及鑛產等ニシテ孰レモ重量品ニ屬スレハナリ

第五項　加拿陀ニ輸出スル日本重要品

日本ヨリ加拿陀ニ於ケル貿易上ノ位置ハ已ニ之ヲ前章ニ述ヘタリ、故ニ余輩今爰ニ輸出重要品ニ就テ其概略ヲ說クヘシ

茶

日加貿易品中首位ヲ占ムル輸入品茶ニ就テ其價格及我總輸入額ノ

九分ノ外ニ相當ス、已往三年間茶ノ總輸入額ニ對スル價格ハ左ノ如シ

	總輸入額	茶輸入額	總額ニ對スル茶ノ割合
千八百八十八年	一、二一六、四七九弗	一、一一三、三二四弗	九一・五
千八百八十九年	一、一九三、七〇五	一、〇五三、一〇二	八・八一
千八百九十年	一、二五八、四四一	一、一二七、四一六	八・九六

右ノ如ク重要ナル位置ヲ占ムルモノナレハ決シテ輕々ニ看過スヘカラサルナリ、凡ソ飲料トシテ無聊ヲ慰スルノ用ニ供スルモノハ茶及珈琲ノ二品ニ若クモノナシ而シテ孰レカ最モ能ク加拿陀ニ行ハルヽカト云フニ、千八百八十八年及仝八十九年ノ調査ニ據リ右二品ノ輸入額ヲ對照スレハ

紅茶	千八百八十八年	千八百九十年
	一、三八九、二五三弗	一、六一九、二〇一弗
綠茶及日本茶	一、六六八、五九七	一、三八九、五一八
茶合計	三、〇五七、八五〇	三、〇〇八、六一九
珈琲	五一五、一九六	五三四、一九六

上ニ示ス如ク茶ハ正シク珈琲ノ六倍ヲ輸入セルナリ、亦以テ其盛ニ用ヒラルヽヲ知ルヘシ、後ニ加拿陀人カ茶ヲ消費スル增減如何ヲ記セン二千八百六十八年ニハ平均一人ニ付二封度ヲ需用スル割合ニ過キサリシカ、千八百七十七年ニハ三封度二五ニ增進シ、更ニ千八百八十八年ニハ四封度ニ增進セリ、凡ソ茶ヲ飲用スルコトノ最モ多キハ英國ニ過クルハナシ、然レトモ千八百八十七年ノ調査ニ據レハ一人平均四封度九五ニ過キス、サレハ加拿陀ノ消費額ハ英國ニ次クモノト謂フヲ得ヘシ、次ニ加拿陀稅關ノ報告ニ據リ千八百九十年度ニ於ケル茶輸入ノ景況ヲ示スヘシ

千八百九十年度中加拿陀ニ輸入シタル茶ノ總價額ハ二百九十五萬千三百六十八弗ヲ今最近三年間ノ輸入高ヲ對照スレハ

國名	一八九〇年度	一八八九年度	一八八八年度
紅茶 米國	三八、二四九弗	二一、三七二弗	二四、〇六四弗
英國	一、二二五、三四九	一、二二五、三六二	九三八、〇三六
英領東印度	二四、四〇七	八、四六六	五、四〇三
支那	三二七、〇六九	三四五、〇七七	三七一、九七四
日本	二〇、二六二	二四、四四八	二七、四四七
計	三六	一六	四四
計	一、五四三、三七七	一、〇九一、一六六	一、四五八、四四五
綠茶 米國	八、二一四	四二、三六六	二八、〇六四
英國	二〇一、四六六	二二三、四四八	二九九、三八、〇六八
合計	二、二四五、四七七	一、三四五、六四六	一、七四〇、〇八九
紅茶數量	九、〇七二、二七一斤	八、八四七、三二一斤	一、五七二、二七一斤
綠茶及日本茶數量	二、三八二、七四六	八、六二八、六四四	九、九三八、〇六八
合計	一八、四五四、四七九	一七、四四五、六四六	一七、四〇〇、八一九

右ノ統計ニ據レハ最近三年間ニ加拿陀ニ輸入シタル茶ノ價額ハ年々增加スル上ニ其數量ニ至リテハ漸次增加シタルヲ見ルヘシ蓋シ人口ノ增加又ハ他ニ原因アルヤシト雖モ兎ニ角年々多少ノ增加ヲ現シ來レリ

綠茶及日本茶ト紅茶トノ需用高ハ恰モ拮抗シテ相下ラサルノ勢アリト雖モ紅茶ハ最近三年間ニ於テ年々増加ヲ示シタルモ、綠茶及日本茶ハ同樣ノ割合ヲ以テ増進セサルモノヽ如シ

各國ヨリノ輸入高ハ紅茶ニ於テハ英國常ニ大多數ヲ占メ居リ、而シテ英國ヨリノ輸入ハ蓋シ印度及支那產多キニ居ルナラン

更ニ此巨額ノ茶ハ如何ナル割合ヲ以テ各州ニ分配セラルヽヤト云フニ、千八百八十八年及仝八十九年ニ於ケル各州輸入高次ノ如シ

州名	紅茶 一八八八年	紅茶 一八八九年	綠茶及日本茶 一八八八年	綠茶及日本茶 一八八九年
オンタリオ	二九九、八二五弗	四一六、九五七弗	七一七、二八八弗	五九一、一〇六弗
クエベック	二五四、九五二	三七五、八六〇	八九三、六五三	七五一、二五九
ノバスコシヤ	五二一、九五二	三五一、五八九	—	—
ニユーブランスウイック	二六九、八二〇	三二〇、二七四	—	—
マニトバ	七八、〇〇八	三三、一四一	一三、六五三	二四、三六三
プリンス、エドワード島	一〇三、九五二	八三、三五一	—	—
英領哥倫比亞	六〇、七四四	三七、九二六	四六、〇〇三	二二、七九〇
合計	一、三八九、二五三	一、六一九、一〇一	一、六六八、五九七	一、三八九、五一八

（千八百八十九年度ノ紅茶州別ハ合計ト符合セス稅關報告ノ違算ナラシ）

各州ニ就キテ日本ヨリ輸入シタル綠茶及日本茶ノ高ヲ調査スルニ、シタリオ三十七萬弗餘、クエベック六十八萬弗餘、英領哥倫比亞三萬四千弗餘、マニトバ五千七百弗餘ニシテ其他ノ三州及北西各「テリトリー」ハ輸入ノ跡ナシ此等ノ諸州ハ絕エテ綠茶及日本茶ヲ需要セザルニアラサルベシト雖モ直接ノ輸入ナキヲ見レハ商路未十分ニ開ケサルモノナルヘシ

絹織物

輸入日本品ノ内茶ニ次クモノハ絹織物及同製品ナリ、近年同製手巾ノ輸入ハ他ノ諸品ニ比スレハ其増加ノ割合高シト雖モ千八百九十年度間日本ヨリ輸入シタル同品ハ僅ニ二萬千弗餘ニ過キス、之ヲ各國ヨリ輸入シタル同品ノ金額二百八十五萬千餘弗ニ比スレハ實ニ百分ノ一ニモ達セス以テ日本加拿陀貿易ノ未幼稚ノ境界ヲ離レサルヲ徴スヘシ茲ニ千八百九十年間絹布類並ニ同製品ノ輸入高ヲ國別スレハ

國名	英國	佛國	米國	支那	獨逸	日本	瑞西	濠洲	墨西哥	自由市	伊太利	及其他	合計
絹反物類並衣類	四九、〇二四弗	一六、三六一	三四、五六八	五一	一九、五四二	二八一	二八、七八六	—	—	—	—	—	五九八、〇六三
絹手巾	八九、二九二弗	五、四三五	二、〇一八	二、三〇一	一、〇二六	一〇、七四	三八	—	—	—	—	—	一一〇、八四
絹ヤスメリ	五、三一一弗	一、六三八	二六	一八	四四二	—	—	—	—	—	—	—	七四五〇
他ノ衣類ニ記サル載ヤウ	一五六、九四七弗	九、一一〇	一、一〇九	二、六六四	四、三一二	一、三六二	—	—	三八三	—	—	—	一七五、八八七
絹紬	五二九、四六三弗	七、三八二	六四、八〇三	二三	三〇、三四六	—	五八、五四二	—	—	—	—	—	六六〇、四六〇
絹紬絲及機絲	二七、五六八弗	二四、〇六一	一四	四五	一、三九二	一九	—	—	—	—	—	—	五三、一一九
肩掛	二、〇三七弗	七	—	—	七	一四〇	—	—	—	—	—	—	二、一九一
製其他絹品	四、三九八弗	三、六〇四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八、〇〇二
絹交織並交製	八三六、八四七弗	六三五五六	五一、三九八	三、八〇一	五六、八六二	八、六八七	五四、四八二	二、八九一	—	—	八三	一〇	一、〇一五、六七六
絹天鵝絨	一六五、二一七弗	三、八〇二	三、一〇九	—	一九五、三二二	—	—	—	—	—	—	—	一八九、六六〇
合計	二、三〇五、一三九弗	一三四、九五六	一五四、〇三五	九、三六三	一一九、四六一	三、三六三	九二、七四九	三、三六四	二	五七	一〇	八三	二、八五一、三九二

千八百八十九年度ニ於ケル絹布類並ニ同製品ノ輸入總高ハ二百九十七萬餘弗ニシテ其內英國ノ輸入ハ二百六十萬弗餘、米國ハ十二萬弗餘、佛國ハ十萬弗餘、獨國ハ八万弗餘、瑞西ハ八萬弗餘、日本ハ一萬三千弗餘其他ハ一般ニ增加セリ、就中佛、獨、及日本ノ增加ハ其割合多キヲ示ス、千八百九十年度ハ英國ヨリノ輸入ニ減少ヲ示シタルノミニテ、茲ニ日本ヨリ同品ヲ輸入セシ價額及其州名ヲ擧クレハ、

州名	絹反物類並衣	絹手巾	他ノ衣類ニ記サル載ヤウセ	紬絲及機絲	肩掛	絹交織並交製	合計
ヤンタリオ	三四弗	一四六弗	一七八弗	一弗	一四〇弗	七四九弗	一、三一七弗
クエベック	—	—	一四一	—	—	六九〇	九四一
ニウヨーク	一一九	一一九	—	—	—	—	二一九
サンフランシスコ	—	—	八	—	—	一七四	二二四

ノヴァスコシヤ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
英領哥倫比亞	一三八	一三八	一〇二五	一九	二九	八六	二九	一〇、一三四	—
プリンス、エドワード島	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北西各「テリトリー」	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	二八一	一〇、七七四	一、三六二	一九	一四〇	八、六八七	二、一六三		

前表ニ就キ當業者ノ最モ注意スヘキ要點ハ、日本ヨリ各州ニ輸入シタル絹布類並同製品ノ金高ハ各州ノ合計若クハ其貿易高ト對照シテ甚タ不釣合ナルヿ是レナリ、チンダリオ及クヱベツクノ二州ノ加拿陀ノ舊殖民地ニシテ其人口及貿易ハ遙ニ他諸州ノ上ニ居レトモ、我絹布類ハ其人口及貿易高ノ少キ英領哥倫比亞州ニ一萬餘弗ヲモ輸入シタルニ拘ハラス、前ノ二州ニハ合シテ僅ニ一萬餘弗ヲ輸入シタルニ過キスヽ是レ都サ加拿陀內地ニ於ケル日本絹布類ノ販路ハ未ト十分ニ開ケサルヲ證スルニ足ルヘシ、輸入日本絹類ノ內手巾ハ最モ景況宜シク總キス

賣行アリト謂ヘリ其他肩掛モ可ナリノ景況ナリ、此諸品ハ我當業者ノ勉強何如ニヲ尙ホ幾分ノ販路ヲ擴張シ得ヘシ

絹製蝙蝠傘

絹製蝙蝠傘モ將來輸入增加スヘキ見込アルモノヽ一ニ數フヘキ品ナリ千八百八十九年度ニ於テ日本ヨリ輸入シタル同品ノ高ハ僅ニ七十八弗、同綿製三十八弗合計百十六弗ニ過キサリシカ、千八百九十年度ニ日本ヨリ輸入シタル各種蝙蝠傘ノ高ハ五百十六弗ニ達セリ、(但シ千八百九十年度ノ年報ハ絹綿混同ノ調査ナレハ其內絹製ニ屬スル高何程ナルヤ詳ナラス)今同品ノ輸入額ヲ國別スレハ

英國	三一九、五二三弗	佛國	二、六三四弗
米國	五、四二〇	獨國	一、七三一
濠國	三一二	日本	五一六

支那　八合計　三三〇、一四四

右ノ如ク各種傘類輸入全額三十三萬弗餘ノ内英國ハ三十一萬九千弗餘ヲ占メ居レハ、同品ノ貿易ハ英ノ一手ニ歸セリト謂フモ不可ナキナリ、當業者ノ説ニ據レハ日本品ハ製造法ヲ改良スレハ輸入增加ノ見込アリ、故ニ製造家ハ時ニ輸入者ヨリ日本品ヲ取寄セ之ニ倣フテ改良ヲ圖ルコト專要ナラント[illegible]

人造[illegible]十八陶磁及石器ハ[illegible]千八百九十年度日本ヨリ輸入シタル陶磁及石器類ハ高ハ一萬千二百三十六弗ニシテ、前年度ヨリ百弗餘ヲ前々年度ヨリハ五百弗餘ヲ減セリ同品ノ輸入額ヲ國別スレハ

國名	「彩色又ハ色付ノ陶器及ビ他ニ特ニ「ヒヤ」ツキンハン」ノ陶器	製帽形付又ハ水泡形セシモノ及ビ他ニ特ニ數セザル總テノ陶器	牛德利及白花崗石及鐵石器ノ類	「チナイナ」及ビ「[illegible]」陶器ヨリ製造セラレタルモノ	瓦磚竝ニ他ニ特數セザル陶器ヨリ製造セラレタルモノ	合計
英國	三五、一九一弗	一八五、六五八弗	七二九弗	二〇九、三九八弗	大四、三六八弗	一六、六四一弗	五一、九八五弗
米國	八、七四四	八、二二三	四、四八六	一五、一七五	一一、六二二	一八、七四六	六六、九九六
支那	一六四	九二		二三	大四九	一二三	一、〇五一
獨逸	九九	七七一		六八六	八一、一三〇	七七	八二、八六三
日本	八三	一二〇四			一〇、九四三		一二、二三六
濠國		四六			大、九七五		七、〇七八
佛國		二七〇	二	一八六	七、九七五	二三四	八五六七
伊國		一二九			二五五		三八四
白耳義				六六	七六		一四二
合計	四四、三八一	一九五、二九三	五、二一九	二二五、五九一	一八三、九九三	三五、八二七	六九〇、三〇二

千八百九十年度間ニ當國ニ輸入シタル陶磁及石器ノ總額ハ六十九萬弗餘ニシテ前年度ヨリ凡ソ五萬弗ヲ減セリ、各輸入國ニ就キテ之ヲ調

査スルニ獨逸及伊太利ノ二國ヲ除キ其他ノ國々ハ一般ニ減少シタルナリ、蓋シ當國製造ノ發達シタルガタメナルヘケレハ日本品ノ減少ヲ示シタルモ別ニ怪ムニ足ラサルベシ

玩物類

千八百九十年度間日本ヨリ輸入シタル玩物類ノ總高ハ五千七百六十八弗ニシテ前年度ヨリ九百二十五弗ヲ減セリ、右減少ノ重ナルモノハ箱、裝飾用箱及書机ノ項(多ク漆器類ト知ラレタリ)ニシテ同項ニ於ケル前年度ノ輸入高ハ五千四百八十三弗ナリシニ當年度ハ三千五十五弗ニ減セリ、斯ク其輸入ノ減少シタル所以ハ近來ノ輸入品ハ漸ク粗造ニ傾キタルガタメ購買者ノ厭忌ヲ招キタルニ因ルモノナラン、聞ク所ニ據レハ横濱又ハ神戸等ニテ我製造家或ハ問屋ヨリ支那商又ハ洋商ニ雜貨類ヲ賣渡ス際ニ彼等ハ非常ニ廉買セントスルガタメ、製造家ハ一

意廉價ニ仕上ケンコトヲ務メ漸ク粗造ニ流レタルモノナリト、然レトモ太平洋沿岸各市ニ於テ日本雜貨ヲ賣捌ク景況ハ横濱神戸等ニテ厘毛ヲ爭フ類ニアラス其嗜好ニ投スレハ價ニハ敢テ頓着セザル有樣ナリ太平洋沿岸ニ於ケル日本雜貨ノ小賣價格ハ大約原價ノ二三倍ナリ、サレハ製造家ハ成ルヘク遠ク眼ヲ需要地ノ景況如何ニ注クコト專要ナラン而シテ此目的ヲ達セントスルニハ横濱神戸等ニ於ケル支那商等ノ手ヲ經ルヲ止メ日本商ノ手ニテ自ラ之ヲ輸出スルカ、然ラサレハ太平洋沿岸ニ於ケル外商店ニ直賣ヲ爲スノ方法ヲ取ラサルベカラズ、是レ蓋シ目下改革スヘキ箇條ノ一ナルヘシ

蜜柑並鷄卵

日本蜜柑ノ輸入ハ甚タ不規則ニテ或時ハ市場ニ溢レ或時ハ全ク拂底ヲ告クル有樣ナリ且ツ其荷造ノ如キモ未好結果ヲ得タル例アラサル

カ如シ、合衆國ト日本トハ里程ニ遠近ノ差アリテ同日ニ論シ難シト雖モ合衆國ヨリ輸入スルモノ(合衆國產)ハ腐敗ノ憂ナシ常ニ市場ニ排列セリ、其荷造法ハ一箇ツヽ紙ニテ包裝シタルモノヲ箱ニ結メ合セリ、但從來見受クタル分ニハ過熟ノモノナカリシ故ニ向後日本產ノ輸出ヲ圖ラントセハ第一ハ荷造法ヲ研究セザルベカラズ、第二ハ輸出入ト引取入ト輸出手續ヲ打合セ置キ電信ニ依リ時機ヲ失ハサル樣ニ之ヲ積出サヽルヘカラス、斯シテ年々規則立チテ輸出スル時ハ當地ニ於ケル引取入モ其輸入ノ時期ト分量トヲ見計ヒ、之ヲ各地ノ商店ニ分配スルノ道開ケ漸次輸出ノ量ヲ增加スルヲ得ルニ至ラン、鷄卵ノ如キモ同樣ニテ輸入ノ途未全ク開ケスト謂フモ可ナリ、千八百九十年度支那ヨリ輸入シタル同品ノ高ハ千四百弗餘ナルニ、日本ヨリハ僅ニ三十九弗ヲ出ス、又同年度間全加拿陀ニ輸出シタル同品ノ高ハ九萬千七百七十三弗ニシテ哥倫比亞州ニ輸入シタル高ハ四萬二千二百七十二弗ナリ、而シテ此四萬二千弗餘ハ日本產輸入者ノ働キ次第ニテ占領シ得ヘキ土地ナリト看做スモ不可ナカルヘシ、同品輸出ノ手續モ蜜柑ト同樣ニテ引取入ト其手續ヲ打合セ置クコト專要ナラン

第六項　日加貿易擴張

日加貿易ノ望ミアルコトハ前已ニ述ヘタルカ如シ、然ルニ未見ルヘキ貿易額アラサルモノハ抑亦何ノ故ソヤ、想フニ本邦商人ノ進テ貿易ヲ開カントヽ欲スル氣力ニ乏シキニ因ラスンハアラス、サレハ之ヲ擴張スルノ方法ニ就テハ深ク貿易家ノ奮發ヲ望マサルヲ得ス、加拿陀ニ輸入スル茶ノ如キ現ニ百萬弗以上ノ額ヲ有ツニ拘ハラス、本邦商人ノ自ラ渡航シテ彼ノ注文ヲ應スルコトヲ務メサルカ如キ豈之ヲ商機ニ通セ

サルモノト謂フヲ得ンヤ、加拿陀商人ノ如キハ已ニ諸外國ト十分取引ノ途開ケルニ拘ハラス尚年々進テ華主ヲ增加センコトヲ務メリ、日本商人ニシテ一年ニ一回若クハ二回渡航シテ計畫スル所アランカ、今日ノ貿易額ヲ倍蓰スルハ何ノ難キコトアラン、即チ茶ノ如キ其需用ハ今日ヲンタリオ、クエベツクノ二州ニ限ラレ、又絹手巾ノ如キ其販路ハ哥倫比亞一州ニ限ラルレトモ、各州ヲ跋渉シ供給ヲ計ラハ必ス大ニ彼ノ需要ヲ喚起スヘキナリ殊ニ當年ニ大博覽會ヲ開設スル米國シカゴ府ハ加拿陀ト接近スルニ由リ此時ヲ以テ彼ニ適好スヘキ物品ヲ陳列シ其好評ヲ博シ得タルニ乘シ見本品ヲ携ヘテ各州ノ注文ヲ受クルコトヲ務ムレハ一層効果大ナル可シ、我國產ノ販路ヲ擴張スルハ實ニ此一機會ニアルナリ、當業者憤勵スル所ナカル可カンヤ

第七項　英領哥倫比亞貿易景況

英領哥倫比亞ハ太平洋岸ニアリテ我邦ト距離最モ近ク殊ニ從來其進歩上大ニ望ミヲ屬スヘキモノアレハ、我商人ノ特ニ注目スヘキ所ナリ、因テ左ニ于八百九十年ニ於ケル同州貿易ノ景況ヲ掲載スヘシ

（明治二十四年四月報告）

明治二十三年一月ヨリ十二月マテ英領哥倫比亞州ノ輸出入高

	ヴイクトリア、	ヴアンクーバー、	ナ、イモ、	ニューウエストミンスター
輸入（無稅）	七二、四七七弗	一七〇、五五八弗	——弗	——弗
仝（有稅）	二、五四九、二三二	六五八、二〇三	———	———
輸入計	三、二七〇、七〇八	八二八、七六一	一九九、七五七	四〇六、三二一
輸出	二、二五四、四九四	五〇〇、三〇四	一、九五六、九六五	四六六、八四三
輸出入計	五、四二五、二〇二	一、三二九、〇六五	二、一五六、七二二	八七三、一五四

ナハイモ港輸出高ノ内百九十四萬九千六百六十四弗ハ石炭ニシテ其噸數ハ五十萬四千五噸ナリ

加拿陀稅關報告ハ毎年六月ニ終ル年度ヲ以テ調査スルカ故ニ、之ニ對照スルニ曆年度ノ貿易高ヲ以テスルハ其當ヲ得スト雖ヒ、試ニ明治二十二年六月ニ終ル輸出入高ヲ明治二十三年一月ヨリ十二月ニ至ル一年間ノ輸出入高ニ對比スレハ

ヴイクトリア　ヴアンクーバー　ナハイモ　新西ミンスタ

輸入 八十九年六月ニ終ル	二、八六二、八〇三	四四三、九三七	三〇一、〇一六	一三三、〇〇四
輸入 九十年六月ニ終ル	三、三七〇、七〇八	八二八、七六一	一、九九九、七五七	四〇六、三一二
輸出 八十九年六月ニ終ル	一、九四六、一八六	四一六、六三六	一、八五一、四一九	四六六、三八八
輸出 九十年	二、二五四、四九四	五〇〇、三〇四	一、九五六、九六五	四六六、八四三

右表ニ據レハヴイクトリア府ノ輸出入ハ[illegible]ク増セリ其故タル蓋シ同港ハ當州ノ首府ニシテ人口最モ多ク殊ニ米領華盛頓州ノ諸港ニ對シ兩國貿易ノ要衝ニ當ルヲ以テ其土地ノ發達ニ伴隨シテ増シタルモノナルベシヴアンクーバーノ輸入増シタルハ全ク市内並ニ近傍地方ニ人口ヲ増シタルニ原因シ而シテ其輸出ノ増サヾルハ内部人口ノ増加ト共ニ其需要増シタルニ原因シニューウエストミンスターノ輸出入共ニ著シク増シタルハ同地近傍ニ新開農業地多キニ因リ隨テ同市内並ニ近傍地方ニ人口ヲ増シタルニ原因セシモノナラン

日本哥倫比亞州各港間ノ貿易

日本ト當州各港間ノ貿易ハ明治二十二年六月ニ終ル一年間ニハ輸入六萬七百四十四弗輸出八千五百九十九弗、合計六萬九千三百四十三弗ナリシカ明治二十三年間ハ輸入五萬千四百六十一弗、輸出九千五百七弗、合計六萬九百六十八弗ニシテ前年度ヨリ減シタルコト八千三百七

十五弗ナリ爰ニ明治二十三年中日本及英領哥倫比亞州各港間ノ輸出入ヲ擧クレハ

日本ヨリ輸入

品名	トザ リイ アク	ナザ アン ルク	ナ ノ イ モ	ス新 ウエ ダン	合計
絹製品並絹衣	二〇九二	一三五二	—	—	三四四四
絹手巾	四九五七	五一三七	—	—	一〇〇九四
緑茶及日本茶	一二五三	一〇二九九	—	—	二一五三二
米	三五一六	一三三四	—	—	四七四一
磁器	四八	二二	—	—	六九
陶器	一九四六	一六六二	—	—	三六〇八
銅器	一三七	四九	—	—	一八六
青銅器	一八四	三七〇	—	—	五五四

品名	合計	品名不詳	其他「セメント」瓦及煉石	蒲鶏卵	蜜柑通	玩物並ニ漆器	家具並ニ屏風	竹木及柳條器
トザ リイ アク	二四〇六八	一	六〇三〇	—	一〇〇一〇	一七五二	九六八	一七五
ナザ アン ルク	二六三五六	—	一七八九	—	四八六	一一二三	二〇四	七三六
ナ ノ イ モ	一一三七	一一三七	—	—	—	—	—	—
ス新 ウエ ダン	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	五一四六一	一一三七	九八八	三九	五六四	三一八六四	一一七二	九二二

日本ニ輸出

品名不詳	輸出	輸入	共計	輸出	輸入	共計
薄厚板類						
木材						
帆檣及桁						
衣類						
乳油						
乾酪						
林檎						
其他						
合計	三一四	七、〇五八	七、〇五八	三一四	七、〇五八	七、〇五八
輸出入共計	二四、三八二	三五、四四九	六〇、九六八	一、一三七		

明治二十三年間ヴァンクーバー港ト日本間ノ輸出入高ハ輸入四萬九千八百七十九弗、輸出九千四百六十四弗、合計九萬九千三百四十三弗ナレトモヴァンクーバー港ノミニテ前年度ヨリ減シタルコト二萬三千八百九十四弗ナリ右減額ノ重ナルモノハ茶ニシテ其高二萬千九百八十八弗ナリ、其次ハ陶磁器千餘弗漆器、米、銅器、竹器、屏風、蜜柑等ニシテ三千四百餘弗ヲ減ジタリト雖モ絹織物及同手巾ニ於テ千餘弗ヲ增セリ、同港輸出品ノ内木材板類ハ前年度ヨリ千餘弗ヲ增加シタリト雖モ其他ノ物品ハ孰モ減セリ

明治二十三年間ヴァンクーバー港出入船舶（但内國貿易ニ從事スル分ハ之ヲ除ク）ヲ前年ニ對比スレバ

	二十二年	二十三年
入港船舶數	三五七	三一九
同登簿噸數	三六七、八八一	二一八、一四〇

同積荷噸數	五九、一三一	三八、一三七
出港船艘數		三二八
同登簿噸數		二二八、七九四
同積荷噸數	二一四、九四七	一三一、九五七

昨年中內國沿海貿易ニ從事シタル船舶ノ入港ハ四百七十一艘ニシテ其出港ハ四百六十七艘ナリ

明治二十三年中出入シタル船舶及其噸數ノ前年ヨリ減シタル所以ハ加拿陀太平洋汽船會社カ前年末ヨリ東洋往復汽船五艘ヲ三艘ニ減シ（但シ夏季積荷多キ間ハ三回程臨時船ヲ發シテ其不足ヲ補フタリト）同社カ桑港汽船ト荷物同送ノ特約ヲ解キタルト及同社カ荷物取集ノタメ米領各港ニ寄セタル汽船ノ同航度數ヲ減シタルトニ主トシテ起因スルカ如シ

[illegible]日本ヨリ加拿陀ニ輸入スル重要品ニ付其前途如何

余ハ今最近ノ稅關報告ヲ有セサルヲ以テ假ニ左ニ明治二十二年ニ於ケル商況ノ大略ヲ揭ケテ其一斑ヲ示サン

茶ハ輸出品中常ニ第一位ヲ占メ一箇年ノ輸出高ハ凡ソ百萬弗ニ達セリ然ルニ其需要地ハ日本ト最モ遠隔セル加拿陀東部（クエベック、オンタリオ）ニシテ却テ日本ニ近キ西部地方ニ少シ（人口比例）其故ハ日本茶ノ當國ニ入リタルハ最初紐育又ハ其他ノ地方ヲ經テ東部加拿陀ニ輸入シタルニ因リ今ヤ日本加拿陀兩國間ニ直航路ヲ開ケタリト雖モ尙ホ米國ニ在ル商人ノ手ヲ經テ輸入スルモノ多ク而シテ右兩國間ノ直取引ハ未十分ニ開通セサルニ原因スルモノナラン但近來加拿陀商人中ニ日本ヨリ茶ヲ直輸入センコトヲ希望スル者多クレハ直取引十分ニ開通スルニ至ラハ今一層輸入高ヲ增スニ至ルベシ

米ハ明治二十二年ハ日本ニテ價格高貴ナリシタメ輸入高少量ニ止マレリ晩香波地方人民ハ支那人及土人ヲ除クノ外大概日本米ヲ需要セリ而シテ支那米ハ一噸ニ付七十五弗ニシテ日本米ハ凡ソ百五弗許ナルカ若シ日本米ノ價格今少シク低落セハ尚ホ需要ヲ增加スベシト云ヘリ

絹手巾　明治二十年頃マテハ其輸入高格別多カラサリシモ近來ノ景況ニテハ其後輸入增加シタルコト疑ナカルベシ昨年中晩香波港及ヴイクトリア港ヘノ輸入高ハ輸入表ニ記載セシ如ク一萬九十六弗ニ達セリ而シテ同品ハ將來ニ向テ望アル輸入品ノ一ナリ

蝙蝠傘　是亦望アル輸入品ノ一ナリ從來加拿陀ニ輸入セル同品中ニハ粗製品多シト雖モ往々歐米人ノ需要ニ適スベキモノ多シ

陶器　漆器及其他雜貨　從來追次月報ニ於テ其大概ヲ報告シタルハ爰ニ更ニ記スベキ程ノ事ナシ之ヲ要スルニ日本陶器ハ美麗ニシテ精工ナルガタメ美術上ノ點ヨリ一般ニ珍重セラレ隨テ其價格モ割合ニ高ク賣行クト雖モ如何セン破損シ易クシテ日用品ニ適セサルノ缺點アリ若シ固有精工品ノ外ニ日用ニ適スル手堅クシテ且ツ廉價ナルモノヲ製出スルニ至ラハ一層輸出ヲ增スヲ得ベケン漆器ニ於テ近來多ク輸入スル粗造品ハ一般ニ厭忌セラレタルモノヽ如シ同品ハ日本ノ特有產ニシテ他ニ競爭者ナキ物ナレハ可成的之ヲ改良シ日本ノ美工ヲ顯サンコトヲ勉ムルコトヲ專要ナルヘシ單ニ當國人ノミニ就キテ之ヲ言フトキハ品柄サヘ嗜好ニ投スルトキハ其價格少々高クトモ之ヲ顧ミサルノ風アレハ唯廉價ニ仕上ケンコトヲノミ主トシ破損シ易キ粗品ヲ輸入スルハ却テ不得策ナラン

雜貨ノ內玩弄物及飾物ニ供スベキモノハ成ルヘク新規新形ノモノヲ製出スルコト緊要ナリ同一樣ノ物品ハ一度限ニテ再ヒ之ヲ用フル者少ナク且ツ凡ソ飾物及玩弄物抔ハ流行ヲ逐ヒテ變遷スルモノナレハ製造者ハ此點ニ注意スルコト肝要ナラン

鷄卵ハ輸入多カラス同品ハ當地ニテ引合ハザルニアラスシテ輸入ノ道未十分ニ開ケ居ラサルニ因ルベシ當州ニ輸入スル外國鷄卵ハ凡ソ三万五千餘弗ナレハ冬季六月間ノ輸入ノミニテモ一廉ノ貿易品ト爲ルヘシ殊ニ當州ノ人口ハ年々增加ノ傾アレハ其需要ノ增加ハ必然ナリ

加拿陀中ニ日本加拿陀間ノ貿易ヲ專務トスル商社又ハ商店アルヲ聞カス明治二十三年晩香波港ニ新設シタル東洋貿易商會社ハ專ラ東洋諸國（日本支那印度及同洋諸島）ノ貿易ニ從事シ其後大ニ其事業ヲ擴張シタルカ如シ日本ヨリ當港ニ輸入スル物品ノ多量ハ同社ノ手ニ歸セリ同社ノ資本ハ最初五萬弗ト聞キシカ其後其株金ヲ增募シ二十五萬弗ニ達セシメントテ新聞紙ニ廣告セリ同社ノ營業ハ卸賣一方ニテ日本ヨリハ重ニ茶、米、絹、手巾、蕃、蝙蝠傘、靴、拭刷毛等支那及印度ヨリハ茶、珊瑚及米等ヲ輸入ス日本ヨリハ未製砂糖及烟草等ヲ輸出セリ蓋シ今後日本加拿陀間ノ貿易益々發達スルニ隨ヒ同社ノ營業モ亦廣大ニ至ルヘシ當港ニ在ル日本雜貨專賣店ハ二軒ニシテ其一（歐人持）ハ五六年前ニ開店シ太平洋沿岸屈指ノ商店ナリシカ昨年末頃ニ其店ヲ閉鎖セリ他ノ一ハ日本人持ニテ三年前開店シ昨年末ニ至リテ其業ヲ擴張セリ此外ニ他ノ營業ノ傍ラ日本雜貨ヲ販賣スル店舗三四軒アリト雖モ孰モ日本店ニ比肩スヘキモノニアラス

ヴイクトリア府ニ在ル重ナル日本雑貨店(歐人持)ハ昨年其持主ノ代リタルヨリ少シク其事業ヲ擴張シタリト云フ同店ノ外ニ日本人ノ關係セル小雑貨店二三軒アレトモ孰モ微々タルモノナリ

當港及ヴイクトリア其他當州内ノ各市邑ニ支那人ノ日本雑貨ヲ販賣スル者少カラズト雖モ彼等ハ支那街ニ限ラレ商業街市ノ中央ニ開店スルヲ得サルガタメ歐人及日本人ト競爭ヲ能ハザルカ如シ當國東部地方モントリール、トロント等ニ於テハ昨年中日本人ニテ小雑貨店ノ營業ヲナスニ過キズ且ツトロントニテ開キシ者アリシカ果シテ今日マデ其業ヲ繼續シ居ルヤ否是亦詳オラス

第八項　税關規則

現行税關規則中ノ緊要ナル條項ヲ掲ケ且ツ輸入税率中我ニ關係ヲ有スルモノハ之ヲ抄錄スヘシ

加拿陀税關條例抄譯(千八百八十六年發布千八百八十八年及千八百八十九年改正)

第七條　加拿陀ニ輸入シ又ハ同國ヨリ輸出スヘキ貨物ニ關シ次ノ條欵ニ據リ英國皇帝ニ納ムヘキ關税ノ正額及追加金額若シ之アルトキハ其支拂フヘキ又ハ計算セラルヘキ時ヨリシテ右貨物ノ所有者輸入者若クハ輸出者ヨリ連帶ニ又ハ各別ニ輸入又ハ輸出ノ時ニ於テ皇帝ニ對シ納ムヘキ義務ヲ有スルモノトス但右收税額ハ何時ニテモ正當ナル管轄裁判所ニ於テ訴訟入費ノ全額ト共ニ之ヲ徹收スルヲ得

第八條　貨物ニ對スル關税ノ本條例ニ基キ最後ノ議定ヲ爲セルモノ

若クハ未納稅徵收ノ訴訟ニ於テ評定セシモノニシテ該貨物輸入書ニ記載セル稅額ノ一割五分或ハ其以上ニ出テタル場合ニ於テハ右貨物ノ正當評價ニ對シテ納ムヘキ稅額外ニ尙ホ原輸入書ノ評價ト眞正價格トノ差ニ對シテ賦課スヘキ從價稅ヲ徵收スヘシ

荷主輸入者若クハ貨物受取者ニ於テ關稅追徵ノ通知ヲ領收セシ後又ハ右通知ノ者ノ者ノ住居若クハ商業事務所ニ到達シタル後六日間ニ右ノ關稅並ニ追加稅ヲ支拂フコトヲ拒ミ或ハ怠リタルトキハ貨物ヲ沒收スヘシ

第九條　其貨物ニ對シ關稅賦課ノ正否或ハ稅率ノ高低ニ就キ爭議發起シタルトキニ當リ其筋ノ前裁定ナキカ或ハ之アルモ彼此ノ裁定互ニ矛盾スル場合ニ於テハ右貨物ニ課スベキ稅率或ハ免稅ノ正否ハ關稅省之ヲ定ムヲ得但太守ハ關係者ノ上申ヲ聽納シ內閣ノ同意ヲ得テ關稅省ノ議決ヲ變更スルヲ得ルヘシ

關稅省ノ議決若クハ上申ヲ俟チテ關稅(若シ之アルトキハ)ヲ規定セル閣令ハ稅率ヲ規定スルニ法律ト同一ノ勢力ヲ有スヘシ本條ニ係ル閣令ハ總テ之ヲ加拿陀官報ニ登載ス

第十條　貨物ノ價格ハ輸入國ノ通貨ヲ以テ計算シ正當ニ之ヲ仕入書ニ認ムヘシ

第十一條　貨物ノ分量或ハ價格ニ準據シテ關稅ヲ課スル場合ニ於テハ其分量ノ增減若クハ價格ノ昇降ニ比例シテ關稅ヲ增減スルモノトス分量ノ增減一位以下ニ止ルモ亦然リトス

第十二條　重量箇數若クハ尺度ニ準據シテ關稅ヲ課スル場合ニ於テハ太守カ內閣ノ同意ヲ得テ規定セル規則ニ從ヒ包袋ニ對シテ重量ノ減除ヲ爲スヘシ

第十三條　物品ニシテ其原料又ハ性質若クハ使用法、課稅、貨物ト相類似スルトキハ類似最近ノ貨物ニ課セラルト同一ノ稅率ニ從ヒ關稅ヲ賦課スベシ

第十四條　明記セサル貨物ニシテ不同ノ稅率ニ從ヒ課稅スヘキ二種以上ノ物品ニ均シク相類似セルトキハ最高稅ヲ課スヘキ貨物ニ準シテ課稅スヘシ

第十五條　二種以上ノ原料ヨリ製造セラレタル貨物ニ對シテハ其原料中ノ最高稅率(原料ノ關稅ニ異同アルトキハ)ニ準シテ關稅ヲ賦課スベシ

第十六條　稅目ニ於テ二樣以上ニ掲載セル貨物ニ對シテ稅額ノ異同アルトキハ其最高率ニ從ヒ關稅ヲ賦課徵收スヘシ

第十七條　「カイスキー」ヨリ高率ノ關稅ヲ課スベキ酒精ノ香氣ヲ有スル酒精類ハ其原料ノ何タルヲ問ハス其蒸溜若クハ調合香氣ニ從ヒ之ヲ類別シテ關稅ヲ稅スヘシ

第十八條　隨意ニ放棄シタル物品、難船救助ノタメニ投棄シタル物品破船ノ際遺失シ海上ニ浮流セル物品若クハ難破船或ハ遺失船ヨリ陸揚若クハ拾收セシ物品ヲ加拿陀ニ輸入シ或ハ輸入セントスルトキハ其類似ノ貨物輸入ノ場合ニ於テ遵依スルト同樣ノ稅率並ニ規則ニ從フベシ

第十九條　後條ノ規定ニ從ヒ前條ニ陳述セシ貨物ヲ該當官吏ニ引渡セシ時ヨリ十八箇月以內ニ關稅ヲ納メサルトキハ右貨物ハ總テ輸入物品カ關稅滯納ノ場合ニ於テ賣却セラルルト同樣ノ手續及同樣ノ目的ヲ以テ之ヲ賣却スルヲ得右貨物賣却金高ニシテ稅金及其他ノ諸費ヲ償却シ尙ホ剩餘アルトキハ之ヲ受取ヘキ權利アル者ニ拂

戻スベシ

第二十條　收稅官又ハ課稅有無並ニ稅額ノ多寡ヲ査定スルノ目的ヲ以テ輸入貨物ノ見本ヲ徵收スルヿヲ得但右見本ハ關稅長官ノ指揮ニ隨ヒ之ヲ處分スベシ

入港報告及手續

第三十四條　加拿陀ノ領域外ヨリ海上若シクハ陸上ヲ經テ貨物ヲ輸入スル者ハ輸入船ノ到着後三日以內ニ右貨物ノ適當ナル輸入屆ヲ爲シ後之ヲ陸揚クスベシ

積量百噸又ハ其以上ノ有甲板船ニテ內地ノ航路ニ依テ貨物ヲ輸入スルモノハ右輸入船ノ到着後二十四時間以內ニ右貨物ニ付適當ナル輸入屆ヲ爲シ後之ヲ陸揚クスベシ

當官吏ニ之ヲ差出シ然後正當ノ輸入屆ヲ出スベシ陸路ニ依テ貨物ヲ輸入スル者モ亦然リトス

第三十五條　貨物ヲ輸入スル者ハ收稅官又ハ他ノ該當官吏ニ右貨物ノ仕入書及輸入者ノ姓名ヲ記入セル輸入屆書正副二通ヲ差出スベシ

右仕入書ニハ貨物購入ノ場所日附及之ヲ買入レタル商會又ハ商人ノ姓名ヲ記載シ又之ニ輸入貨物各種ノ分量及價格ヲ詳述シ輸入屆書ハ其筋ノ規定セル形式ニ從ヒ之ヲ鮮明ニ書スルカ或ハ印刷スルカ或ハ半ハ書寫シ半ハ印刷スルモノトス

水路ニ依テ輸入シタルトキハ輸入屆書ニ船舶ノ稱號、船長ノ姓名、仕向ノ先地名及港內ニ於テ貨物ヲ船卸スベキ場所ヲ記載シ尙ホ右屆書ニ貨物ノ種類及包裝ノ記號並ニ在中ノ物品、貨物ノ輸出地名及產出又ハ製造地名ヲ揭述スベシ

第三十六條　本條例ノ規定ニ從ヒ貨物ヲ庫入スルニアラサレハ輸入

者ハ之ト同時ニ輸入貨物總躰ニ課スベキ關税ヲ悉皆支拂ヒ或ハ之ヲ支拂ハセシムヘシ此時收税官又ハ他ノ該當官吏ハ直ニ右貨物陸揚免狀ヲ與ヘ且ツ輸入者ノ請求アルトキハ右貨物ヲ加拿陀内地ニ運送スルノ免狀ヲ與フヘシ

第三十八條　免税貨物ト雖モ輸入屆書ニハ必ス貨物ノ數量及價格ヲ認メ且ツ其仕入書ヲ收税官ニ差出スヘシ

第四十一條　輸入物貨ヲ賣渡シタル一個人、商會若シクハ組合ガ書面ヲ以テ正確ナリト認定セル貨物仕入書ヲ收税官ニ差出スニアラサレハ輸入屆ハ總テ完全ノ効力ヲ有スルニ至ラスト雖モ本條例ニ於テ別ニ規定スル所アリ或ハ總知事ガ内閣ノ同意ヲ得テ制定スル規則ニ依ル場合ハ此限リニアラス注文貨物ノ場合ニ於テハ貨物仕立入書言ヲ以テ輸入屆書ノ正確ナルヲ證明スヘシ

第四十條　貨物ノ破損及遺失ノ場合ニ於テハ總知事ハ其情況ヲ調査シ若シクハ從量税又ハ兩税ヲ課スベキモノニシテ輸出地タル外國港ヲ出發シ仕向地タル加拿陀ニ到着スルノ間ニ於テ損害ヲ蒙リ爲ニ價格ヲ減少シタルトキハ下條ノ規定ニ從ヒ右貨物ニ課スベキ關税ヲ減殺スルヲ得ベク若シ又已ニ關税ヲ支拂ヒタルトキハ損害ノ度ニ比例シテ該税金ノ一部ヲ拂戻スヲ得ベシ

右關税拂戻ノ請求ハ正當ノ形式ニ從ヒ之ヲ爲スモノニシテ其請求ハ當初右貨物船卸ヲ爲シ政府之ヲ保管スルノ際若シクハ當初船卸ヲ爲シ審査ヲ受クタルノ後直ニ正當ナリト證明セシコトヲ要ス但右審査ハ收税官、關税評定者若シクハ他ノ該當官吏ニ於テ之ヲ完結證明シ損害ノ害ハ右等官吏カ陸揚後十日以内ニ之ヲ評定スヘシ

第五十二條　收稅官又ハ評價者ハ貨物ノ競賣ニ係ル收獲金ヲ以テ損害成立ノ證據トセザルベク又之ヲ以テ損害ノ程度ヲ計ラザルベシ

收稅官或ハ評價者ハ解纜以前ニ存在セシ腐敗、浸濕或ハ其他ノ原因ニ歸スベキ損傷ニシテ貨物ヲシテ通例ノ輸入航海ニ堪ヘザラシメタルトキハ之ニ由リテ稅金拂戻ノ計算ヲナサヽルベク又之ヲ以テ減稅許可ノ理由ト爲サヽルベシ

收稅官若クハ評價者ハ鐵、鋼鐵及鐵、鋼器ノ錆ヲ生シタルモノニ對シテハ減稅ヲ爲サス又此等ノ貨物ニ對シテハ關稅ヲ拂戻サヽルベシ

但一部若クハ全部精磨鋼ヲ以テ成立セル製造品露西亞鐵ノ精磨シタルモノ並ニ加拿陀製鐵板ハ此限ニアラスシテ此等ノ貨物ニ對シ

※オハ五割マデ稅金ヲ減シ若クハ之ヲ拂戻スベシ

收稅官若クハ評價者ハ液躰物入ヲ荷裝若クハ其標章汚染又ハ損傷スルモ包中ノ物品ニ水或ハ他ノ外物浸混シ現ニ物質上ニ損害ヲ被ルニアラサレハ減稅ヲ爲サヽルベシ

收稅官若クハ評價者ハ砂糖及其他ノ糖質物ニシテ分極鏡（ポラリスコープ）ノ査定ニ從ヒ關稅ヲ算定スヘキモノニ對シテハ減稅ヲ爲サヽルベシ然レトモ砂糖物ニシテ輸入航海ノ際鹹水ノタメニ損害ヲ被リタルトキハ關稅長官ハ一被害品ヲ被ラサル同品ノ見本（關稅長官カ糖質物査定ノタメニ使用セル鑑定人ノ定メタルモノ）ニ比較セシメ現ニ前者ニ侵入存在セル鹹ノ量後者ノ水量ニ超過スルトキハ右被害品ニ包含セル糖質（分極鏡ヲ以テ査定セルモノ）ノ分量ヨリ右超過量ノ五倍ヲ減少スヘシ

第五十五條　加拿陀ニ輸入シ來ル生果及野菜ノ如キ腐敗スヘキ物品ノ航海中自然ノ漸壞ニ依テ損敗シタルモノニ對シテハ減稅ヲ爲ス

コトヲ得然レトモ右ノ損失及本條例ニ云フ所ノ脆弱物即チ陶磁器玻璃及玻璃器ノ如キモノ破碎ニ基因セル損害ヲ計量シ減稅ヲ爲スニ於テハ被害全量ノ二割五分以下ニ對シテ關稅ヲ減スルニ止マルナリ但關稅ヲ減少スルハ之ニ係ル請求アリ且ツ評價者若クハ他ノ該當稅關官吏カ仕向ケ地ニ於テ貨物到着或ハ陸揚ケシタル後三日以內ニ減失又ハ損害ヲ證明セル場合ニ限ルナリ又既ニ關稅ヲ支拂ヒタル場合ニ於テ關稅長官ニ請求セハ右關稅ハ損害ノ程度ニ從ヒ且ツ前條規定セル事件ニ準據シ之ヲ拂戻スヲ得ヘク然ヲサレハ之ヲ拂戻サヽルヘシ

第五十八條　稅額査定

加拿陀ニ輸入セル貨物ニ對スル從價稅ハ直接輸出國ノ主要ナル市場ニ於テ輸出ノ當時貨物ヲ內國消費ニ賣却シテ收獲スヘキ至當ノ市價ヲ以テ定ムルモノトス

第六十一條　製造品ヲ組織部ニ分チ加拿陀ニ輸入セシトキハ右各部ニ對シ仕上品ト同一ノ稅率ニ從ヒ課稅スヘシ右貨物ニ課スヘキ關稅ニシテ從量稅ナルカ若クハ從量及從價ノ兩稅ナルトキハ賦課スヘキ從量稅若クハ從價ノ兩稅ニ均シキ平均從價稅ヲ査定シ之ヲ製造品ノ組織部ニ課スヘシ

第六十四條　貨物ノ相當市價ハ他國政府ニ許容セル減稅額輸出入者間ノ特約ニ係リ或ハ貨物ノ輸出若クハ將ニ之ヲ輸出セントスルノ關係ニ由リ數人間ノ約定ニ係ル割引又ハ減價或ハ貨物ノ賣却又ハ使用ノ地域ニ關スル權利並ニ加拿陀ニ貨物ヲ輸入セル國ニ於テ貨物ノ賣却者若クハ所有者カ機械或ハ其他ノ貨物ノ模造備用並ニ賣却ノ際賦課スル所ノ金額ヲ含有スルモノト看做スヘシ

右ノ減稅、減價、貨物ノ模造若クハ使用ニ關スル金額等ヲ輸入屆ノ際差出ス所ノ仕入書ニ於テ貨物ノ價格ヨリ控除シ又ハ該書ニ示サヽルトキハ收稅官ハ右等ノ金額ヲ追加シ法律ニ從ヒ之ニ對シテ關稅ヲ納メシムヘシ

第六十七條　荷裝費、草稗費、繩索費、包紙費、線金費、切斷費若クハ其他船積ノタメ貨物荷裝ニ要シタル雜費或ハ要シタリト稱スル雜費ハ仕入書ニ書載スル物價ヨリ減除セサルベシ右費用ハ孰ノ場合ニ於テモ課稅價額中ニ加算スヘシ

第七十四條　本條例ノ條欵ヲ遵守セル輸入者荷主、貨物取引者或ハ代理者ニシテ下條ニ規定セル評價者ノ爲シタル貨物評價ニ對シテ不滿ヲ懷クトキハ三日間內ニ書面ヲ以テ右ノ不滿ヲ收稅官ニ告知スルヲ得收稅官右告知ヲ領收スレハ直ニ右輸入者、荷主、貨物引取者或

ハ代理者ヲシテ問題ニ係ル貨物ノ性質並ニ價格ニ通曉シ且ツ本問題ニ關係ヲ有セサル者ヲ選ハシメ又別ニ親ラ右ト同樣ノ者ヲ選定シ右ノ選定ヲ輸入者、荷主、貨物引取者或ハ代理者ニ通牒スヘシ但別ニ規定アル場合ハ此限ニアラズ

右ノ選擇ヲ受ケタル者ト關稅長官カ關稅局員中ヨリ選定セル第三者ト共ニ本條例ノ條欵ニ從ヒ貨物ヲ審査評價スヘシ右三者ノ議決若クハ三者一致セサルトキハ其多數ノ議決ヲ收稅官ニ報告シ其議決ヲ以テ最後ノモノト爲シ之ニ準據シテ關稅ヲ賦課徵收スヘシ

右議決ハ之ヲ前陳評價者ノ審議ニ擬出スルノ外決シテ他ノ場合ニ適用スルヲ得ス

收稅ノ保護

第百二十條　輸入者又ハ其代理者ニ於テ荷物中ノ物品ヲ知ラスト申

立ツルトキハ收稅官又ハ當該官吏ハ右輸入者又ハ代理者ノ面前ニ於テ其費用ニ依リテ包裝ヲ開キ之ヲ檢査スルヲ得再ヒ之ヲ包裝スル費用モ同シク輸入者或ハ代理者ニ辨償セシムヘシ

第百二十二條　荷裝中ニ於テ其仕入書或ハ輸入屆書ニ記載セサル貨物ヲ發見スルトキハ之ヲ沒收スヘシ又右貨物ヲ發見セサルモ其價格ヲ査定シタルトキハ該貨物ヲ輸入屆ヲ爲サシメ之ヲ領收シタルトキハ直ニ其報告ヲ爲サス且ツ輸入屆ヲ怠リタル荷主、輸入者、若クハ他者ハ貨物ノ價格ヲ追徵セラルヘシ

第百二十三條　仕入書或ハ輸入屆書ノ記載ニ符合セサル貨物ヲ發見シタルトキ又ハ關稅ノ全部或ハ一部ヲ免ルノ目的ヲ以テ貨物ヲ仕入書若クハ輸入屆ニ記入シタルトキ又ハ前陳ノ目的ヲ以テ貨物ノ價格ヲ過少ニ屆出タルトキハ該貨物ヲ沒收スヘシ

輸入禁制品

左ノ物品ヲ輸入シタルモノハ二百弗ノ罰金ヲ課シ併テ其物品ヲ包入セシ荷物ヲ沒收ス

一　治安ヲ妨害シ道德ヲ壞亂スヘキカ如キ性質ヲ有シタル書籍圖畫寫眞

一　贋造貨幣

一　加拿陀ニ版權アル書籍或ハ英國ノ版權書類及加拿陀ニ版權アル書類ヲ再版シタルモノ

一　溶解物即チ油及牛酪ノ僞造品其他牛酪ニ代用スル物品(以上ノ品物ヲ輸入シタル者ハ一品每ニ二百弗以上四百弗以下ノ罰金ヲ課シ尙ホ其包入セシ荷物及製造準備等ニ使用シタル諸器械一切ヲ沒收ス)

一　監獄又ハ懲治監内ニ於テ全ク囚徒ノ製造セシモノ若クハ其一部分囚徒ノ製造ニ係ルモノ其他右等囚獄内又ハ之ト連絡セル場所ニ於テ製造シタル物品

輸出禁制品

鹿、野生七面鳥、野生鵝鳥等ハ其輸出ヲ禁ス犯スモノハ毎品百弗ノ罰金ヲ課シ併テ其物品ヲ沒收ス若シ輸出上疑ハシキ證跡アルモノハ稅關吏ニ於テ之ヲ捕縛シ輸出ノ證據判然セシトキハ稅關ノ法律ニ照シ其罪ヲ問フヲ制トス

第九項　加拿陀稅目

左ニ記スル所ハ日本ヨリ輸出スル重要ナル物品ノ稅率ヲ示スモノナリ

日本ヨリ輸出物品	稅金	日本ヨリ輸出物品	稅金
藥品（非製品草木ノ皮根）	無稅	度量衡	二割
藥品（製劑或ハ水藥）	一割乃至五割	竹及ヒ竹切レ	無稅
農具	三割五分乃至二割五分	鳥類	二割
寫眞帖	三割五分	硫酸	無稅
蒲團	二割五分	大麥（ブッシュル）	十五錢
絹前垂	三割	蕎麥	十錢
アラビヤン護謨	無稅	玉蜀麥	七錢五厘
造リ花	二割五分	燕麥	十錢
敷物（綿亞麻等ヨリ製）	二割五分	小麥	十五錢
瀬戸物磁器	三割	碗豆	十二錢
堅石灰（無焰炭）	無稅	蠶豆	十五錢

柔石灰(燈炭)	一トンニ付金六十錢	米	一斤ニ付一錢二厘五毛
綿布織物編物類	一割五分乃至三割五分	米ノ粉	仝　二錢
書圖類	二割	玩物	三割
鷄卵	無税	蒔麻子油	二割
扇子紙張	三割五分	漆及ペンキ類	一ガロンニ付十錢ト其他ニ二割五分ノ追税
仝　木製	三割五分	大理石製品ノ大小ニ依リ	一割乃至五分
仝　絹張	二割五分	摺付木	二割五分
羽類	二割五分	鏡	三割
室内裝飾器具	三割五分	麝香	無税
皮類非製品		魚油	二割五分
皮類製品		紙(手紙用記載用)	三割五分
硝子類製品		油紙	三割五分

動物毛類(非製品)	無税	紙製掛物	二割
仝　製品	二割	傘	三割
ハンカチーフ絹製	三割	烟管	三割五分
仝　綿紙	二割五分	植木	無税
鐵具雜器	三割	家鷄	二割
鰹山葵ヲロシ	三割五分	籐	二割五分
髮剃	二割五分	烟草非製品	無税
絲織物	二割五分	仝　製品	一斤ニ付卅錢ト其他ニ一割半ノ税金
香水	三割	茶	仝
鹽	百斤ニ付十錢	苗物	仝
鋏	三割	ターペンタイン粗製	仝
種物	一割五分	仝　精製	一割

貝細工	三割	木製杖	二割五分
絹衣着	三割	行李	割五分
絹傘	仝	柔皮用及染物用樹皮	税
酒類	一ガロン二弗ト其他ニ三割	昆布	仝
砂糖	三割	酢	一ガロン十五錢
菓物	無税	醬油	仝四十錢其他ニ二割ノ税金
菓物鑵詰	一鑵ニ付三錢其他ニ一斤ニ付三錢税	カヒー	無税
顔料	二割	鹿肉	無税

輸出税

家根葺用ペイン(松ノ類)シーダー(杉ノ類)樹ノ薄板片百二十八立方尺ニ付一弗五十錢スプルース(松ノ類)樹ノ丸木一千立方尺ニ付一弗ペイン樹其他ノ丸木仝二弗

第十項　通貨及銀行

加拿陀ハ金貨國ニシテ專ラ金貨ヲ通用ス、之ヲ計フルニ弗仙厘ノ「デシマル」法(十位一進ノ法)ヲ以テス、然ルニ太平洋沿岸地方ニテハ右ノ外「ペエッ」ノ稱アリ、而シテ一「ペエッ」ハ十二仙五厘ヲ指スモノニシテ六「ペエッ」即チ七十五仙マテヲ計ヘ、六「ペエッ」以上ハ弗仙ヲ以テ呼ブ、此「ペエッ」ノ稱號ハ此地方ヲ經過シタルコトアラサル輩ハ之ヲ解セサルモノ多カルベキヲ以テ婆心ノ餘リ特ニ爰ニ之ヲ説明シ置クナリ

通用ノ貨幣ニハ銀貨一弗、五十仙、二十五仙、二十仙、十仙、五仙アリ、銅貨ニ一仙アリ何レモ英國ニテ鑄造セシモノナリ

政廳發行ノ紙幣ニハ四弗、二弗、一弗、二十五仙アリ、銀行發行ノ紙幣ハ五

弗以下ヲ禁セリ

金貨モ亦加拿陀ニテハ之ヲ鑄造セシコトナシ然レトモ合衆國ノ金貨ハ到處ニ通用セリ

銀貨ノ二十仙並ニ銅貨ノ一仙ハ近來大ニ其數ヲ減シ太平洋沿岸地方ニテハ殆ント見ルコトナシ、是レ此地方ニテハ物價非常ニ貴ク五仙以下ノ賣買品ハ甚タ稀ニシテ、五仙貨幣ハ最下位ノ者ト認メラレ、二仙、三仙ノ取引ニハ五仙貨幣ヲ以テスルコト一般ノ風習トナルニ由ラナリ

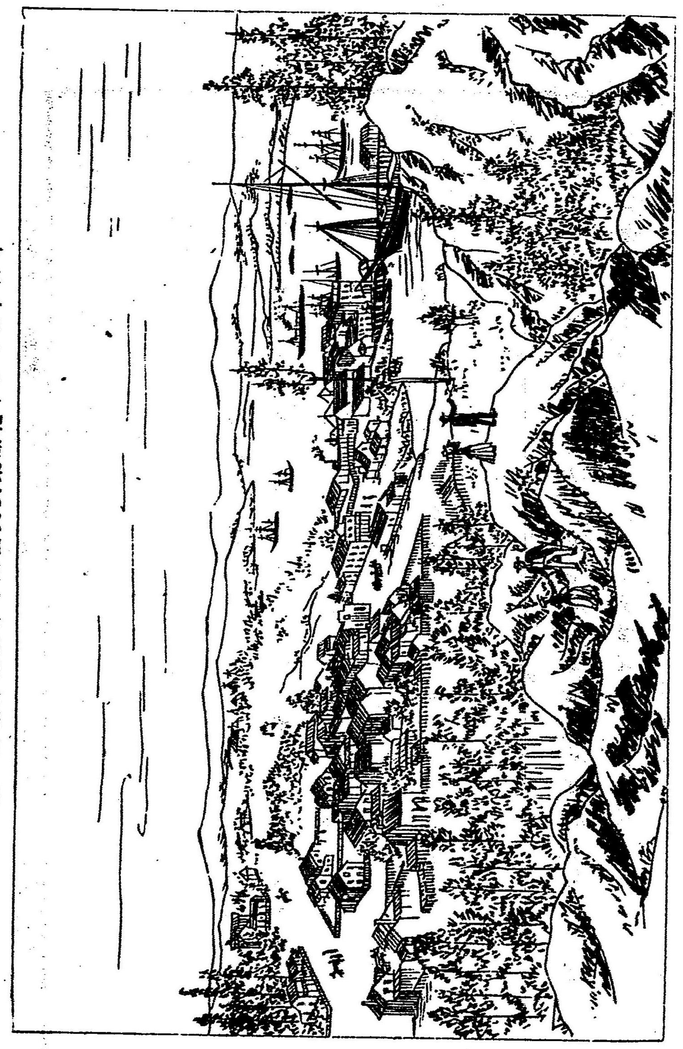
銀行ハ總テ業務盛大ニシテ加拿陀金融ノ中心トナリ、以テ商業ノ活潑ヲ保スルコト猶心臟ノ血液循環ヲ支配セルガコトシ、若シ一朝銀行ニ不幸アランカ金融忽チ逼迫シテ商業頓ニ萎微スヘシ、加拿陀ノ銀行ハ唯ニ金ノ貸借ヲ以テ本職トスルモノニアラス、手形ノ取扱敏捷ニシテ其一擧手一投足ハ大ニ商業社會ヲ喜憂セシムルノ力アリ

加拿陀ニテハ資本金十萬弗以下ノ銀行ヲ開クコトヲ得ス、又銀行ニテハ資本金ニ超過スルノ手形ヲ發行スルヲ得ス、千八百八十九年ノ調査ニ據レハ國立銀行ハ三十八アリテ此拂込資本金額六千九十九萬三千九十七弗、又銀行手形ハ六百三十萬弗、政府發行紙幣一千百五十三萬二千百十三弗ナリシナリ

加拿陀ニ於テ貯金ハ頗ル盛ニ行ハレ、各地人民ノ銀行及郵便局ニ預ケ入レタル金額ハ一億八千三百八十一萬弗ニ及ヘリ、之ヲ人口ニ割當ツレハ一人平均三十七弗七十仙餘トナルナリ、貯蓄銀行ノ利子ハ年四分トス郵便局ハ總テ細民ノ貯金ヲ預ルコトナルカ千八百八十八年ニハ貯金人員十萬千六百九十三名ニシテ此金額二千六十八萬九千三十二弗ナリ即チ一人平均二百三弗ノ預ケ金ニ當レリ以テ此地方ニ於ケル人民ノ貯蓄心ニ富メルヲ知ルニ足ルヘシ、斯ク貯蓄シタル金ヲ以テ後

來ノ事業ヲ營ムハ「サクソン」人種ノ長所ニシテ速ニ開進ノ効ヲ擧クル所以ナリ、本邦人民ノ如キ政府ノ勸誘至リ又盡セルニモ拘ハラズ、貯蓄心毫モ存スルナク國中ノ勞働者ハ總テ所謂宵越ノ金ヲ使用セサル如キ風習ニ比スレハ其得失ハ同日ノ談ニアラサルナリ

加拿陀人ノ銀行ニ往クハ殆ント毎日ノ課業ノ如ク殊ニ商人輩ハ銀行ニ往クコトヲ己ノ店ニ赴クカ如クニ思惟シ銀行ニ往クコト頻繁ナルモノハ自ラ信用强キ有樣ナルカ故ニ別ニ要用ナキ者ニテモ銀行ノ前ニ佇ミ互ニ談話ニ足ヲ止ムル等ノ風習アリ總テ物品ノ賣買ハ少シク纏リタル金額ノモノナレハ其仕拂ハ手形ヲ以テシテ貨幣ヲ取扱フコトハ稀ナリ、特ニ堅固ナル商人ニ在テハ毎日商賣ヲ終リタル後ニ其日ノ賣上代金ヲ銀行ニ預ケ、翌朝店ニ出勤ノ途次之ヲ受取ク行クモノアリ、毎日必ス斯ク爲スカ故ニ盜難火災等ノ爲ニ金貴ヲ失フノ恐ナク、極



東ノ所繁華ニ屬シ平太國英及羅船乾トルマエクスイ

メテ安全サルヲ得ルナリ而シテ之ヲ取扱フ所ノ銀行ハ實義ヲ尊ヒ毫モ不正ノ事ヲ爲サヽルヲ以テ、金融常ニ圓滑ニシテ不融通ノ嘆聲ハ嘗テ之ヲ聞キシコトナシ

第八章　英領哥倫比亞州諸市街ノ商業

第一項　ヴヰクトリア府景況

ヴヰクトリア府ハ英領哥倫比亞州ノ首府ニシテ晩香波ヲ距ルコト海路凡ソ八十哩、晩香波島ノ東南端ニアリ、千八百六十二年ノ創立ニシテ爾來三十年ヲ過キサルニ人口已ニ二萬ニ達セリ

此府ハ善良ナル港口ニ方リ海路交通ノ便宜シキヲ以テ、夙ニ百貨輻湊ノ要地トナリ第一ノ繁榮ヲ極メタリシガ、先年加拿陀鐵道開通以來商

業次第ニ晩香波ニ移リ、此府ノ進歩ハ稍々停止ノ狀ヲ來セリ、近來此地ノ鐵道ヲ延長シテフカ海峽ニ及ホシ、夫ヨリ汽船ノ便ヲ開キテ對岸ナル北米合衆國領内ノ鐵道ト連絡シ、以テ此府ノ繁榮ヲ增サシメントノ計畫アレドモ、此鐵道ノ成功急ニ期シ難ク、又鐵道竣功シタリトモ大陸東部ニ達スル便利ハ到底晩香波ニ及フ能ハス、サレハ將來商業上ノ關係ニ就テハ到底一歩ヲ讓ラザルヲ得ザルヘシ然レドモ此府ハ創立最モ古クシテ三十年ヲモ經過シタレハ、市街ノ躰裁總テ整頓シ州中ノ富豪ハ皆邸宅ヲ此地ニ搆フ、出入ノ船舶頗ル多クシテ商業亦盛ナリ、日本人ノ在留セルモノ四五名アリ、殊ニアラスカ水獺漁獵ノ始マル頃ハ日本漁夫ノ集ルモノ常ニ四五十名ニ達ス

此府ノ西北凡ソ三四哩ニシテエスクヱマルト稱スル地アリ、英國太平洋艦隊ノ停繫所ナリ、之ニ接近シテ巨大ナル乾船渠アリテ共ニ此府ノ繁榮ヲ助クルモノナリ、是ヨリ晩香波ニハ月曜日ヲ除キ毎日汽船ノ便アリ、又合衆國領ヴヤトル、ポートランド及桑港ニハ各五日毎ニ一回ノ汽船便アリ、又アラスカニハ各週一回ノ汽船便アリトス、此地ノ近傍ニハ森林多クシテ樹木鬱蒼タリ、一目シテ其沃土ナルヲ知ル、然レドモ住民甚タ稀少ナルカ故ニ土地ノ開拓進歩セス、肥饒ノ土地ヲシテ空シク野生草木ノ繁茂スル所タラシムルノミ

第二項　ニユー、ウエスト、ミンスター市景況

ニユー、ウエスト、ミンスター市ハ大陸中ニアリテ巨流フレザー河ノ北岸ニ位シ海口ヲ距ルコト凡ソ十六哩、晩香波ニ近クシテ僅ニ十餘哩ヲ隔ツルニ過キス、此間ニハ電氣鐵道ノ設アリテ一日三回ノ往復ヲ爲

此市ハ英領哥倫比亞州中第三等ニ位シ人口八千餘ヲ有ス、昔時哥倫比亞州ノ首府ナリシヲ以テ今尚ホ宏大ナル建築物多ク存在ス、元來水利ノ便宜シク四通八達ノ地ナルカ故ニ内地物産ノ集合所トシテ貿易頗ル繁盛ナリ

市外一哩ヲ距ル高丘ニ監獄署アリ、癲狂院アリ、現今ノ囚徒九十人ノ中三分ノ一ハ支那人ナリト云フ、日本人ハ曾テ入獄シタルモノ無リシカ、千八百八十九年黒人ト爭ヒ負傷セシメタル者アリテ獄ニ下サルヽニ至リ、囚徒名簿ニ始テ日本人ノ名ヲ留メタルハ實ニ遺憾ニ堪ヘザルナリ

第三項　市景況

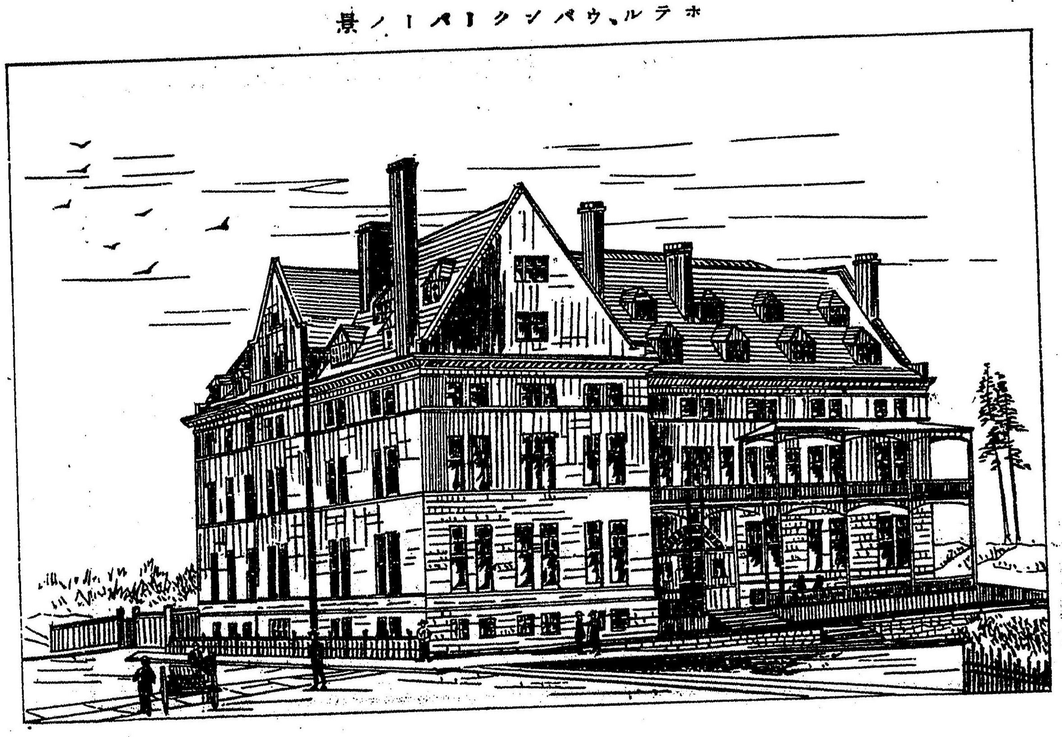
ナリトモ市ハ晩香波島ノ東岸ニアリテ、首府ヴヰクトリアヲ距ル凡ソ七十哩、二十年以前ノ開港場ナルカ故ニ現今人口七千ニ達セリ、有名ナルナレトモ石炭山ハ此地ニアリ、此石炭ヲ運搬スル爲メ常ニ四五艘ノ船舶集レルヲ見ル、市街ハ概テ炭山ノ勞働者ヲ以テ充タサルヽニ由リ日常品ノ販賣ニ從事スルニハ屈强ノ地タルナリ、日本人ハ一人モ住スルモノアラサレトモ支那人ハ七八十名住セリ、多クハ洗濯ヲ營ミ若クハ蔬菜ノ培養ヲ業トセリ中ニハ炭山ニ勞働スルモノアレトモ白人ノ感情宜シカラス、是ヲ以テ炭山ノ持主ハ嘗テ日本領事館ニ來リ、今後該炭山ノ鑛夫ハ悉ク日本人ヲ用ヒントスル希望ヲ述シタリ、此地ヨリ首府ヴヰクトリアニハ鐵道通シ又晩香波ニハ毎日小蒸滊船ノ往復アリテ交通ノ便頗ル宜シ

第四項　晩香波市景況

晩香波ノ市街ハ今古各國ニ比例ナキ長足ノ進歩ヲ爲シタルナリ、サレハ近來世人カ眼ヲ此市ニ注クモノヽ多キハ故ナキニアラザルナリ、殊ニ四五年前ヨリシテ晩香波テウ市名ハ米國ハ勿論歐亞兩洲ニ迄モ喧傳シ先ヲ爭フテ來遊シ其實況ヲ視察セント欲スルモノ陸續トシテ絶エス、歐米ノ新聞記者ノミニテモ其來觀者ハ已ニ百餘名ノ多キニ及ヘリ

港灣ハ我長崎港ニ似テ三方陸地ヲ以テ圍繞ス廣サ三哩ニ過キスト雖モ長サ三十哩アリテ、深サハ六十丈ニ達シ淺キモ猶十丈ニ下ラス、故ニ如何ナル大艦巨船ト雖モ容易ニ埠頭ニ横着スルヲ得ルナリ、其埠頭ハ我神戸港ニ於ケル機橋ノ如ク海中ニ築キ出シタルモノニ非ス、灣中何レノ岸ニテモ荷物ノ揚卸ニ適スル樣ニ造構シタルナリ、サレハ一時ニ數百艘ノ大船輻湊スト雖モ更ニ狹隘ヲ感セザルナリ、港内風波隱ニシ

ホテル、ウバンクバーノ景



國ニ於ケルガゴトシ、加拿陀太平洋鐵道ハ地球上ノ通路ニ一大便益ヲ加拿陀東西ノ兩大洋ヲ連絡セシムル關門タルコトハ猶ホ桑港ノ合衆港已ニ善良ニシテ且ツ其位置タルヤ加拿陀太平洋鐵道ノ西端ニ當リ至レリ

ノ設備諸所ニアリテ、絶エス警戒スルカ故ニ大ニ危險ノ患ヲ減スルニ三ヶ月ハ深霧港内ヲ閉チ、船舶ノ出入困難ナルニアレトモ近來號笛鐘磬無數カル良港トナルヤ疑ヒナシ唯奈何トモスベカラサルハ冬春間二レハ危險ノ虞ナキニアラスト雖モ他日滄海ノ功ヲ奏スレハ眞ニ完全差ヲ生スルカ爲メ干潮共ニ急流ニシテ不知樂丙ナル船員ニハ動モスノハ艦ノ入口狹隘ニシテ潮汐ノ進退ニ由リ春時ハ水面十尺五寸位ノ天然ノ良港タリ是レ晩香波ノ速ニ進歩セル所以ナルベシ惜ムヘシ、實ニ恰モ鏡面ノ如ク如何ナル大風雨アルモ船舶ノ顚覆スル患ナク

與ヘ、亞細亞ト亞米利加東部トハ勿論、延ヒテ歐洲諸國トノ交通ヲ便ニシタルモノニシテ、此關門ニ當ル晩香波ノ繁榮ハ固ヨリ異ムニ足ラサルナリ若シ後來アラスカ鐵道ノ開クルニ及ベハ、亞米利加太平洋海岸之ニ比スベキモノナキニ至ルヤ疑ヒナシ

今ヲ距ル六七年以前マデハ人烟稀少ナル一小漁村ニ過ギザリシカ、千八百八十六年三月一日加拿陀太平洋鐵道ノ西端ハ今ノ晩香波港ヲ以テスベシト決定セシヨリ、先見者ハ率先シテ此地ニ來集シタリ、鐵道會社ハ最其ノ地ヲ撰ミ今ノ市街ノ大半ヲ占メタリシカ、當時ハ樹木青々トシテ繁茂セル森林ナリシカハ一「エーカー」ノ地面ヲ開拓スルニ三百弗ヲ費シ、暫時ニシテ一哩平方ノ開墾ヲ遂ケ、其年四月十六日此地ヲ以テ市區ニ編入シ晩香波市ト稱セシコトヲ主張シテ速ニ其許可ヲ得タリ、蓋シ市名ハ晩香波島ヲ發見セシキヤプテイン、ヴハンクーバー氏ノ名ヲ取リシモノナリト云フ)因テ直ニ市制ヲ施行シ六百人ノ人口中ヨリ市長ト市參事會員トヲ撰擧シ、市獨立ノ會計ヲ營ムニ至リタリ、五月ニ至リ鐵道會社ハ其所有ノ地處ヲ公賣ニ附シ、市民ハ多ク家屋ヲ建築シテ廣ク來住者ヲ招キタリ、然ルニ不幸ニシテ六月十三日俄ニ大火起リ全市街ヲシテ一夜ノ中ニ烏有ニ歸セシメ爲メニ數百ノ住民ハ居ル室ナク食フニ物ナク、曾路頭ニ彷徨シ見ルニ忍ヒサルノ慘狀ヲ現出シタリ、然ルニ市民ノ剛毅不撓ナル各自負債ヲ爲シテ店舗ヲ築キ、市ハ市債ヲ募リテ燼灰ノ中ニ新晩香波市ヲ築造セリ、斯ク速ニ昔日ニ倍スル壯觀ヲ呈スルニ至リタルモノハ、一ハ「サクソン」人種ノ忍耐强キ性質ニ基クト雖ヒモ要スルニ將來必ス盛大ニ至ルベキ目的ノ定マレルニ由ラスンハアラス、其翌千八百八十七年五月二十三日ヲ以テ太平洋鐵道始メテ此地マテ全通セリ、而シテ日本ト定期航海ヲ開キシハ實ニ其年

六月ニアリ、爾來市ノ繁榮ハ日々盛大ニ赴クリ

市街ハ晩香波港ニ臨ミテ半島形ヲナシ、三方海水ヲ以テ環ラシ東ノ一方僅ニ陸地ニ接ス、市街ノ最高丘ハ水面ヲ抜クコト二百呎、是ヨリ四方ニ傾下スレハ排水ノ便自然ニ備ハリ、大雨ノ時ト雖モ水ノ滞溜スル患ナシ、飲用水ハキヤピーラノー山頂ヨリ七哩ノ鐵管ヲ通シテ市街ノ各戸ニ分配スルガ故ニ至テ清良ナリ、又水源高處ニアルヲ以テ三階四階ノ樓上ト雖モ螺旋ヲ捩レハ自ラ噴出シ、勞セスシテ欲スル所ノ水ヲ得ルナリ、水道税ハ一螺旋日ニ付二十五仙ニシテ通例一家二三口ヲ備フ

又電氣鐵道ハ市中到處ニ敷設シ、晝夜ヲ分タス往來ス、故ニ五仙ヲ没スレハ市中ノ端ヨリ端ニ達スルヲ得ベシ

市民ノ歡樂ヲ取ルベキ設ケモ頗ル備ハリテ公園ハ三ケ所アリ、一ハ市街ノ北西端ニ在リテ「スタンレー、パーク」ト稱ス面積九百五十「エーカー」周圍九哩アリ、樹木蓊々トシテ繁茂シ中ニハ高サ三百呎直經十五呎ノモシアリ、風景絶佳ニシテ夏日百鳥ノ好音ヲ以テ著ハル、第二ハ東方ニアリ面積百六十「エーカー」土地高壇ニシテ市中ヲ眼下ニ瞰ム、第三ハ東南ニ在リ前ノ二者ニ及ハスト雖モ亦佳域タリ、斯ク三方公園ヲ以テ圍マルハ為メ市民ノ健康上ニ好結果ヲ與フルヤ必セリ、市中ニ貸馬車アリテ半日三弗十日五弗ヲ投スレハ隨意ニ馳驅スルヲ得可シ、故ニ日曜日ニハ勞働者ト雖モ夫妻相携ヘテ馬車ヲ驅リ公園内ヲ漫遊スルモノ頗ル多シ、斯ク下級ノ人民ト雖モ意氣揚々トシテ快樂ヲ取ルヲ得ルハ本邦人ノ夢ニダモ見ル能ハサル所ナリ、又舟遊場數ケ所アリテ貸舟ヲ備フルニ由リ二十五仙ヲ拂ヘハ二時間ノ久シキ自在ニ港内ヲ漕キ廻ルヲ得可シ

人口ノ增加ハ實ニ非常ニシテ一驚ヲ喫セサルヲ得ス、千八百八十六年

ヨリ仝九十一年ニ至ル六ケ年間ノ增加ハ次ノ如シ

千八百八十六年二月	六百人
千八百八十七年一月	二千人
千八百八十八年一月	六千人
千八百八十九年一月	一万人
千八百九十年一月	一万五千人
千八百九十一年一月	二万人

以上五ケ年間ニ凡ソ三十三倍ノ增加ヲ爲シタルナリ、猶此他ニ年々來去スル仝ク一時限リノ勞働者ハ實ニ夥多ナリトス

市街ノ建設以來未多年ヲ經サルニ由リ、家屋不整頓ニシテ恰モ火災後ノ觀象アレ𪜈仔細ニ觀察シ來レハ規模ノ偉大ナル嚴然大都タルノ狀勢アルナリ、市區ノ劃一ニシテ正シキ、道路ノ眞直ニシテ廣キ、人道、馬車道、電氣鐵道ノ三部ニ區分シ、人道ニハ全面ニ板ヲ敷設シアレハ雨天ト雖𪜈婦女小兒ノ歩行ニ靴ヲ汚スノ患ナシ

前ニ示ス如ク市街人口ノ增加非常ニ迅速ナレハ之ト共ニ商工業ノ發達モ亦人ヲ驚カスニ足ルモノアリ、次ニ千八百八十九年及仝九十年ニ於ケル商工業ノ資本額ヲ示サン

種類	一八八九年末調	一八九〇年末調
工業資本	—	三、三一七、九〇〇弗
商業資本	—	三、〇一八、〇〇〇
仝店數	六三〇箇	一、二八九箇
合資會社資本	二、七八五、〇〇〇弗	一、二四〇、〇〇〇弗
木材業資本	—	一、七五〇、〇〇〇
船舶ノ價額	—	五、五五〇、〇〇〇
共計	二、七五八、〇〇〇	二六、〇三六、九〇〇

ヴアンクーバー港ニ支店設置銀行ノ總資本	三五、〇〇〇、〇〇〇

右ノ内工業及商業ハ兩年ノ對照ヲ得ザレハ增加ノ度詳ナラス、但商店ノ數ハ六百三十ヨリ千二百八十九ニ增シタレハ恰モ倍數ニ達セリ、右ノ外最モ驚クヘキハ合資會社資本ニシテ千八百九十年中一千萬弗程ヲ增セリ、就中其重ナルモノヲ擧クレハ資本金二百五十萬弗ヲ有セル土地ニ關スル會社二箇、同五十萬弗ヲ有セル貸借金、木材、土地改良、製糖所、電燈及電氣鐵道會社等ニシテ二十五萬弗以下凡ソ二十社ナリ、當港ハ僅ニ人口二萬ニ過キサル小市邑ナルニ拘ハラス巨大ノ會社陸續トシテ勃興スルハ固ヨリ其位置ノ善良ナルニモ因ルベシト雖モ、一ハ自治制ヲ實地ニ利用シ市ノ發達ヲ圖ランガタメ市民等協同シテ諸事業ヲ奬勵スルニ因ルモノナラン、即チ前ニ記シタル製糖所竝ニ千八百九十一年一月決議シタル脩船渠ノ如キハ孰モ市債ヲ興シテ之ヲ補助スルコトヽ爲セシカ如キハ其一例トシテ見ルヘシ

第五項　商業ノ習慣

商品賣買手數料並ニ倉敷料等ニ就キ商業會議所ノ規定シタル所ヲ抄シ以テ貿易家ノ參考ニ供セントス

(1) 手數料　特別ノ條約ナキ場合ニ於テハ左ノ手數料ヲ徵收スベシ

第一　株式公債證書其他抵當物ノ買入並ニ右仕拂ノ爲メ手形振出等　二分五厘

第二　株式公債證書其他抵當物ノ壹部並ニ右爲換手形ノ送還及保證等　二分五厘

第三　正金銀砂金地金銀ノ賣買　一分

第四　裏書付爲換手形ノ壹部　三分五厘

第五　裏書ナキ爲換手形ノ賣却　一分

第六　依頼ニ因リ爲換手形ニ裏書スルヿ　二分五厘

第七　保證付ノ產物及商品ノ一部　七分五厘

但右ハ普通ノ場合ヲ示セシモノナレハ巨額ノ荷物ニ付特別ノ契約ヲ爲シ得ルコトハ勿論ナリ

第八　受托品返還ノ場合　二分五厘

第九　資本ヲ備ヘテ商品ヲ買入船積スル等ノ場合ニハ其價額ノ　五分

第十　資本ナクシテ商品ヲ買入レ船積スル等ノ場合ニハ其價額ノ　七分五厘

第十一　滯金幷ニ公事金ノ取立及送還ノ場合　一割

第十二　外國ヨリ入港ノ船舶ニ搭載セル荷物ノ運賃取立ノ場合ニハ其取立額ノ　五分

第十三　諸般ノ債金取立　五分

第十四　同上取立金額二萬弗以下ノ場合　五分

第十五　同上金額二萬弗ニ超過セル場合　二分五厘

第十六　船舶ノ賣買　五分

第十七　外國ヨリ入港ノ船舶ニテ積荷物若クハ乘客等ヨリ手數料ヲ拂ハサル場合ニ於テハ港務局ハ船舶ヨリ左ノ金額ヲ收ムベシ

登記二百噸ノ船舶　二十五弗

仝　二百噸乃至三百噸　五十弗

仝　三百噸乃至五百噸　百弗

仝　五百噸乃至七百五十噸　百五十弗

仝　七百五十噸以上　二百弗

第十八　受托人ニ於テ金圓ヲ受領シ船舶ノ消費ヲ拂フ場合　二分五厘

第十九　積荷物及乘客ノ周旋　五分

第二十　船舶雇入ノ場合ニハ傭船證書ニ調印ノ時ニ擧示スル所ノ實額若クハ豫定額ノ　五分

第二十一　訴訟ニヨリ差押ヲ受ケタル船舶ニ證書ヲ發付スルトキハ其責任額ノ　二分五厘

第二十二　難破船ノ荷物陸揚ケ及船移シノ場合ニテハ其積荷目錄若シ積荷目錄ナキトキハ市價ノ　五分

第二十三　貨物ヲ發受スルトキハ積荷目錄ノ高ニ依リ

第二十四　海上保險ヲ爲ス場合ニハ保險高ノ　二分五厘

第二十五　前條ノ手數料ハ海關世話料ヲ除キタルモノニシテ其都度之ヲ拂ハザルヲ得ス　五分

第二十六　埠頭ニ於テ積荷物ノ配付及引渡等ニ使用スヘキ書役人夫等ノ賃銀ハ船舶ヨリ支給スルモノトス

第二十七　積荷物ノ送狀ヲ領收シタルトキハ荷物ヲ領受シタルモノト認ムルモノトス

(2)商品倉敷料（一ケ月間ノ倉敷料）

尺度ニテハ四十立方呎ノ一噸ニテ倉敷料五十仙トス又重量ニテハ二千二百四十斤ノ一噸ヲ同價トス但尺度ノ割ニテ拂フトモ又

ハ重量ニテ拂フトモ开ハ荷物受托人ノ便宜タルヘシ

一ケ月以内タリトモ猶一ケ月ノ倉敷料ヲ拂フモノトス

(3) 商業規則

甲、商品引渡運賃支辨等ニ關シ若シ荷物ノ送狀ニ公然タル明約ナキ場合ニ於テハ陸上ニテ荷物ヲ引渡スモノト認ムベシ

乙、總テ荷物ノ運賃ハ其引渡前ニ支辨スルカ又ハ船長及受托人ノ滿足スベキ保證ヲナスモノトス

丙、賣捌キタル貨物ハ之ヲ買手ニ引渡シタル上已ニ當港ヨリ他ニ輸送シタル場合ニハ損害不足若クハ之ニ類セル要償ヲナスヿヲ得ス

丁、若シ外國荷物送狀ニ特別ノ貨幣ヲ以テ拂フベキヿヲ公然明約シタルトキハ之ヲ請求スル場合ニ於テ右貨幣カ若クハ銀行ニヲ時價ニ依リ決定シタル相場ニ從ヒ相當ノ金額ヲ拂フベシ

當地商品賣買ハ六十日ノ期限ヲ與フルヲ通則トス但現金拂ナレハ二分ヲ割引ス右期限ヲ過グル延滯金ニハ六朱ノ利子ヲ課ス

晩香波ニテハ商店開業ニ就テ免許料ヲ要セス

(4) 保險料

倉庫内荷物火災保險料ハ左ノ如シ

月數	金高	保險料
一	百弗ニ付	三〇仙 弗
二	〃	四五
三	〃	六〇
四	〃	七五
五	〃	九〇

六	〃	一〇五
七	〃	一一三
八	〃	一二〇
九	〃	一二八
十	〃	一三五
十一	〃	一四三
十二	〃	一五〇

(5) 埠頭稅

埠頭稅ハ船舶ニ課セスト雖モ荷物一噸ニ付五十仙ヲ課ス

第六項　信用スベキ銀行並ニ爲換取組

晩香波ニ於テ最モ信用スヘキ銀行三箇アリ即チ

モントリール銀行

英領哥倫比亞銀行

英領北米銀行

右ノ内モントリール銀行ハモントリールニ其本店アリテ、資本金ハ一千二百萬弗ノ巨額ヲ備ヘ頗ル堅固ナル銀行ナレトモ東洋ノ爲換等ニハ多ク關係ヲ有セス、重ニ關係ヲ有スルハ他ノ二銀行ナリトス、英領哥倫比亞銀行ノ本店ハ倫敦ニアリ、其株金高百万磅ナレ共實際ノ拂込額ハ五十萬磅ニ過キス、積立金ハ十萬一千磅アリ、千八百九十年前期ノ配當ハ年六朱ニシテ定期預ニハ三分ノ利子ヲ付セリ、國行ニテ千八百八十七年及仝八十八年間ニ東洋貿易ニ關シ取引シタル金額ハ概ヲ左ノ如シ

爲換若クハ電信爲換ニテ送リタル金額

一八八七年　一萬二千弗　一八八八年　十萬四千弗

差引增額　九万二千弗

同行ノ配慮ニテ送リタル貨物ヨリ收入ノ金額

一八八七年　七千八百弗　一八八八年　一萬五千八百弗

差引增額　八千弗

同行ハ香港、上海、横濱、長崎及神戸等ニ送金シ其爲換劵ハ先方ノ相場ニテ之ヲ拂ヒタル後、當銀行ヨリ金貨ニテ受取ルモノトス

香港、横濱等ノ爲換相場ハ桑港ヨリ時々電報ニテ告知スル者ナレハ、營業上恰モ桑港接近ノ地ニアルト一般ナリトスサレトモ其相場ハ桑港ヨリモ二分五厘即チ百弗ニ付二十五仙高キヲ常トス、又東洋地方ノ取引ハ香港上海銀行之ヲ支理シ當行ハ又英領哥倫比亞州ニ於ケル上海銀行ノ代理ヲ爲セリ桑港ト晩香波港トノ爲換料ハ一般ニ二分五厘ヲ拂フヲ常トスレトモ兩地間ノ商業更ニ盛大ニ至レハ必ス相場ノ高低ヲ生スヘシ

英領北米銀行モ亦本店ヲ倫敦ニ置ケリ、其資本金額百萬磅ニシテ最近半期ノ配當ハ年七朱ニ當リ貸付金ノ利子ハ八朱乃至九朱ニシテ定期預ケ金ハ三朱ノ利子ヲ付ス當支店ハ千八百八十七年八月始メテ開業シタルノミナレハ未東洋爲換ヲ盛ニ取扱フニ至ラス、桑港ニモ支店アリテ爲換相場ノ變更ハ同地ヨリ常ニ報告シ桑港支店ニテ專ラ東洋爲換ヲ取扱ヘリ

第七項　合衆國及加拿陀間貨幣相場ノ差

加拿陀通用貨幣ハ合衆國ノ制ト更ニ差異ナク、加拿陀ノ全土ヲ通シテ合衆國ノ貨幣ハ金貨、銀貨「ニツケル」銅貨ハ勿論紙幣ニ至ルマテ毫モ割

引ナク加拿陀通貨同樣ニ通用ス、然ルニ加拿陀ノ貨幣ニシテ合衆國ニ入ルトキハ銀行紙幣若クハ金貨ハ一分ヨリ二分、銀貨ハ二割位ノ割引ヲ爲スニアラスンハ通用セス、是レ合衆國ハ土地早ク開ケ商業榮ヘ加拿陀ハ新開地ニシテ商業未振ハサルニ因ルナル可シ

第八項　船舶入港手數料

水先案内料　海路ノ遠近ト船舶ノ種類トニ由リテ其多寡一ナラス又强迫手數料ト自由手數料トノ別アルナリ

(イ)强迫手數料　ポイントアトキンソン及スパニス、バンタヨリ晩香波迄ハ水先案内ヲ雇フト雇ハサルトニ拘ハラス手數料ヲ拂ハサルヘカラス

(一)水先案内ヲ雇フタルトキハ左ノ手數料ヲ拂フヘシ

帆前船	水下一尺ニ付	四弗
帆汽兩用船	仝	三弗
汽船	仝	一弗五十仙

(二)水先案内ヲ雇ハザルトキハ左ノ手數料ヲ拂フヘシ

帆前船又ハ帆汽兩用船	水下一尺ニ付	二弗
汽船	仝	一弗

(ロ)自由手數料　ビクトリア府ノ入口フラタリー岬ヨリスパニスバンクト稱スル晩香波港ノ入口迄ハ水先案内ヲ雇フト雇ハサルトハ船長ノ自由タル可シ、若シ之ヲ雇ヒタルトキハ其手數料左ノ如シ

地名	帆船(水下一呎ニ付)	帆汽兩用及汽船(仝上)
自ブラツタリー岬至バンクーバー港	六〇〇弗	三〇〇弗
自カリヤン灣至仝前	五〇〇	三五〇

自レースロック　三〇〇　一〇〇
至全前
自ビーチーヘッド　四〇〇　二〇〇
至全前

挽船料　帆船ニテ挽船ヲ要スル片ハヴ井クトリア府ヨリ晩香波迄ノ往復手數料ハ左ノ如シ

噸數	手數料	噸數	手數料
四〇〇以上	五〇〇 三五〇弗	五〇〇以上	六〇〇 四〇〇
六〇〇全	七〇〇 四二五	七〇〇以上	八〇〇 四五〇
八〇〇全	九〇〇 四七五	九〇〇全	一、〇〇〇 五二五
一、〇〇〇全	一、一〇〇 五五〇	一、一〇〇全	一、二〇〇 五七五
一、二〇〇全	六〇〇		

港内ニ於ケル一切ノ手數料ハ左ノ如シ

(一)壓艙石(バラスト)荷卸料　一噸ニ付二十仙乃至三十仙

(二)飲水汲上料　汽船ハ一ガロンニ付一仙半乃至二仙
帆船ハ大小ニ拘ハラス一船ニ付二十仙
(但ムーデービール汲上所ニ於テ供給ス)

(三)埠頭税　積荷一噸ニ付五十仙ノ外別ニ船舶ニ課セス

(四)病院税　登記噸數一噸ニ付二仙但一年三四回以上ハ拂フニ及ハス

又東洋ヨリ入港シタル船舶ニ限リ檢疫料四弗ヲ拂フヘシ

(五)健康料　一弗

(六)港税　噸數ニ從ヒ差等ヲ附スルコト左ノ如シ

噸數	税金	噸數	税金
五〇	五〇仙弗	五〇以上一〇〇	一〇〇仙弗
一〇〇以上二〇〇	一五〇	二〇〇全 三〇〇	二〇〇

三〇〇仝	四〇〇	二五〇	四〇〇仝	五〇〇	三〇〇
五〇〇仝	七〇〇	四〇〇	七〇〇仝		五〇〇

（右ハ一年一回ニ限リ二回以上拂フニ及ハス）

(七)船舶檢閲料　十弗乃至二十弗

(八)荷物檢閲料　十五弗乃至二十五弗

右ハ檢閲ノ難易ニ從テ差アリ

(九)稅關手數料　稅ヲ稅關ニ納ムル手續ハ頗ル煩雜ヲ免レサレハ一切周旋人ニ一任スルヲ宜シトス周旋人ノ手數料ハ二弗乃至五弗ニシテ之ヲ稅關手數料ト稱ス

第九項　哥倫比亞州營業規則

本邦ヨリ渡行シテ商業ヲ營マント欲スルモノヽ爲メニ稅則ヲ示シ又行商ノ慣例ヲ知ラシムルハ必スシモ無益ノ事ニアラサル可ケレハ左ニ之ヲ記セントス、但稅則ハ各州異ナレトモ大同小異ナルカ故ニ英領哥倫比亞一州ノ大要ヲ示スニ止マル可シ

哥倫比亞州營業稅則摘要

第一條　州內戶數五十以上ノ市街ニテ酒類或ハ釀造水ヲ小賣販賣セント欲スルモノハ一家ニ付　四百弗　一ヶ年

第二條　戶數五十以內ノ處ニテ第一條記載ノ營業ヲ爲スモノハ一家ニ付　六ヶ月　三十弗

第三條　小賣營業ノ許可ナクシテ酒類或ハ釀造水ヲ御賣スルモノハ一家ニ付

一ケ年　百弗

第四條　飲酒場ヲ所有シ或ハ營業ノ爲メ玉突臺ヲ家屋内ニ設置スルモノハ一臺ニ付

六ケ月　五弗

第七條　阿片ヲ販賣スルモノ（但藥劑調合ノ爲メ使用スル藥舗又ハ化學者ヲ除ク）

六ケ月　二百五十弗

第八條　卸賣又ハ卸賣ト小賣ノ兼帶營業ヲナスモノハ

六ケ月　五十弗

第九條　小賣營業ノモノハ

六ケ月　五弗

右卸賣ト小賣トヲ問ハス自己ノ便宜ニ由リ隨意ニ轉居ヲ許スト雖モ一ノ營業稅ニテ同時ニ各處ニ營業スルヲ許サス

第十條　採鑛免許ナクシテ鑛山ニ從事スルモノハ自己ノ營業ニ於ケルト他人ノ營業ニ於ケルトヲ問ハス

一ケ年　五弗

第十一條　六頭以上ノ荷馬ヲ有シ荷車驛車或ハ乘客馬車ヲ營業トシ或ハ市街ヨリ十哩以上ノ距離ニ荷物ヲ輸送スルモノ（但商業稅ヲ納ムル者ヲ除ク）

六ケ月　五弗

第十二條　六頭以下ノ荷馬ヲ有シテ前條ノ營業ヲ爲スモノ（但書前ニ仝シ）

六ケ月　三弗五十仙

第十三條　馬車營業ノ者（但商業稅ヲ納ムル者ヲ除ク）

六ケ月　十弗

第十四條　家畜賣買ニ從事スルモノハ

六ケ月　五十弗

第十五條・銀行ヲ所有シ銀行業ヲ營ムモノハ一ケ所ニ付

一ケ年　四百弗

第十六條　代言ヲ營業トスルモノハ

六ケ月　二十五弗

代言免狀ヲ沒收セラルヽニ非ラスンハ州內孰レノ土地ニテモ營業ニ從事スルコトヲ得而シテ期限內ハ更ニ納稅ヲ要セス

第十七條　地券書換ヲ營ムモノ或ハ土地賣買ノ周旋ヲ營ムモノ又ハ右二業ヲ兼ヌルモノハ

六ケ月　二十五弗

第十八條　投賣者ハ他ノ營業稅ヲ納ムルニ拘ハラス(但官吏ニシテ官有物ヲ投賣スルハ此限ニ在ラス)

六ケ月　五十弗

其他ニ動產不動產ヲ問ハス賣上高ノ一割五分ヲ納ム可シ

第十九條　何人ヲ問ハス英領內ニ土地ヲ有シ其地ニ於テ選擧權アリ又商賣ヲ爲スモノハ以上諸課稅ノ外更ニ地稅トシテ

毎月　二弗五十仙

第二十條　一切ノ商品魚類獸類其他農產物ヲ行商シ又ハ呼賣スル者(但農民ニシテ其耕地ヨリ收獲セシ者ヲ販賣スルハ此限ニ在ラス)

六ケ月　二十弗

以上ハカスケート山脈ノ東北地方ニ限リ施行ス

第十項　晩香波市ノ營業稅

投賣者	一年	一〇〇弗	玉突場	一年	一〇弗
獵師	仝	一〇	驛車	仝	一〇
煙筒掃除人	仝	五	サーカス見世物	一月	一〇〇
荷物運送人	仝	五	飼料販賣所	一年	二五
呼賣商	仝	一〇〇	旅宿	仝	二〇〇
案內者	仝	一〇	船商	仝	一〇〇
馬車營業者	仝	二五	酒店	仝	四〇〇
阿片商	仝	五〇〇	質店	仝	三〇〇
筒管設置者	仝	二五	行商	仝	一〇〇
料理店	仝	一五	料理兼酒店	仝	一〇〇
掃除業	仝	一〇	古道具店	仝	一〇〇
辻見世	一日	一〇	手品輕業	一日	五〇
演劇	一年	一〇〇	御酒店	一年	一〇〇
蠟細工見世物	一日	五			

第十一項　行商ノ心得

晩香波其他北米內有名ナル諸市街ノ上等旅舍ニハ總テ見本陳列所ノ設ケアリテ其家ニ止宿スル行商ノ便ニ供シ、無代價ニテ貸渡スノミナラス行商ニハ概シテ宿泊料二割半乃至三割ヲ割引スルノ慣例ナリ、然レトモ中等以下ノ旅舍ニテハ宿泊料幾分カ低廉ナレトモ別ニ見本陳列所ノ設ナキカ故ニ、强テ之ヲ要スル場合ニハ別ニ室料ヲ拂フテ一時之ヲ借入レサルヲ得スシテ却テ不便利不經濟ナルノミカ市中ノ豪商ハ斯ノ如キ旅舍ニ宿泊スル行商ト取引スルコトヲ嫌フ風アリ、サレハ行商ヲ爲サント欲スルモノハ能ク之ヲ記憶セサルヘカラス、年々西部

地方ニ行商スルモノハ加拿陀東部ノ市街トボント、ウヰニペック、モントリールハ勿論米國有名ノ諸市街其最モ遠キハ英佛等ヨリモ渡來スルナリ、其携帶スル物品ハ種々ニシテ枚擧ニ遑アラスト雖モ加拿陀東部及合衆國東部ノ諸市街ヨリ輸入スルモノハ衣服地「シヤツ」、肌衣等ヲ以テ第一トシ、帽並ニ靴等之ニ次ク、而シテ行商ハ旅舍ニ着スルヤ先ツ其見本品ヲ陳列シテ其地ノ商店ニ通知シ一々携來リシ所ノ見本ヲ示シ其注文ヲ引受クルヲ業トス代金拂渡ハ概ヲ六十日ヲ限リトシ代金受取ノ際ニ至リテ三分ノ割引ヲ爲スヲ例トセリ時トシテハ二割モ割引スル商人アリト云フ行商ノ來ル時期ハ製造所ヨリ派出スルモノハ十月ノ初メ、卸賣ヲ爲スモノハ十一月ノ初メ小賣ヲ爲スモノハ十二月ノ初メニ於テスルモノ多シ、斯ク時期ノ異ナル所以ハ總テ基督教祭日即チ十二月二十五日ヲ目的トシテ仕入レヲ爲ス風習ナルニ由リ製造卸賣ノ如キハ幾分カ此期日ニ先タチテ到着スルノ必要アルカ故ナリ、行商ヲ爲サント欲スルモノニシテ若シ此時期ニ後ルヽトキハ少シモ取引ヲ爲ス能ハサル可シ

第九章　移住民策

第一項　新市街ノ發達

太平洋沿岸地方ノ殖民事業ハ其進歩最モ迅速ニシテ眞ニ刮目スヘキモノアリ蓋シ新ニ港灣ヲ發見シ若クハ鐵道ノ延長スルニ從テ市街ト成ルニ至ル夫レ斯ノ如クナル所以ノモノハ拓地未普ネカラスシテ遺利多ク一攫千金ノ望ミヲ遂スルコト敢テ難カラサルニ由レリ歐洲人士中特ニ英人ハ剛毅忍耐ノ氣象ニ富ミ、加拿陀ニ渡リテ人跡ノ

未到ラサル處ヲ跋渉シ、山間海邊ト雖モ苟クモ望ヲ將來ニ屬スヘキ土地アルヲ發見セハ、自ラ率先シテ居處ヲ搆ヘ一意開拓ニ從事シ斯クテ人口稍々集レハ官准ヲ得テ市街トナシ之ヲ内外ノ新聞紙上ニ廣告シ以テ移住者ヲ誘導シ次ニ市街ノ土地ヲ測量シテ區劃シ移住者ニ土地ノ賣買ヲ始ム土地家屋賣買周旋所即英語ノ「リーヤル、エステート」ハ其數頗多ク且其賣買ノ活潑ナル驚クヘキモノアリ

凡ソ市街ノ將ニ成ラントスルヤ先ツ興ルモノハ鋸木場ニシテ樹木鬱蒼タル森林ヲ伐截シ土地ヲ拓クト共ニ家屋ヲ築キ棧橋ヲ架スルノ用材ニ供ス之ニ次ギテ起ルヲ鍛冶業ト爲シ諸機械ノ修繕及製造ニ從事ス、其他ノ工業ハ土地ノ異同ニ由リ一ナラズト雖モ續々勃興スルノ狀況ハ驚クニ堪ヘタリ、殊ニ未草昧タルヲ免ガレサル土地ニ電氣鐵道ヲ開キテ乘客ノ稀少ナルニ拘ハラス日々往復セシメ、借居人ノ多カラザル

ニ無數ノ家屋ヲ搆ヘ、高燥ノ土地ヨリ清水ヲ引キ市街ノ各所ニ供給ス、低温ノ土地ニハ排水ノ備ヲ爲ス等東洋人ノ眼ヨリ見レハ得失相償ハス、眞ニ兒戲ニ類セル所業ナルガ如シト雖モ孰々考察シ來レハ綠眼人種ノ計畫ノ遠大ナル感歎スルニ餘リアリトス

以上ニ述ヘタル如ク綠眼人種遠大ノ計畫ハ能ク新市街ノ發達ヲ爲サシムル原由ナリト雖モ、其公共事業ノ經營ハ移住者一私人ノ能クスル所ニアラス、彼ノ移住者ヲシテ斯ノ如ク活潑ナル運動ヲ爲サシムル所以ノモノハ主トシテ自治ノ制完全ナルニ由ラスンハアラス、即チ市町村ハ獨立ノ團躰ヲ爲シ土地ヲ繁營ナラシムベキ事業ハ債ヲ募リテ之ヲ企ツルガ如キハ他ノ邦國ニ多ク其比ヲ觀ザル所ナリ又資本家ノ運動活潑ニシテ目前ノ損失ヲ顧ミズ必要ノ物品ハ廉價ニ供給スルノ途ヲ開キ、以テ移住者ノ多カランコトヲ期セリ移住者增加スレハ資本家

ノ利得ハ自然ニ增加シ永遠ニ巨大ノ報酬ヲ受クルニ至ル、ナリ、抑移住者カ人烟稀少ナル地ニ來リテ最モ不便利ト不愉快トヲ感スルハ日常品供給ノ續カザルニアリ、此點ニ着目シテ廉價ニ之ヲ供給スルノ途ヲ開キ土地ノ繁營ヲ期シテ永遠ノ巨利ヲ待ツハ東洋人種ノ企テ及ベサル所ニシテ西洋人種ノ跡屆スル所以ナル可シ

夫レ數百里ノ山間ニ進入スレハ天然ノ遺利以テ糊口ヲ凌グニ足ルベシト雖モ、奈何セン運融交通ノ便ヲ缺キ生產物ノ販路ナキカ故ニ僻地ノ開拓ハ自然ニ放任シテ決テ進歩スルヲ得ス、之ヲ以テ加拿陀政廳ハ豐饒ノ沃野ニ、先ヅ縱橫ニ鐵道ヲ布設シ市街ヲ開キテ產物消流ノ道ヲ計ルヲ急務トセリ。新市街ハ則チ開拓ノ機關ニシテ市街ノ先ツ開クソトスルハ自然ノ必要ニ出ヅ、茲ニ着眼セル有爲ノ綠眼人種ハ新市街ノ建設ヲ以テ巨利ヲ占メント欲スル故アリト云フベシ

新市街ヲ開キテ移住者ヲ招キ產物ノ販路擴張ヲ計ルト共ニ必要ナルモノハ交通ノ便是レナリ、市街ハ概テ太平洋沿岸ノ良港灣ニ富メル處又內地ニ在テハ舟檝ヲ通スヘキ無數河川ト沼湖ニ沿ヒテ設クタレハ交通ノ便自ラ備ハレリト雖モ、文明ノ利器タル鐵道ノ敷設ハ大ニ人民ノ熱心スル所トナリ、市街ヲ貫通スルノ鐵道次第ニ開ケ新市街モ亦愈々增加セントス、斯ル形勢ナルヲ以テ移住民ノ數ハ日ニ月ニ多キヲ加ヘ山隈水涯ニ至ルマテ盡ク開拓ヲ見ルニ至ルハ信シテ疑ハサル所ナリ尤今日ノ加拿陀ハ人烟猶稀少ニシテ寂莫タル土地多シ、然レトモ其住民ノ便利ヲ計レル組織ニ至リテハ二千五百歲ノ舊國タル我日本ニ一歩モ劣ラサルナリ、世人多クハ此地ヲ以テ北極圏內ノ無人境ト信スレ𪜈、社會ノ便利已ニ備ハレハ有爲ノ士宜シク渡航シテ以テ我日本民族生活ノ天地ヲ廣ムベシ、何ソ一孤島ノ內ニ四千萬ノ人民カ一億六千

萬ノ四肢ヲ縮メテ屈居シ、八千萬ノ眼ヲ擧ケテ青天ヲ望ミ空シク不景氣ニ沈吟スルヲ須ヒンヤ故ニ余カ次ニ移住民ノ如何ニ就キ詳論スル所アルヘシ

第二項　移住民

一　歐洲ノ移住民

加拿陀ノ土人ハ印度人種ニシテ野蠻ノ域ヲ脫セス、是ヲ以テ其土地一タヒ白皙人種ノ占領スル所トナリ智識ニ長ケタル歐洲人ノ移住者ヲ增加スルヤ、忽チ權力ヲ失ヒ其數次第ニ減少シテ今ヤ白皙人固有ノ邦土カト疑ハシムルニ至レリ　來ル移住民ノ顏色憔悴シテ殆ント喪家余ハ曩ニ彼地ニ在テ歐洲ヨリ來ル移住民ノ狗ニ均シキ容貌ヲ見ル毎ニ、彼等カ其本國ニ於テ生存ノ競爭ニ敗シ生計ヲ營ム能ハサルヨリシテ墳墓ノ地ヲ棄テ遠ク此地ニ移リ餘生ヲ保タントスルカト思ヘハ、落涙セサラント欲スルモ得サリシナリ、然ルニ彼等ハ果シテ如何ナル金果樹ヲ有スルカ、四五年ヲ出テスシテ數千若クハ數万ノ財產ヲ得ルヲ見ル甚タ不審ニ堪ヘサリシカ親シク其實際ヲ視察スレハ決シテ怪ムニ足ラサルナリ、彼等ノ勉强ト云ヒ忍耐ト云ヒ尋常人ノ及ブ能ハサル所ニシテ、殊ニ彼等ノ節儉ニシテ能ク貯蓄心ニ富ミタルハ遙ニ東洋人種ニ勝リ多年困苦ノ中ニ深ク經濟ノ原理ヲ銘肝シタルヲ以テ金錢ヲ使用スルコト最モ巧ナリ例ヘハ百圓ノ金ハ二百圓若クハ三百圓ニ活用シ、二百圓ノ金以テ千圓ノ働キヲ爲サシメ、其爲ス所ハ尋常一般ノ者ニ非サルナリ而シテ加拿陀ノ富源ヲ開發スルニハ巧ニ他邦ノ移住民ヲ利用シ到處巨大ノ邸宅ヲ搆ヘテ富豪ノ狀態ヲ現ハセリ

二　支那ノ移住民

地球上ノ有名ナル勞働者タル支那人カ北米ニ移住出稼ヲ始メタルハ今ヲ距ル四十餘年前即チ紀元千八百五十年ノ頃ニアリ、當時桑港近傍ニ於テ金山發見セラレ多クノ勞働者ヲ要シタル際ナレハ、支那人ハ自ラ求メテ渡來シタルヨリモ寧ロ米人之ヲ招キタルノ有樣ナリキサレハ最初ノ間ハ支那人ノ權利ハ一歩モ枉ケラレスシテ米人ト同一賃銀ヲ受ケテ勞働シ暫時ニシテ多クノ貯蓄ヲナシ之ヲ其本國ニ送リタレハ、本國ノ人民ハカリホルニヤ州ヲ目シテ金山ナリト呼フニ至リ續々渡航ヲ望ムモノ增加シ每回數百千人ノ移住者桑港ニ到着スルニ至レリ、サレトモ尙ホ三四年ノ間ハ勞働者ノ供給不足ニシテ、支那人ヲ愛用スルノ風盛ニ行ハレ米人同等ノ管理ヲ受クルノミナラス、「カリホルニヤ」州ノ知事ハルネット氏ハ當時支那人ニ書ヲ送リ大ニ其移住ヲ喜フ旨ヲ述ヘタリ、斯ク愛用セラレタル支那人モ爾來漸次ニ嫌惡ヲ招キ今ヤ今ヤ合衆國ニ於テハ移住防遏案ヲ布キテ拒絕放逐ノ策ヲ取リ、又加拿陀ニ於テモ其渡來者ニ五十弗ノ人頭稅ヲ課シ且ツ加拿陀人民ニ歸化スルヲ許サス、殊ニ法律上ノ權利ハ著ルク制限セラレ公私ノ事業ニモ往々支那人ノ勞働ヲ許サヽルモノアルニ至レリ、自由平等ヲ貴フ北米兩大國ニ於ケル堂々タル法律文面ニ支那人ノ權利ヲ剝奪セル所ノ條項比々トシテ現出セリ、啻ニ法律上ノ擯斥ノミナラス社會ノ虐待ハ尙ホ之ヨリ甚シキモノアリ、支那人ノ往來スルヲ見レハ之ニ唾シ或ハ石ヲ投シ其他輕蔑嘲弄至ラサル所ナシ、「ヂョン」ヲウ語ハ支那人ヲ指タルモノニシテ見下シタル名稱ナリ、「ヂョン」ハ白人ノ旅舍ニ宿スルヲ得ス酒舖割烹店ニ往クヲ許サス、苟モ自由ノ權利アル公衆ノ群集スル場所ニハ一歩モ入ルヲ得セシメサルナリ、一言ニシテ之ヲ掩ヘハ人間視

セサルナリ、酷モ亦極レリト謂フ可シ、斯ク冷待セラルヽニ至リシ所以ノモノハ畢竟支那人ノ固陋ニシテ世ト共ニ推移スルコトヲ知ラス、頑然自國ノ弊習ヲ墨守シ自國ノ粟ヲ日ニシ、以テ米人ノ嫌忌ヲ招キタルニ由ラスンハアラス

以上述ヘタルカ如ク支那人ハ北米ニ於テ社會上ノ擯斥非常ニ甚シク、彼ノ歐洲ニ於ケル猶太人ヨリモ一層酷ナル待遇ヲ受ク然リト雖モ其社會ニ於ケル潛勢力ハ實ニ恐ルヘキモノアリテ勞働社會ハ勿論內地商業ニ就テモ至大ノ關係ヲ有シ、常ニ在米ノ白皙人種ヲシテ畏怖セシムルナリ、其斯ノ如クナル所以ノモノハ其團結力堅ク、世ノ擯斥ニ屈セス大膽ニ事業ヲ企テ勉勵ト忍耐トヲ以テ之ニ從事スルカ故ナリ、支那人ノ相謀リテ設立シタル組合ニ移住ノ便ヲ計ル移住會社アリ、出稼ノ便ヲ計ル雇入周旋所アリ、商賣ヲ營ント欲スル商社アリテ國人ノ便利ヲ謀シ移住者ヲシテ安全ト利益トヲ得セシメ、殊ニ支那人ノ特性トシテ長上ニ從順ナル、社長頭取等ノ命令ハ一太平洋ヲ隔テ遠ク之ヲ以テ能ク統一ノ功績奏スルナリ、斯ル善良ナル方法ヲ以テ四十年ノ久キヲ經タルカ爲メ若干ノ資產ヲ有スルモノ甚タ多ク、土地ヲ買收シ公債ヲ所有スルモノ其數ヲ知ラス、是ヲ以テ一朝放逐ノ備ヲ取ルモ容易ニ其目的ヲ達スル能ハサルナリ、特ニ太平洋ノ沿岸諸市ニテハ市中ノ中心ナル地所ヲ支那人ニ占領セラルヽヲ由ルヽ之ヲ置モ戻サントスルモ非常ノ高價ヲ唱ヘテ容易ニ白人ノ有ニ歸セシメス勿論白人ノ住スル市街ニハ支那人ノ商店ヲ開クコトヲ許サヽレ又支那人ハ自己ノ占有セル土地ニ自國ノ風俗ヲ摸シタル市街ヲ造リ、白人ノ商店モ就ク能ハサル事分ニ用ヲ便ス毫モ不自由ナキノミナラス日本雜貨ノ如キ却テ日本人及白人ノ商店ヨリモ廉價ニ販賣スル

故ニ廉價ヲ好ムハ人情ノ常ナレハ之ニ就テ購フモノ多シ支那市街ニハ靴烟草燐枝等日用品ノ製造所アリテ白人ト競爭ヲ爲セリ

支那人ハ普ク各地ニ在テ勞働ニ從事スレトモ其職業ハ制限撿束セラレテ白人ノ如ク自由ナラス左ニ支那人職業ノ種類及其賃銀ヲ示スヘシ

農業	月給	十五弗乃至三十弗
漁業	日給	一弗乃至一弗五十仙
鑛夫	仝	一弗乃至二弗
木挽	仝	七十五仙乃至一弗五十仙
洗濯	月給	七弗乃至十五弗
ボイ	仝	十五弗乃至二十五弗
料理	仝	二十弗乃至四十弗
瓦製造	仝	二十弗乃至三十五弗
靴職人	日給	一弗乃至二弗
煙草	仝	七十五仙乃至一弗五十仙

有ル場所ト人物トニ由リ稍々差アルヲ免レス、又賃銀ハ次第ニ下落ノ傾向アリ、然レトモ支那人ノ生計ハ一ケ月僅ニ六弗ヨリ十弗ヲ費スニ過キスシテ其餘ハ一毫モ消費スルコトナク貯蓄シテ以テ本國ニ送致スルカ故ニ毎年ノ總額ハ驚クヘキ數ナリ、今北米在留ノ支那人ヲ概算スルニ二十萬ニ下ラス、此等ノ人々ハ概ヲ毎月十五弗平均ノ貯蓄ヲ爲スニ困マサルヘシ然ラハ則チ一ケ年一人ニ付百八十弗之ヲ二十萬人ノ上ニ積算スレハ三千六百萬弗ノ巨額トナルナリ、此巨額ノ金ヲ毎年其本國ニ送致スルコトナレハ本國ノタメニハ實ニ一大富源ナリト謂ハサルヲ得ス

三　日本ノ移住民

現今北米大陸ニ住居セル日本人ハ其數三四千ニ下ラス、然レトモ確乎タル目的ヲ有セル商人輩ハ至テ僅少ニシテ概テ皆出稼ノ勞働者ニアラサルハナシ勞働者ノ内無賴ノ書生過半ニシテ眞ノ勞働ニ耐アルモノ又幼年ノ時ヨリ勞働ニ身ヲ委ネタルモノハ十分ノ一ニ過キス、而シテ其執ル所ノ職業ハ小使旅舍ノ皿洗、給仕、料理人、農夫、漁夫、鑛夫、窓拭等ノ賤役ニシテ孰レモ資本ヲ有セサル貧生ノミ一トシテ土地ヲ占領シ家屋ヲ所有シ永遠ノ事業ヲ企ツル者ナシ若シ能ク貯蓄ヲ爲シテ之ヲ資本ニ供シ日本人適當ノ事業ヲ營メハ利ヲ得ムヤコト固ヨリ多シト雖ヒ斯ル志ヲ懷クルモノハ絶エテアルコトナク既ニ十四五年ヲモ在留シタル人ニシテ依然日ヲ糊スルニ止マルモノ比々是ナリ事情已ニ斯ノ如クナレハ互ニ一致團結スル等ノ事モ亦實境界スル眞ニ歎息ニ堪ヘサルナリ

此等ノ移住者ハ孰レモ相應ノ賃金ヲ得サルニハアラス然レトモ貯蓄ノ心毫モナク朝ニ得シ所ハ夕ニ之ヲ散スルヲ常トシ、少シク融通ヲ爲シ得ルモノハ酒色ニ耽リ却テ負債ヲ生スルニ至レリ、サレハ數千哩ノ海外ニ向テ善良ナル本邦内地人ノ面目ヲ汚シ白人ヲシテ文化ノ進マサルヲ想像セシムルノミ其太甚シキニ至テハ博奕、暴飲、鬪爭、口論、虛言醜行ヲ恬トシテ顧ミス、是カ爲メニ屢次法庭ヲ煩スコトアリ、又平常貯蓄ヲ爲サヽル故ニ一朝疾病ニ罹ルトキハ藥餌料ヲモ拂フコト能ハス、到底文明ノ人民ト稱ス可カラサルナリ、是ヲ以テ近來次第ニ米人ノ輕蔑ヲ招キ今ヤ一變シテ嫌忌ヲ來タサントセリ

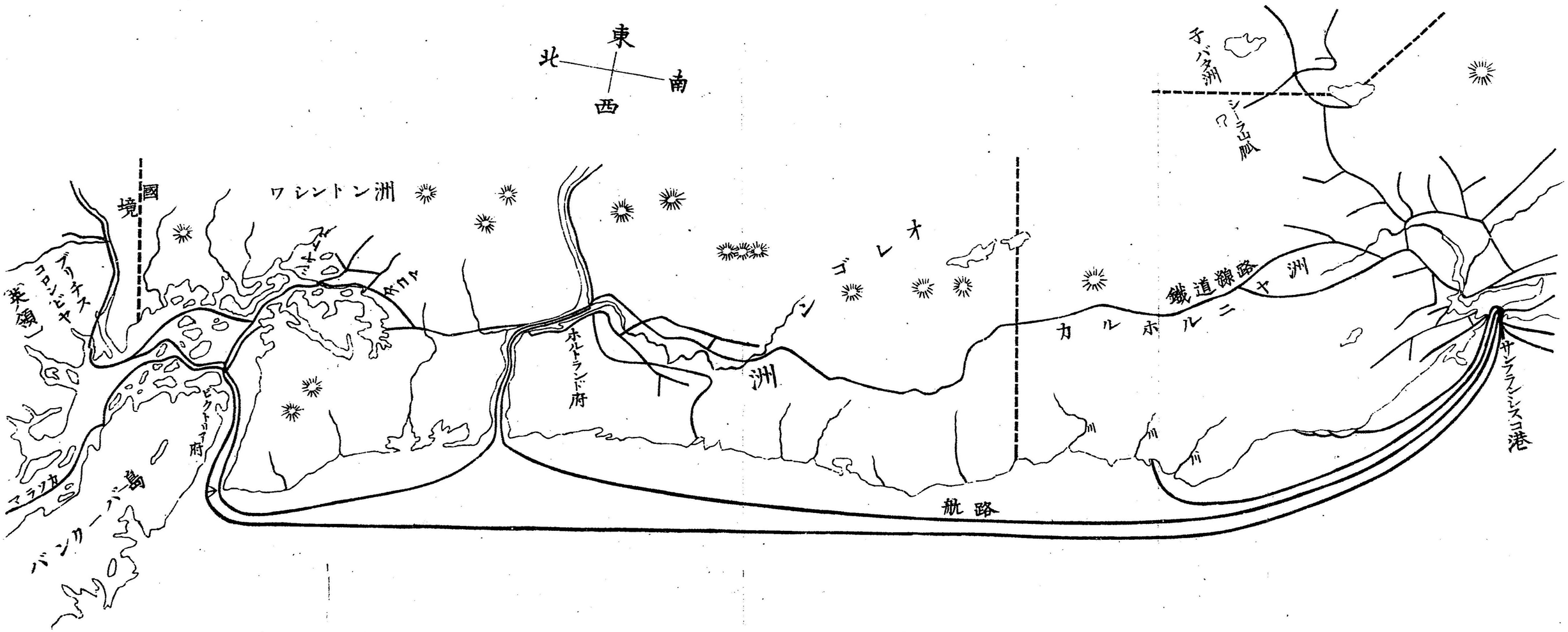
西紀千八百九十年二月二十四日英領哥倫比亞州會ノ議事ハ日本人民至大ノ恥辱トシテ吾人ノ永ク忘ルヽ能ハサル所ノモノナリ蓋シ其日

州廳總理ロブソン氏ハ支那人ノ入港稅五十弗ヲ進メ二百弗トナスノ議案ヲ贊成シ且ツ日本人モ支那人ト同シク擯斥スヘキ人種ナレハ今後二百弗ノ入港稅ヲ課スヘシトノ動議ヲ提出シタリ、檢事長デヒー氏ハ之ヲ贊成シテ日本人及支那人ハ白人勞働者ノ競爭者ナレハ、斷乎トシテ今日此等ノ移住ヲ防止シ以テ白人勞働者ノ困難ヲ救護ス可シト述ヘタリ然レトモ幸ニ議員中贊成者ノ少ナカリシ爲メ日本人課稅ノ動議ハ否決シタリシカ熟々其否決ニ至リタル所以ヲ考フレハ支那人入港稅ノ增加ト共ニ日本人課稅ヲ建議スレハ、殖民政廳ハ容易ニ之ヲ許可セス兩者ト雖併セテ不認可トナルヘシトノ恐レアルカ故ニ先ツ支那人ノ課稅增加ニ止メ次回ヲ以テ更ニ日本人ニ及ホサントノ意ニ出テシモノ如シ議員中ニハ日本人ヲ信愛セルモノアリテ之ヲ雇使シテ太平洋沿岸ヲ開拓スルハ必要ナリト論シ、又日本ノ法律ハ海外渡行ヲ嚴ニスレハ支那人ノ如ク群集スルノ患ナカル可シト述ヘタル者モアリシカ議場ノ大勢ハ日本人嫌忌ニアリシヤ蓋シ疑ヲ容レス、今ヤ日加貿易擴張ノ方針ヲ執レル加拿陀ニシテ其最モ日本ニ近キ哥倫比亞州ニテ國交上ノ不和ヲモ憚カラス大膽ニモ斯ル議案ヲ州會ニ提出シタルハ其利害言ハスシテ明ナルヘシト雖モ抑モカヽル言論ヲ議場ニ現サシムルニ至リタルハ職トシテ現今移住者ノ不品行ニ由ラスンハアラス移住者ノ狡猾ニシテ不義ナル常ニ雇主ニ迷惑ヲ蒙ラシメ又領事館ニ隔リタル土地ニテハ國辱ヲモ顧ミス醜業ヲ營ミテ社會ノ擯斥ヲ受クルニモ拘ハラス移住日本人中ニハ誰一人トシテ之ヲ咎ムルモノナク却テ善良ナル勞働者ヲ煽動シテ醜業者ノ花客タラシム故ニ其雇主モ大ニ困却シ今日ニテハ雇人ノ周旋ヲ業ト爲スモノト雖モ日本人ト聞クハ顏ヲ顰メテ殆ント應スルモノナシ斯ノ如ク我勞働

者ノ價値已ニ地ニ墜チテ「ヨヤツ」ノ稱漸ク我國人ノ頭上ニ轉シ來リタルノミナラズ更ニ「ヨヤツ」ナル嘲弄語ヲ生シテ輕蔑ヲ受クルニ至レリ豈慨歎セサルヲ得ンヤ

試ニ日本ノ勞働者ヲ以テ支那ノ勞働者ニ比スレハ余ハ劣レルコト數等ナリト謂ハム、支那人ノ固陋ニシテ貪吝ナル固ヨリ卑ムヘキ雖モ日本人ノ狡猾ニシテ不義ナル亦甚タ惡ムヘキナリ、支那人ハ正當ノ手段ニ由リテ蓄財ノ本國ノ鴻益ヲ爲セ共日本人ハ不義ノ手段ニ由リテ遊惰ヲ事トシ毫末モ本國ノ益ヲ爲サハルノミナラス、大ニ我國民ノ躰面ヲ辱シムルナリ、勿論白人中ニモ狡猾ノ無頼漢不義ノ遊惰者ナキニ非アラス唯雖モ實ニ僅少ノ數ニ過キサルナリ之ニ反シテ日本人ノ移住者ハ無頼ノ貧書生ニアラサレハ破廉恥ノ暴民ニアラサルハナシサレハ今後ハ十分ニ移住民ヲ撰ミテ渡航ヲ許スニ非スンハ此惡名ヲ雪キ

大平洋濱海諸洲


東
北
南
西
國境
ワシントン洲
ブリチス
コロンビヤ
英領
ボカル
ビクトリア府
マラッカ
バンクーバー島
ホルトランド府
ゴレオ
洲
カルホルニヤ洲
鐵道線路
サンフランシスコ港
航路
ヲバタ洲
シーラ山脈

テ白人ヲ拓ケルヲ白人ハ能ハサルヘシ其方法ハ次項ニ於テ詳論スル所アル然シテ密ニ人口稠密ニ至ハ[illegible]

第三項 北米太平洋沿岸ニ移民論

[illegible]一ニ移住ノ急務ヲ[illegible]

熟々我日本國ノ現狀ヲ考察スルニ人口過多ニ弊害タルヤ内ハ人民ノ生活ヲ困難ナラシメ外ハ國威ヲ萎靡セシムルノ止ムヲ得サルニ至レリ之ヲ救濟シテ人民ノ安寧ヲ保持シ國勢ノ振興ヲ計ラン[illegible]欲スルニハ移住ノ策ヲ講スルヨリ他ニ良途ナカルヘシ[illegible]嘗テ試ニ之ヲ論セン[illegible]本邦人口ノ稠密ナルハ世界ニ最モ有名ナリ最近ノ調査ニ據レハ白耳義ニ次ク[illegible]平方「マイル」ニ付人口三千百二十八人ノ割合ニシテ之ヲ世界第一ノ稠密ナリ之ニ次ク本邦ハ一平方「マイル」ニ付二千百十九人ヲ

割合ニシテ世界第二ノ稠密ニ當レリ、夫レ人口ヲ養フ所以ノモノハ土地ノ生産如何ニアルハ強チ面積ニ對スル比例ヲ以テ直ニ人口ノ過多トナス可キニアラス、然リト雖モ本邦ノ生産力ハ歐米諸國ニ劣ルコト同日ノ談ニ非ス、若シ生産力ノ比例ヲ以テ人口ノ過多過少ヲ判スルトキハ恐ラクハ本邦ノ如キ過多ノ土地ハ他ニ無カラントス、余ハ不幸ニシテ各國ノ生産力ヲ精密ニ比較スルノ便ヲ得スト雖モ本邦人生計ノ度ノ低クシテ富裕ノ度ノ小ナルヲ歐來諸國ニ比スレハ月鼈霄壤ノ差モ啻ナラス、隨テ生産力ノ及ハサルコト五十歩百歩ノ比ニアラサルナリ、サレハ本邦人民ノ現狀ハ已ニ生計ノ資ニ乏シキヲ訴ヘ幾多無賴ノ貧民ヲ生シ惡事ヲ行フモノ愈々增加セントス、國民ノ事情已ニ斯ノ如シ然ルモ尚ホ人口增加ノ度ハ非常ニ迅速ニシテ最近十年來ノ經歷ニ據レハ毎年一分ノ增加ヲ爲スハ疑ヲ容レス、故ニ今年四千萬ノ人口

ハ翌年ハ四千四千萬人トナリ翌々年ハ四千八十萬四千人ト爲ル、斯ノ如クニシテ重乘法ニ增進セハ百五十年ヲ出ラスシテ人口二億五千萬人ニ超ユ、國中居ル所ノ土地ナカラントス、是レ即チ有名ナルマルサス氏カ人口論ノ要旨ニシテ本邦ノ現狀ハ將ニ氏カ卓說ノ實行ヲ見ントセリ、固ヨリ氏カ言スル如ク人口ノ增加ハ食物ノ增加ヨリ甚フシテ、食スルヲ物ナク居ル土地ナキノ場合ニ至ルコトヲキハ統計學ノ證明スル所ナリ、夫レ人口ヲ養フ所以ノモノハ食物ナレハ食物供給ノ成シ得ラルヽ限リ人口ノ增加ヲ止ムルヿハ佛國最近十數年來ノ人口統計ニ徵シテ明ナリ、故ニ論者或ハ云フ本邦人口增加ノ迅速ナル所以ノ者ハ食物之ニ供給スルニ足ルヲ以テナリ若シ食物供給ノ不足ヲ感スルニ至ラハ人口ハ自然ニ增加ヲ止ムヘシ、敢テ人力ヲ調和ヲ要セサルナリ、然リト雖モ不幸ニシテ我人民ハ多年來低キ生活ニ安シシ自ラ生

活ノ度ヲ低クスルヲ意トセズ、爲ニ得ル限リ之ヲ爲シ恐ヒ得ル限リ之ヲ忍ヒテ以テ新ニ增加スル人口ノ資ニ供ス、是ノ果ノ國家ノ爲ニ喜ブ可キコトカ決メ然ラサルナリ、蓋シ國民貧窮サルカ惡ヲ爲ス者多クメ國內常ニ騷擾ヲ免レス、況ンヤ貧窮サル國民ハ猶油ナキ機關ノ如ク外形恰何ニ整備スト雖ヒ完全ナル働キヲ爲ス能ハサル者アルヲヤ、本邦人口過多ノ弊害タルヤ以上已ニ陳ヘタル所ノ如シ、然ラハ則チ之ヲ救濟スルノ術果シテ如何、或ハ法律上ノ制裁若クハ社會上ノ抑遏ヲ以テ人口ノ增加ヲ防止センカ假令其目的ヲ達スルコト能ハサルニ非サルモ進マサルヲ得サルモノハ未嘗テ我內地ニ及ホシ、我人種ノ減退ヲ起シテ竟ニ優勝劣敗ノ運命ニ至ラシムル可シ、故ニ我カ我カ內ノ及ブ限リハ人口增殖ノ方針ヲ取ルヲ以テ我人種ノ優勝ヲ占ハサルヤ、ヲ以テ我人種ノ優勝

ヲ計リ永ク我日本民族ノ血統ヲ後世ニ傳ヘンヲ宜シク之カ生ヲ聊スルヲ地ヲ求メサルヘカラス、是レ即チ海外移住論ノ起ル所以ナリ、我人種ノ兄弟姉妹ハ到ル處ニ增殖シテ永ク本國ノ血統ヲ保續スルヲ以テ、帝國ノ威勢益ヲ盛ニシテ天地ト共ニ長久ナルヲ得ヘシ、之ヲ世界各國既往ノ歷史ニ考フルニ國民ノ繁殖力强クシテ外ニ移住ヲ盛ニスル者ハ國運永久ニ榮ヘサルハナク、之ニ反シテ內國ノ民族ハ次第ニ地球上ニ跡ヲ絕ツヲ免レサルナリ、

第六圖

夫レ內地ノ人民ヲ海外ニ移住セシムルハ唯一住民其者ノ爲メニ富源ヲ開ク、ヲ以テ海外ニ移住セシムルヲ得ス、蓋シ內地ハ海外ノ貿易ヲ振興シ內地生產業ヲ利スルヲ大ナリトスル、海外ニ移住セシム人民ハ幾分カ內地生產品ヲ需要スルヲ念强カ是ヲ爲メニ自カラ外國貿易ノ盛大ヲ來タシ內地產業ノ繁昌ヲ增內ハ敢テ疑ヲ挿ムヲ要セス、

內地人民ノ增加ニシテ已ニ相當ノ度ニ達シタル以上ハ國民ノ力ヲ伸ヘ國家ヲ富マシムル所以ノモノハ、一ニ移住ノ手段ニアルコトハ歐洲諸文明國ノ已往ニ徵シテ明ナリ、茲ニ千八百三十年ヨリ同八十二年ニ至ル五十八年間ニ歐洲諸强國ヨリ海外ニ移住シタルモノハ數ヲ擧クレハ左ノ如シ

英吉利	八、五一〇、〇〇〇
獨逸	四、六一〇、〇〇〇
以太利	七〇〇、〇〇〇
西班牙葡萄牙	四〇〇、〇〇〇
佛蘭西	三八〇、〇〇〇

殊ニ千八百八十三年以後ハ一層其增加ヲ爲シタルカ如シ乃チ千八百九十一年十月發行ノ倫敦ノ商法會議所報告ニ據レハ前年中英吉利ヨリ海外ニ移住シタル者三十一萬六千百四十五人アリト云ヘハ之ヲ前ニ掲ケタル五十八年間ノ平均移住民十四萬六千七百餘人ニ比スレハ

正ニ二倍以上ニ當レリ以テ現今移住ノ盛ナルヲ證スルニ足ルヘシ英國今日ノ繁榮ハ種々ノ原因アル可シト雖モ國民ニシテ移住ノ精神ニ富メルモノ與リテ力アリト謂ハサルヲ得ス

苟モ帝國ノ盛大ヲ欲シ國威ヲ海外ニ輝カシテ以テ東洋ノ英國タランコトヲ期スルニハ我日本民族ノ蕃殖ヲ世界ニ普ネカラシムルノ精神ナカルヘカラス其方法手段等ニ就テハ逐次之ヲ記セントス

移住會社ノ設立

移住ノ急務ト必要トハ既ニ前ニ述ヘタル如クニシテ世人ハ往々之ヲ金ツルモノアリト雖モ奈何セン海外ノ事情ニ懵ク且ツ資金ニ乏シキヲ以テ其志ヲ果スコトヲ得サルモノ比々皆是ニシテ若シ此等ノ輩ヲシテ其便ヲ得セシメンカ一瀉千里ノ勢ヲ以テ移住スルヤ必セリ然レトモ此事タルヤ一個人ノ決シテ能クスヘキ所ニアラズ、必スヤ資本ノ

大ナル會社ヲ設立シテ之ヲ保護セサルベカラス、而シテ此會社ハ唯內地ヨリ人民ヲ移ス爲メニ要スルノミニ非ス移住民ヲシテ其所ヲ得セシメント欲スルニハ移住地ニ於テモ猶之ヲ保護セサルベカラス、然ラスンハ人種ノ競爭ニ遇ヒ溺死スルモノハ竟ニ滅盡スルノ外ナシ」

現今我邦ノ勞働者ニシテ海外ニアルモノ孤立モ單立單行ノ有樣ナレハ何業ヲ企ツルニモ資本ヲ貸借スルノ同胞ナク、何事ヲ爲スニモ相勢援スルノ良友ニ乏シ故ニ外人ノ競爭ニ當ル能ハサルノミカ彼ノ使役スル所ヲルヲ免レス是レ特ニ移住會社ノ必要ヲ感スル所以ニシテ會社ヲ保護ニ由リ共同團結ノ力ヲ固クシ日本移住民ヲシテ躰面ヲ有シシムルノ外他ニ復良策アル事見ス

近來外國ノ資金主ニシテ日本ノ勞働者ヲ雇入シコトヲ望ムモノ多シ

「但忍耐力素日本書生ヲ求ト雖ト奉公ニ雇入ルヤ好マサルモノ多シ

然レトモ之ヲ雇入ルハ相談スヘキ道ナキカ故ニ其希望ヲ空フセルモノ概ネ皆然リ、故ニ移住會社ハ此間ニ立チテ外國資本主ノ相談方トナリ、我移住民ノ多カランコトヲ謀ルノ必要アリ、殊ニ資本ナキ勞働者ノ移住ニ付テハ能ク其地ノ需要供給ヲ謀リ、漫ニ五月蠅ク群集セシムルノ弊ヲ防カズンハ重用セラルヘキヲ得ズ、此需要供給ヲ計リテ其處ヲ得セシムルハ實ニ會社ノ如キ公衆ノ團躰ニアラサレハ能ハサルナリ

支那人カ北米ニ於テ動カス能ハサル移住ノ基礎ヲ作リ土地家屋ヲ所有シ製造ヲ盛ニシ商業ヲ營ミテ白人ト競爭シ、拒絕條例人頭稅ヲシテ其功ナカラシムル所以ノモノハ其原因ナカルヘカラス蓋シ嘗テカリホルニヤ金山發見以來米人カ支那ノ勞働者ヲ招クルニ方リ、支那人ハ夙ニ多クノ移住會社ヲ興シ數百萬弗ノ資本ヲ投シテ需要者ノ求メニ應シ續々移住セシメ續テ又會社ハ移住者ニ資金ヲ貸シテ農工商ノ業

ヲ營マシメ尙ホ勞働者ノ人ニ雇ハレンコトヲ望ムモノニハ其周旋ヲ爲ス等厚ク保護ヲ加ヘタルガ爲メニ移住者ニ利益ヲ與ヘタルハ勿論會社ノ得益モ亦頗ル多カリシトソ然リ而シテ此多クノ會社ハ實ニ支那人ヲ一致團結セシメ以テ人種ノ競爭ニ勝ヲ制セシメシ所以ノモノナリ若シ此會社ノ存セサリシナラハ今日北米ニ於テ剃頭辮髮ノ人ヲ見ル能ハザリシナラン

支那人移住會社ハ能ク大功ヲ奏シタリ然レトモ亦是カ爲メニ凌蔑ノ恥辱ヲ招キタリ、初メ支那ノ移住民ハ白人ト對等ノ權利ヲ有シテ大ニ愛用セラレシニ忽チニシテ嫌惡ヲ被リ今日ノ如ク拒絕條例ヲ發布シ人頭稅ヲ賦課セラルヽニ至リシ所以ノモノハ要スルニ勞働者ノ來住多キニ過キ之ヲ管理スル上ニモ亦過失アリタルニ由ラスンハアラス今支那人カ嫌惡ヲ被ル原因ヲ考フルニ

一　生活ノ程度低キコト
二　基督教ヲ奉セサルコト
三　取引上自國ノ習慣ヲ株守スルコト
四　節儉度ニ過キ粗衣粗食ニ安ンシ一意本國ニ送金スルコト
五　永住ノ覺悟ヲ示サヽルコト
六　本國ノ生產物ヲ用ヒ一切米國ノ衣食類ヲ用ヒサルコト
七　廉價ニ勞働シテ白人勞働ノ競爭ニ當リ以テ彼ヲ苦ムルコト
八　盜心アルコト
九　不潔ニシテ喧噪ナルコト
十　無教育ニシテ學問上ノ考ヘナキコト

以上十個ノ原因中本國風俗習慣上若クハ國禁上改ムルヲ得サルモノアリト雖モ、會社カ移住者ヲ管理スルニ於テ少シク心ヲ用ヒハ除去シ

得ヘキモノモ亦頗ル多シ、然ルニ支那人移住會社ハ唯其本國アルヲ知ラ本國外ニ支那國威ヲ輝ス所以ヲ知ラス遂ニ今日ノ凌辱ヲ受クルニ至ラシム世ノ移住ヲ計ルモノ能ク鑑ミル所ナカルヘカラズ、

本邦人ノ風俗習慣ハ場所ニ應シテ變シ易キヲ以テ現今我眞正ナル勞働者ニシテ北米ニアルモノハ一般ニ評判宜シク伊太利及「アイリス」勞働者ニ優レルモ劣レルコトナシ、唯今日白人ニ嫌忌セラルヽ點ハ喧嘩口論ヲ好ミ放逸ニシテ行ヲ修メス時々法廷ヲ煩ハシ、殊ニ淫婦ニ戲ルヽノ醜行アル是レナリ、故ニ移住會社ノアリテ之ヲ指揮監督セハ庶幾ハ其惡弊ヲ矯正スルコトヲ得ン

內ハ移住者ノ渡行ヲ扶ケ外ハ移住者ヲ管理シテ其所ヲ得セシムルガ爲メニ移住會社ノ必要ナルコトハ以上ニ述フル所ノ如シ而シテ移住者ノ價値ヲ保ツシメントスルニモ亦會社自ラ事業ヲ起シ以テ外國資本家ニ依頼スルノ念ヲ薄フセシムルコトヲ要ス其事業タルヤ土地ノ情況ニ從ヒ水產鑛山山林農業等我勞働者ニ適シタルモノヲ以テシ、外國資本家ノ手ヲ放ルヽトモ我ハ獨立シテ我勞働上ノ富ヲ收メ得ル途ヲ開カハ、外國資本家モ自ラ重キヲ我勞働者ニ置クニ至ル可キノミナラス將來移住者ノ獨立營業ヲ爲スノ好模範トナルニ足ルナリ

又移住會社ハ力ノ及フ限リ帆前船ヲ造リテ移住民ノ要スル日用ノ物品ヲ運送シ、而シテ移住地ノ物產ヲ本國ニ廻漕シテ常ニ其間ニ交通ヲ絶タス、移住民ヲシテ需要品ノ供給ト產出物ノ販賣トニ便ヲ得セシムヘシ、移住ト交通トハ實ニ密接ノ關係ヲ有スルモノナリ

三　北米太平洋沿岸

北米太平洋沿岸ハ日本人ノ移住ニ適スシテ日ニ月ニ旺盛ニ赴カントセリ、故ニ大資本家ノ事業ヲ企ツルモノ

愈々多ク勞働者ヲ要スルコト益々急ナレハ加拿陀政廳モ亦法律ヲ緩ニシテ切ニ移住者ヲ招クリサレハ、我勞働者移住ノ地トシテハ最モ望ヲ屬セサルヲ得ス、然ルニ論者或ハ曰ク北米已ニ歐洲人ノ手ヲ下ス所トナリ本邦人ノ足ヲ入レテ競爭スルノ餘地ヲ止メス若シ今後富源ヲ開發シテ移住者万年ノ繁昌ヲ期セントスルニハ競爭者ノ少ナキ南米若クハ南洋諸島ニ據ルニ如カスト嗚呼本邦人民ノ資力ニ乏シキ未開ノ地ニ移住シテ能ク之ヲ開拓シ得ルヤ否ヤ余ハ頗ル疑ナキ能ハス抑方今各國政府カ移住ヲ奬勵スル所以ノ者ハ遠征并呑ノ主義ニアラサルナリ、領地ヲ廣メ殖民地ヨリ租稅ヲ徵收セントスルニアラサルナリ、唯其目的トスル所ハ自國人種ヲ地球上到ル處ニ增殖シ通商貿易ノ擴張ヲ以テ利益ヲ收メントスルニアルナリ蓋シ自國人ノ居住スル處ニハ必ス自國物產ノ需要多カルベク、又其地ヨリ廉價ニ物產ヲ購求

シテ自國ニ輸入シ併セテ他國ニ販賣スルヲ得ルナリ其他我ノ餘レル勞力ヲ以テ彼ノ足ラサル需求ニ應ス其兩國ニ益スルヤ大ナリ已ニ移住ノ目的ハ領地ノ擴張ニアラスシテ人種ノ增殖及貿易ノ擴張ニアリトスレハ其最モ適當ナル土地ヲ撰ミテ之ニ移住ヲ計ルハ第一ノ良計タリ、余ハ將ニ曰ハン北米ニハ未開ノ土地廣大ニシテ我勞働者ノ移住ヲ待ツモノナリト

嘗テ聞ク我政府ハ近來我人民ノ海外出稼ト稱シ强大國ノ領土ニ移住スル者ノ增加スルヲ見テ將來兩國人民ノ葛藤ヲ生シ、國交上ノ不和ヲ釀サンコトヲ恐レ我ヨリ文物ノ進歩シタル國土ニハ移住スルコトヲ奬勵セサルモノヽ如シト然リト雖モ今日ノ移住民ハ領土併呑主義ニ非ラスシテ利益收得主義ニアレハ我ヨリ富ミタル國ニ移住スルハ策ノ最モ得タルモノナリ彼ノ法律ニ服シ彼ノ習慣ニ從フトキハ決シテ

不和ヲ起スカ如キコトアラサルナリ況ンヤ北米ノ如キ各國人ノ集合地ニ於テハ同一ノ風俗ニ從フ人種ナレハ殆ント之ヲ同一視シテ彼我ノ區別ヲ設クルコト少ナシ何ソ日本人ニ限リ獨リ此地ニ移住スルヲ危險ナリトセンヤ「試ニ千八百九十一年發行ノ政家年鑑ニ據レハ在合衆國各國人ノ員數ハ左ノ如シ」

國名	人員	國名	人員
英吉利	二、七七二、一六九	獨逸	一、九六六、七四二
英領亞米利加	七一七、一五七	佛蘭西	三七六、〇六六
澳地利	一二五、五五〇	瑞典	八八、六二一
匈牙利	六四、一九六	瑞西	五八、〇九〇
丁抹	一五、五三五	和蘭	一二、八三六
白耳義	一、六〇九、九七一	ルークゼムブルク	六八、三九九
佛蘭西		墨其西哥	

伊太利	四四、三三〇	西班牙	一三、二五九
露西亞	八四、二七九	葡萄牙	一〇四、四六八
		支那	

右表ニ現ハルヽ如ク各國ノ移住者多クシテ本表外ニモ少クトモ十七ケ國ヨリ多少ノ移住者アルヘシ、之ヲ通計スルニ人口百人中十三人三分アテハ外國生レニシテ、各國人ノ共同勞働所トモ目スヘケンハ日本人幾多ノ移住ハ決シテ故障ナカルヘシ」

北米ハ一般ニ英語ヲ用フレハ英語上ノ關係ヨリ云フモ從來我邦ニ於テ最モ廣ク傳播セル外國語ハ英語ナルカ故ニ勞働者ノ監督人ヲ撰フニモ其人ヲ得易シ此等ハ些細ナル事ニ似タレトモ其便利ナルコトハ少小ニアラサルナリ

四　北米出稼人及移住人ノ資格

從來ノ經歷ト現今ノ狀況トヲ照セハ北米ニ於ケル日本勞働者ハ恐ク

其運命久シカラサルヘシ、如何トナレハ已ニ前ニ述ヘタル如ク彼等ハ放逸ニシテ輕薄ナレハナリ、夫レ出稼ヲ爲スハ全ク腕力ヲ以テ金錢ニ交換セントスルモノナルニ勞働者ニシテ正實ニ働キ十分ニ勉勵スルニアラスンハ金錢ノ報酬ハ決シテ大ナルヲ得サルナリ、土地廣ク富源大ナレハトテ遊惰ナルモノニ利得ヲ與フルヲ許サンヤ斯ル人民ハ早晩擯斥ヲ免レサルナリ、故ニ今後ノ移住民タルモノハ生産的ノ人ニシテ事業ニ勉勵シ德義ヲ守ル者タラサルベカラス而シテ其事業タルヤ本邦人ノ特色トシテ長所ノ技能ヲ有シ諸外國人ノ競爭ヤキ者ヲ以テスヘシ左ニ其二三ヲ略述セン

第一　農夫　勤勉順良ナル農夫ハ需要多クシテ大ニ愛用セラルヘシ茫々タル原野ヲ開招シ富源ヲ採取スル所以ノモノハ實ニ農夫ニシテ彼ノ土地ノ廣キ能ク之カ開招ニ從事スルモノハ土地ノ繁榮ヲ增ス基ナレハ、白人ノ競爭ヲ受ケサルノミナラス却テ愛用セラルベキナリ、余カ彼地ニ在留セルノ間親シク政事家實業家ノ談話ヲ聞クニ孰レモ異口同音ニ日本農夫ノ巧妙ナルト忍耐ナルトヲ賞セサルハナカリキ

第二　園丁　花卉艸木ヲ愛シ園庭ヲ賞スルハ白人ノ最モ好ム所ナリ、殊ニ北米ニテ近來俄ニ莫大ノ財産ヲ造リタルモノハ豪奢ヲ以テ歐洲古國ノ貴族ト競爭ノ念ヲ起シ、金錢ヲ吝マス偉大ノ園庭ヲ築ク者多ケレハ園丁ノ需要ハ甚タ盛ナリ然リ而シテ造庭ノ術養花ノ法ハ我國人ノ特ニ長所ニシテ白人ノ摸似シ得ル所ニ非ス、故ニ此事業モ亦他ニ競爭者無クシテ大ニ愛用セラル可シ

第三　技術手藝者　日本人ノ長所ハ技術手藝ニ在テ歐洲人ノ長所ハ工夫發明ニ存ストハ是レ世界ノ公論ナリ、夫ノ畫工、理髮師、靴匠、刺匠、裁縫、大工、左官、石匠、木綿工匠等ノ如キ事業ハ專ラ手藝ニ屬シ白人ノ競

爭ヒ能ハサル所ナリ故ニ此等ノ徒ニシテ着實ニ其業ニ從ハヽ需要ノ廣キハ疑ヒナシ凡ソ職人ノ海外ニ出テヽ輕蔑セラルヽハ競爭者ノ多キヨリモ彼國ノ風俗ト背馳シ且ツ生計ノ度低キニ由レリ故ニ今後ノ出稼人ニシテ相當ノ生計ト交際トヲ爲シ一ニ技術ノ發揚ニ心ヲ用ヒハ必ス愛用セラルベキナリ

第四　漁夫及鑛夫　日本漁夫ノ敏捷ニシテ勉勵ナル大ニ他國ノ漁夫ニ優リ彼地ノ評判宜シキヨトハ余ノ已ニ述ヘタル所ナリ、サレハ需要者ハ其備入ヲ希望スレトモ惜ヒカナ漁夫ノ性トシテ金錢ニ冷淡ナル其得ル所ハ忽チ之ヲ浪費スルヲ免レス若シ監督者アリテ之ヲ保護スレハ容易ニ巨額ノ貯蓄ヲ爲サシムヘシ、又鑛夫ハ目下支那ノ出稼人次第ニ退クラルヽ際ナルカ故ニ日本人ニシテ身ヲ其業ニ委スルニ至ハ是亦必ス愛用セラルベキナリ

五　職業及賃金

勞働者ノ賃銀ハ其人ノ熟練精巧及勤勉如何ニ由リテ異ルモノナレトモ亦人種ニ因リテ其差ヲ爲スモノアリ即チ白人ハ日本人ヨリ一割五分内外ノ高價ナル賃銀ヲ得レトモ支那人ハ日本人ノ賃銀ヨリ低廉ナルコト大凡一割ナルヲ常トセリ然ルニ支那ノ勞働者ハ熟練勤勉大ニ他國人ニ優ルモノアルナリ、斯ク人種ノ差ニ因テ賃銀ヲ異ニスルハ固ヨリ不正當ノ事ナレトモ被役者ノ位置ニ立ツ以上ハ奈何トモスベカラサルナリ

彼地ニテハ日給ト稱スルモノハ皆日曜日ヲ休業セシメテ其日ノ賃銀ヲ給與セス又勞働ハ通例一日九時間ニシテ諸職業ノ賃銀ハ大略左ノ如シ但時ト處トニ由リ常ニ幾分カ差異アリトス

石匠及煉化石積工ノ日給	四弗乃至五弗

仝	手傳人	仝	一、七五乃至　弗仙
仝	左官	仝	四、乃至　四、五〇　弗仙
仝	船大工	仝	五、
仝	室內裝飾師	仝	三、乃至　四、
仝	色塗師	仝	三、五〇乃至　四、
仝	靴匠	仝	二、乃至　三、
仝	裁縫師男	仝	二、乃至　三、
仝	仝　女	仝	一、乃至　一、五〇
仝	水車働人	仝	一、五〇乃至　二、
仝	卷烟草職	仝	二、五〇乃至　四、
仝	馬車製造人	仝	三、五〇乃至　四、
仝	鉛匠銀治匠瓦斯掘管付匠	仝	三、五〇乃至　四、

仝	機械匠印刑匠紋形匠	仝	三、五〇乃至　四、
仝	埠頭荷扱人	一時間	二四乃至　四〇
仝	麵包燒(賄付)	月給	六五、
仝	屠牛人	仝	七五、
仝	肉切人	仝	七五、乃至一〇〇、
仝	婢	仝	一〇、乃至　二五、
仝	農夫(賄付)	仝	二五、乃至　三〇、
仝	土木技師	仝	四〇、乃至二〇〇、
仝	旅館給仕(男賄付)	仝	二五、乃至　四〇、
仝	仝　(女賄付)	仝	一五、乃至　二五、
仝	電信技師	仝	四〇、乃至　七五、
仝	守舖書記	仝	二五、乃至一五〇、

馬丁	仝	五〇、弗	乃至	七〇、弗
水夫(賄付)	仝	三〇、	乃至	四〇、
木挽工(賄付)	仝	二五、	乃至	三五、
商家ノ手代	仝	五〇、	乃至	一〇〇、
仝 婦人	仝	二〇、	乃至	三〇、
仝 小使	一週間	二、	乃至	三、
仝 下婢	月給	二〇、	乃至	二五、

六、生計ノ費用及物價

生計ノ費用ハ生活ノ程度如何ニ由リ固ヨリ大差アルモノナリ、今高樓大廈ヲ搆ヘ出ツルニ馬車アリ入テハ「シヤンピン」ヲ酌ムカ如キ富豪ノ生計ハ姑ク之ヲ置キ、通常市中ニテ衆人ノ推重スル所ノ者ハ毎月百五十弗以上ヲ要シ之ヲ上等ノ生計ト爲ス之ニ次テ市中ニ一店ヲ搆フ者或ハ番頭、官吏及代言人ノ如キ中等ノ生計ニ立テ毎月七十五弗以上ヲ要シ、職人勞働者ノ如キ下等ノ生計ヲ爲ス者ト雖モ亦猶毎月三十五弗以上ヲ要スヘキナリ

生計ノ度ハ頗ル注意スヘキモノニシテ若シ身分相應ノ生計ヲ爲サヽレハ決シテ同等ノ交際ヲ爲シ利益ヲ受クル能ハサルヤ外來ノ勞働者ニ於テハ殊ニ然リトス、彼ノ支那人カ北米ニテ侮辱ヲ被リシ者ハ各原因アルヘシト雖モ其生計ノ度底キハ亦一大原因タルナリ現今米國ニ出稼セル本邦勞働者ノ如キモ亦白人ニ卑視セラルヽヲ免レサラントス彼勞働者ノ狀況タル五六人一室ニ同居シ日本米ヲ炊キ魚肉ニ滿足シテ我味噌醤油ヲ嘗ムルカ故毎月僅ニ五六弗ノ食費ト二三弗ノ雜費トヲ要スルニ過キスサレハ白人トノ間ニ自然ニ障壁ヲ築クニ至レリ斯ノ如キハ後來日本人ノ膜足ヲ展ス所以ニアラサルナリ但彼ノ書

生ジリ變化セルモノ若クハ舟子ノ脱走者ノ如キハ鄙吝ナルニハアラサレトモ酒色ノ爲メニ一時ニ金錢ヲ浪費スルニ過キスシテ却テ誹謗ヲ受クルヲ免レサルナリ

本邦ノ勞働者ニシテ衣食共ニ本邦ノ產品ヲ需要スルコトハ敢テ不可ナシト雖モ一切生計ノ程度ヲ低下スルコトハ大ニ避ケサルヘカラス居室ヨリ身躰ノ裝飾ニ至ルマテ清潔ヲ旨トシ相當ノ度ヲ守ラハ何ソ擯斥ヲ被ルコトアランヤ下等勞働者相當ノ生計トシテハ一ケ月ニ食料十五弗、室代八弗、理髮一回二十五仙、入浴一回二十五仙、靴及衣服平均三弗、烟草及小雜費三弗、以上合計三十弗ヲ要スヘシ

左ニ晩香波市ニ於ケル諸物價ヲ擧示スヘシ物價ハ時ト處トニ由リ幾分カ差異アルヲ免レザレトモ此表ハ最近ノ調査ニ係ルモノニシテ加拿陀各地ヲ通シテ大ナル差異ナキヲ保スルモノナリ

食品及飲料品		
麥粉	一ペーレル	五弗二五仙乃至五弗五〇仙
同挽割	一封度	五
玉蜀黍粉	仝	五
グラハム粉	仝	四乃至五
燕麥粉	仝	五
日本米	仝	八
支那米	仝	六
豚脂	十封度入桶	一、四〇乃至一、五〇
薰腿		一七乃至二〇
鹹豚肉		一五乃至一八
豚肉(生肉鹽漬)		一五

鰯	全	一錢半	
シヨウダクレツカース		七乃至	八
茶日本井色品	一封度	二五乃至	七五
烏龍茶	全	五〇乃至	一、〇〇
ハイシンクリスタルリキフアスト	一封度	五〇乃至	七五
緑茶	全	三五乃至	一、
珈琲	全	三五	
同爪哇	全	三五乃至	四〇
同リベリア	全	三七乃至	三〇
同コロストタリカ	全	三五	
太豆	全	四乃至	五
砂糖(粒形)	全	一〇	

同(黒色)	全	七、半乃至	八、半
同(黄色)	全	一、	
同(棒)	全	十二、半	
爪哇薯	全	一四分一乃至	一、五
鶏卵	一打	三五乃至	四五
生酪	一封度	二五乃至	三五
乾酪	全	三〇乃至	二五
新玉葱	全	二、半	
	燃料品		
石油	一箱	三、五〇	
	蔬菜類		
玉菜	一封度	二、	

花柳菜	一玉	一九仏	一九仏
蒜類	一封度	二五	二五
蜀椒	仝	二五	二五
蕃薯	仝	五	五
菓物(内外國産)			
檸檬	一打	二五乃至	五〇
苹果	一箱	一、五〇乃至	三、〇〇
蜜柑(ヲレンヂ)	一打	三五乃至	五〇
同(日本産)	一箱	七五乃至	一、二五
鳥類			
鴨	一羽	七五	
肉類		一〇乃至	一八

ステーキ	一ポンド斤ニ付	一二乃至	一五
ロース	仝	一〇乃至	一八
羊肉	仝	一二五乃至	一五〇
小羊肉	一腿	一、二五乃至	一五〇
小牛肉	一ポンド斤ニ付	一二乃至	二〇
臘腸	仝	一五	
鹽牛肉	仝	八乃至	一〇
魚類			
鮭	一尾	二五乃至	五〇
比目魚	一封度	一二半	
鯛	仝	六	
鱈魚	仝	五	

鹽鮭	仝	弗八仙	弗　仙
蛎	一罐	八〇	
牛馬食品			
切草	一噸	三三、乃至三五、	
燕麥稈	仝	二五、	
乾草	仝	一五、乃至二〇、	
藁	一束	一三五	
鐵品(御賣)			二〇
條鐵(大小ニヨリ)	一封度	四半仙乃至十二	
銅鐵(同)	仝	十八乃至二五	
鐵具類(小賣)		一八	
釘	小箱	四、二五	

鋲錠	一打	四五〇乃至一八、	
鐵鍋(大形)	一呎	七五乃至一、	
仝(小形柄作)	一個	一、乃至三、五〇	
斧(柄付)	仝	一、二五乃至一、七五	
鐘(差柄)	仝	一、乃至七五	
牛車	仝	三、	
砥石	仝	三、五乃至五	
太槌(別製銅)	一封度	二五	
鶴嘴	一個	七五乃至一、二五	
熊手	仝	七五乃至一、	
鍬	仝	四〇乃至七五	
張ル紙(建築用)	一封度	二五	

彈丸	一囊	二二五、仏
材木		
橋梁埠頭用材	千呎	一〇、乃至一二、五〇、仏
市街用平板(大小共)	仝	一〇、
建築用粗材	一個	一〇
粗材(形ヲ揃ヘタルモノ)仝		一二、五〇、
樅	千呎	一四、

第十章　官有地拂下借地及歸化法

加拿陀ノ土地ハ中央政廳各州廳及私立會社ノ三管轄ニ分レテ中央政府ハ未州ニ列セサル地方ノ土地及特別ノ官有地ヲ管轄シ、已ニ州ヲ爲セル地方ハ鐵道ノ兩側三十哩ヲ除キ、其州內ノ土地ハ悉ク州廳ノ管轄ニ屬スト雖トモ會社ノ管轄ハ政府ヨリ事業補助ノ爲メ下附シタル土地ニシテ太平洋鐵道會社ハ鐵道線路ニ沿ヒ其兩側ニテ二千五百万噸ノ土地ヲ有シ又ハドソン灣會社ハ七百万噸ノ土地ヲ有セリ、總テ會社ノ所有地ハ時價ヲ以テ所望者ニ賣渡スナリ、現今ニテ地價ハ未開地一噸二弗五十仙、開拓地同十弗乃至百弗ナリ、土地拂下及借地ノ規則ハ各州共ニ大同小異ナレハ茲ニ英領哥倫比亞州ノ規則ヲ示サン

英領哥倫比亞州ニテハ官有地ヲ分テ測量地及未測量地ノ二種トス、之ヲ人民ニ拂下クルニモ二種ノ區別アリ、一ヲ賣賣法ト云ヒ一ヲ拂下法ト云フ、賣賣法ニ依リ買受ノ登錄ヲ出願シ得ルモノハ英國臣民ニシテ十八歲以上ニ達シ、登錄規則ニ遵ヒ相當ノ手數料ヲ納ムル者ニ限リ、外國人ニアリテハ英國臣民タランコトヲ誓ヒ其旨趣ヲ表明スルニアラス

之ヲ出願スル資格ナシ、拂下法ハ内外人ヲ問ハス時價ヲ以テ購買セント欲スル者ニ許可ス、拂下ヲ受ケタルトキハ當然所有權ヲ得可シ

第一項　豫賣登錄法

(一)　豫賣登錄ヲ爲シ得ヘキ土地ノ面積ハ一名ニ付カスケート山以東ハ三百二十噸ヲ限リ、其他ノ州界内ハ百六十噸ヲ限ルモノトス

(二)　豫賣登錄ヲ許可シタルトキハ一噸ニ付一弗ヲ拂フヘシ其拂込期限ハ四ヶ年賦モシクハ登錄シタル後二年目ヨリ始メ一噸ニ付毎年二十五仙宛ヲ納ムヘシ

(三)　出願書ハ二通ヲ認メ地形方向ヲ詳記シ之ト共ニ必ス其地ニ移住スヘキ誓文ヲ差出スヘシ

(四)　登錄濟ミシ土地ハ其所有權ヲ得ルニ至ルマテ賣買書入質入等ヲ爲スコトヲ許サス

(五)　登錄シタル土地ハ其四隅ニ四寸角ノ目標ヲ建テ姓名ヲ記入シ東西南北ヲ示スヘシ

(六)　移住民ハ登錄後三十日目ニハ必ス其地ニ移ル可シ但代人ヲ移スモ妨ナシ(土人及支那人ハ代人タルコトヲ得ス)

(七)　本人或ハ代人ニシテ二ヶ月以上引續キ外出シ又ハ一ヶ年中不在ノ日數前後通計シテ四ヶ月以上ニ渡ルコトヲ許サス

(八)　地代ハ皆納シ其地ノ測量ヲ終リ十分移住ノ證跡アリト認ムルトキハ土地所有權狀ヲ與フヘシ、土地所有權狀ヲ得タルトキハ其手數料トシテ五弗ヲ納ムヘシ

(九)　豫賣登錄出願ハ一人一ヶ所ニ限ルヘシ故ニ重テ出願スルモソハ前ノ願書ヲ取消スヘシ

(十)　四人以下ハ連合シテ豫賣登錄ヲ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ人數ニ應シテ前記ノ地面ヲ附與スヘシ、然レトモ其地ニ代人ヲ置クトキハ一人ニテ差支無シ

第二項　森林借區法

材木營業ノ目的ヲ以テ官有森林借區ヲ出願スルコトヲ得ヘシ其期限ハ三十ケ年ヲ超過スルコトヲ得ス、借區料ハ一噸ニ付毎年十仙、外ニ材木千尺ニ付五十仙ヲ上納スヘシ、右ノ場合ニハ借區人ハ州内ニ於テ一ケ所ノ木挽場ヲ建築シ四百噸ノ森林ニ付毎日千尺以上ノ木ヲ挽キ切ラサルヲ得ス

第三項　鑛山借區法

(一)　自由鑛山師ハ必ス官許ヲ受クヘシ、官許ヲ受クサル人ハ採鑛出願ノ權ナキモノトス

(二)　自由鑛山師ハ年齡十六歲以上タルヘシ

(三)　免許料ハ一ケ年五弗或ハ三年間十五弗ニシテ他人ニ讓與シ又ハ書入質入スルヲ許サス

(四)　採鑛出願者一名ニ付二ケ所ヲ超過スヘカラス

(五)　鑛山ヲ發見シテ採鑛セントスルモノハ自己ノ事務所ヨリ十哩以内ハ三日内ニ出願登錄スヘシ、十哩以上ハ十哩毎ニ同一ノ猶豫ヲ與フヘシ

(六)　鑛山ノ所有權ヲ得ントスルモノハ一噸ニ付五十弗ヲ拂フヘシ

(七)　採鑛ヲ許可セラレタル鑛山ハ毎年二百弗以上ノ資本ヲ投シテ以テ事業ヲ繼續スヘシ

(八)　鑛山稅ハ毎年十二月三十一日ヲ以テ一噸ニ付一弗ツヽヲ上納スルヤシ

(九)　外國人及州外ノ鑛業會社ニテモ州ノ法律ヲ遵奉スルトキハ採鑛鑛及其他ノ鑛務ニ從事スルコトヲ得ヘシ

第四項　牧場借區法

牧場ハ廣キ地面ヲ要スルカ故ニ豫賣登錄ノ手續ニ準シ一時借地ヲ出願スルヿヲ得ヘシ而シテ借區ノ許可ヲ受ケタル後ニ買受ノ手續ヲ爲スモノヽ其規定ハ

(一)　借地ハ人口付千芳噸ヲ限リトス

(二)　借地期限ハ三十一ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス

(三)　借地料ハ噸當付年三仙トス

(四)　三ヶ年後ハ一頭ニ付十噸ノ割合ヲ以テ其牧場ニ飼養スヘキ家畜ノ現數三分ノ一以上ニ割賦シ徵收スヘシ

(五)　家畜ノ頭數ニ割賦シ借地料ヲ徵收シタル後ハ政府ヨリ其地所ヲ買受クルコトヲ得ヘシ此場合ニハ一噸ニ付二弗五十仙ヲ拂フヘシ

第五項　合衆國土地拂下法

合衆國ノ官有地拂下法モ亦加拿陀ニ均シク各州ノ規定ニ依リ施行スルモノニシテ何レモ大同小異ナリ茲ニ合衆國カリホルニヤ州ニ於ケル規定ノ大要ヲ掲ケテ參考ニ供セン

該州ニテ官有地拂下ニ三種ノ方法アルコトハ猶英領哥倫比亞州ノコトク而シテ「ホームステッド」法ニ據リ加拿陀ニ於ケル如ク豫賣登錄ヲ出願スルコトヲ得ヘキモノハ合衆國ノ眞民ニシテ二十一歲以上ノ男